

532
132

6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始



8.1

9.2.27

532-132

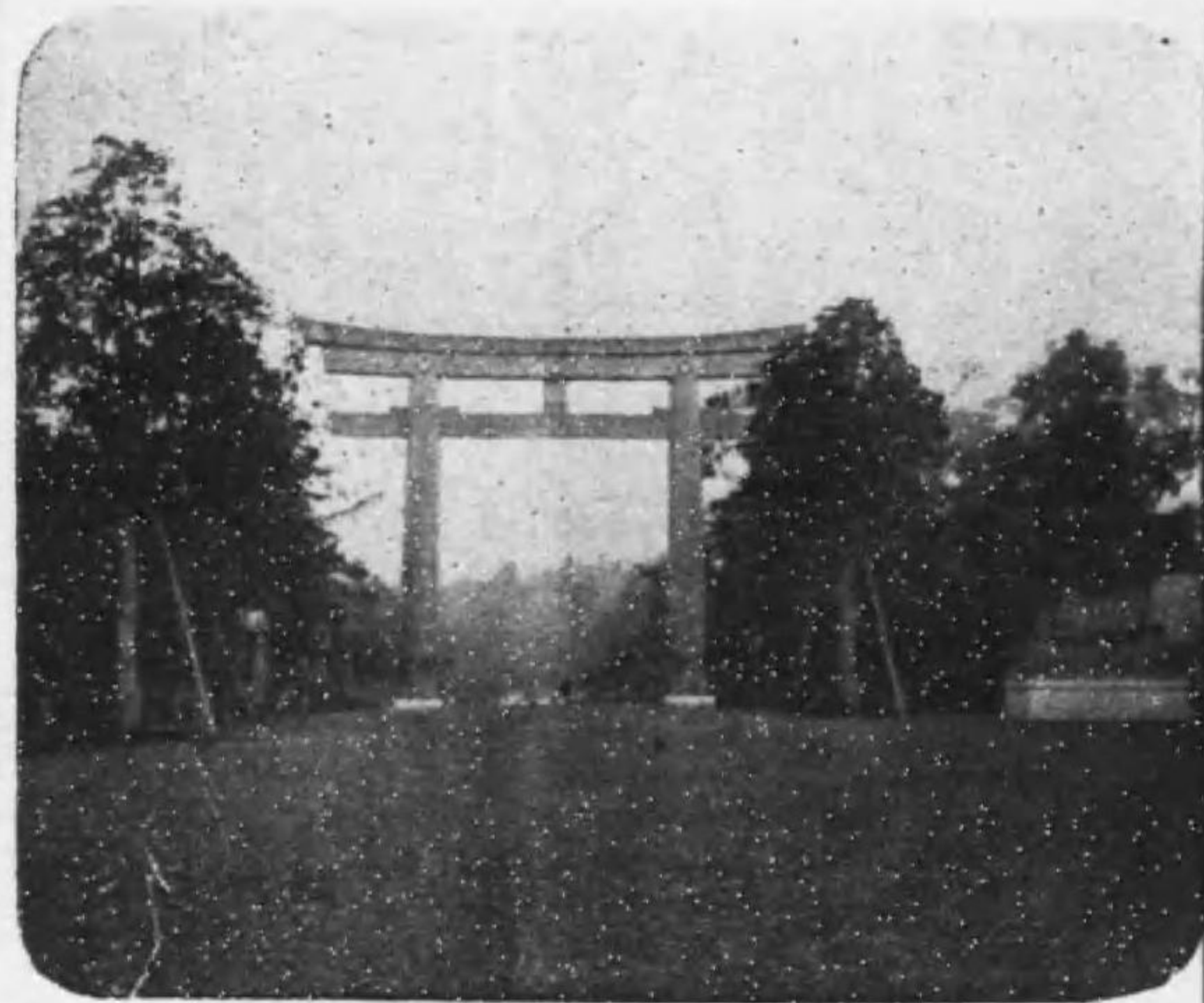


楽しい一日二日の旅

高橋壽恵著

正
14.6.4
内交

~~~~~



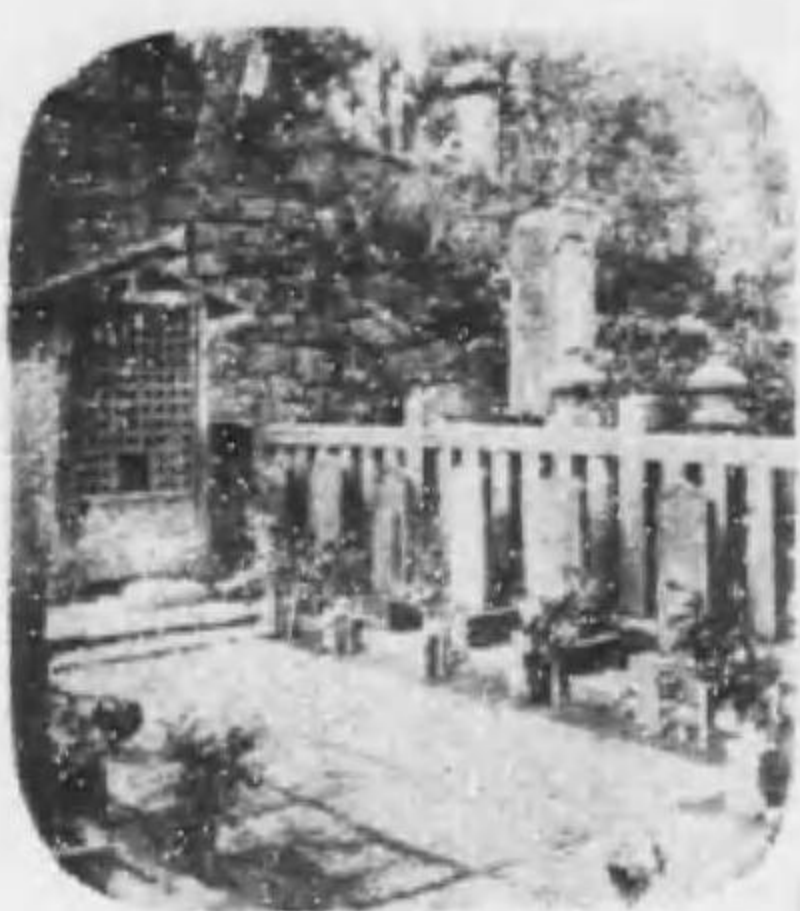
（口入道參南）居鳥ノ一宮神治明 ✓



殿本宮神治明 ✓



場戰古原河倍分



(墓七十四)寺岳泉輪高



園公頭の井



堤：櫻の井金小



社神戶亀



岬若犬子銚



臺燈の岬吠犬



門明陽宮照東光日



橋神御光日



殿本御山體女



宮神島鹿



瀧の嚴華光日



照夕の根利



(島樹大及島梅) 島 松



社 神 釜 塩



(暮 夕 の 堂 大 五) 島 松



(湯 の 瀧) 泉 温 坂 飯



(望 遠 の 山 體 男 り よ 浦 ケ 歌) 湖 寺 禪 中



泉 温 須 那



流 溪 の 川 帯 原 掬



(杉 さ 逆) 原 掬



(池御の金黃)社 神 登 寶 泉 温 保 香 伊



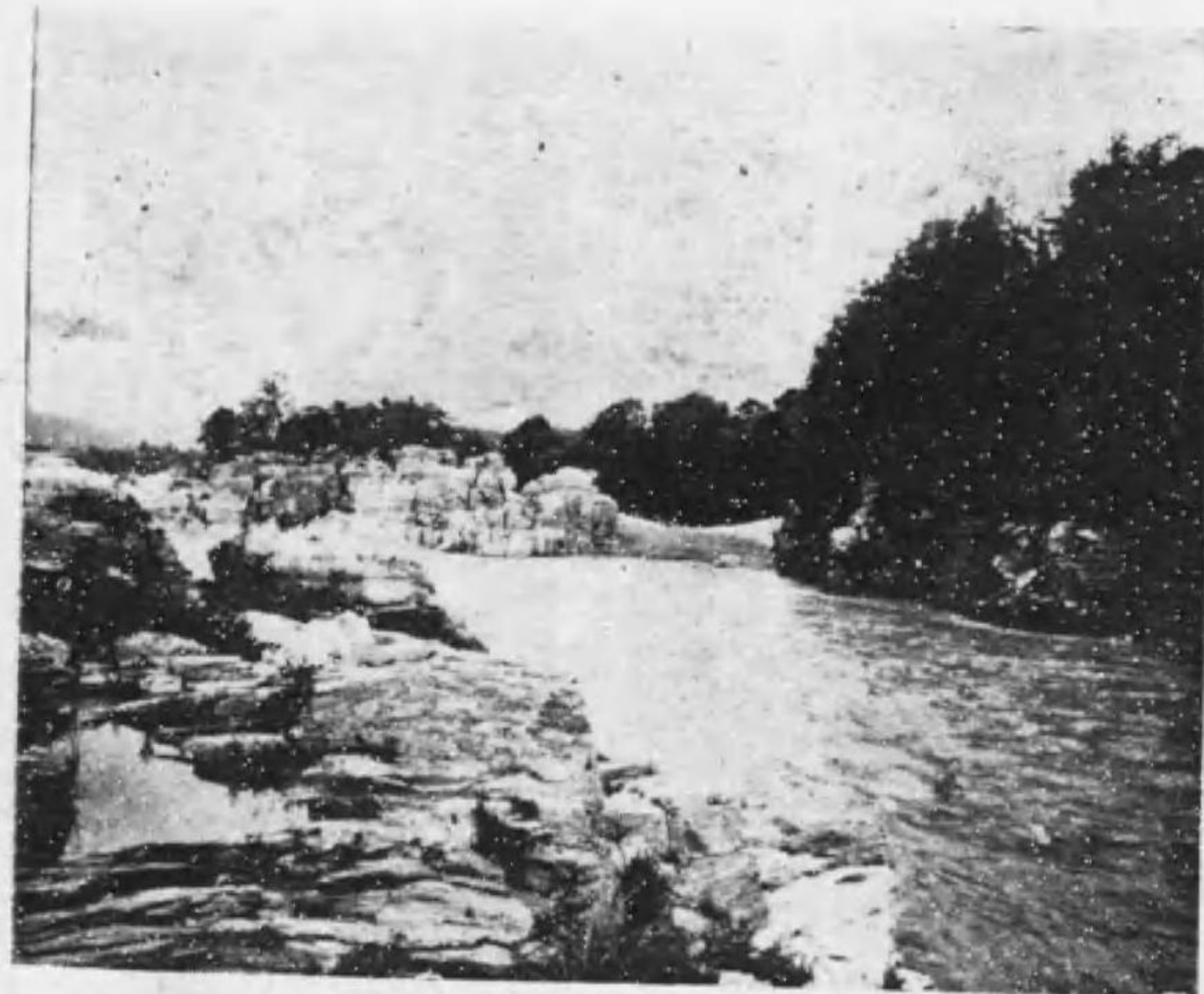
士 富 名 榛 と 湖 名 榛



社 神 名 榛



泉 温 澤 鹿



(壁:赤父:秩)景 奇 の 瀨 長 父 秩



リ 下 舟 の 川 荒 父 秩





洞乳鐘原日



望遠の臺晴見山尾高



山梯磐と湖代苗猪



流上の川摩多



(近附館旅瀧動不) 泉温山東



佛大倉鎌



宮幡八岡ヶ鶴



島の江



原松の園公岸海津沼



山雲白義妙



社神義妙



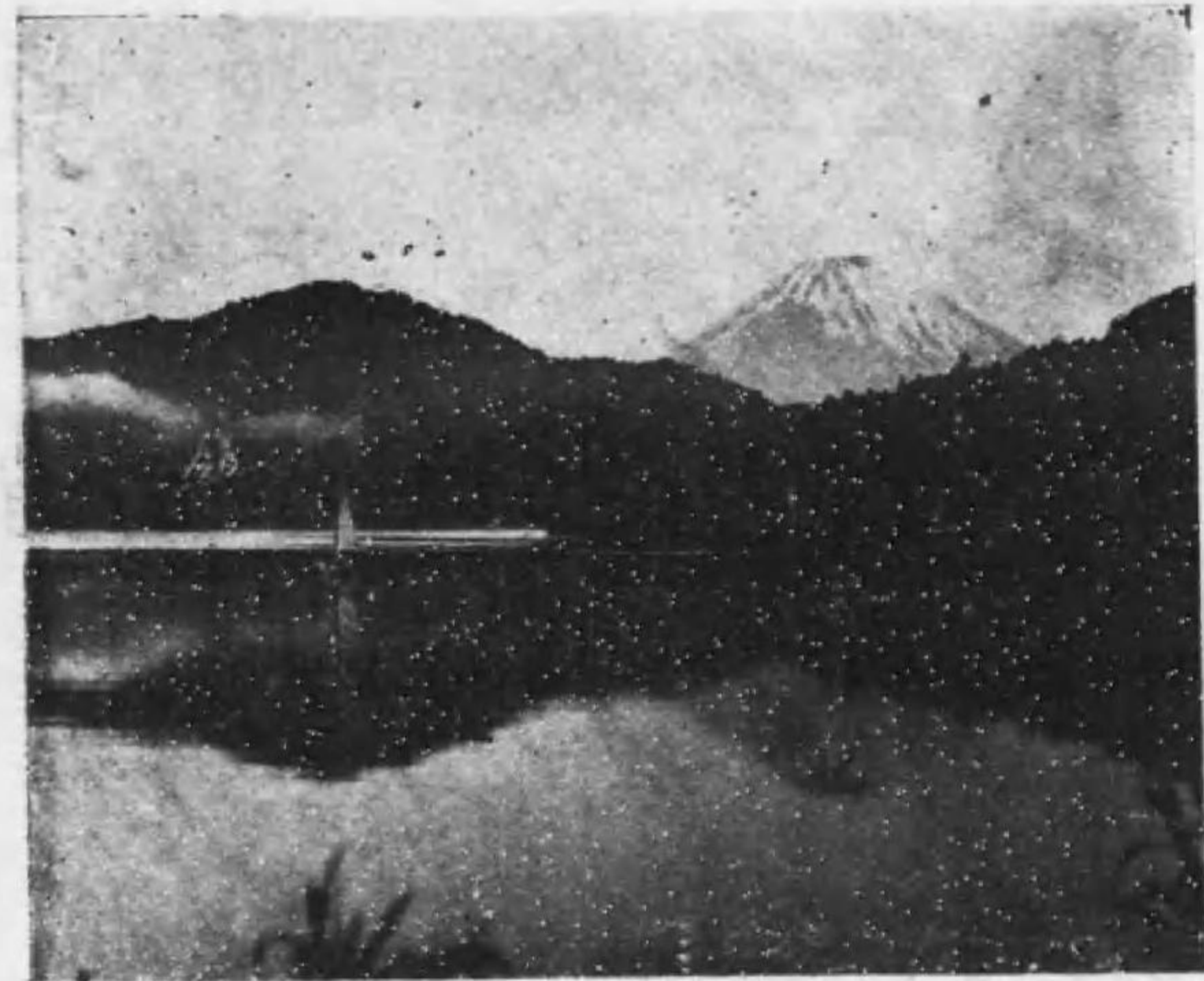
嶽旭山義妙



平の熊澤井輕



箱根蘆の湖畔



蘆の湖の倒富士



小湧谷千條の瀧



箱根大湧谷附近



箱根強羅公園



箱根蛇骨川の溪流



修善寺温泉



湯ヶ島温泉



伊豆山温泉



熱海の梅園



熱海の海岸街



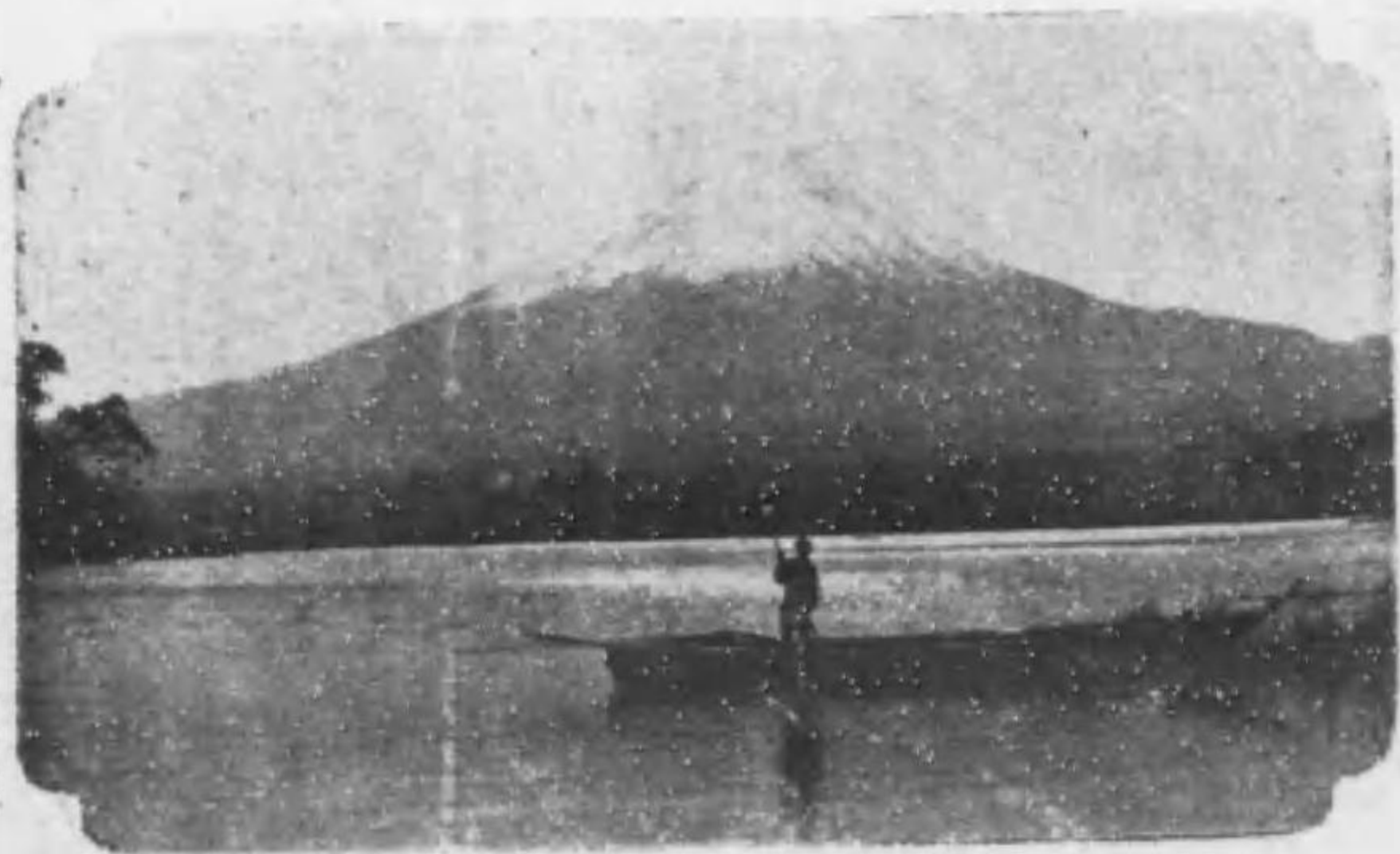
熱海の海岸浦



本日アプル白馬連峯



本日アプル燕嶽



富士の遠望



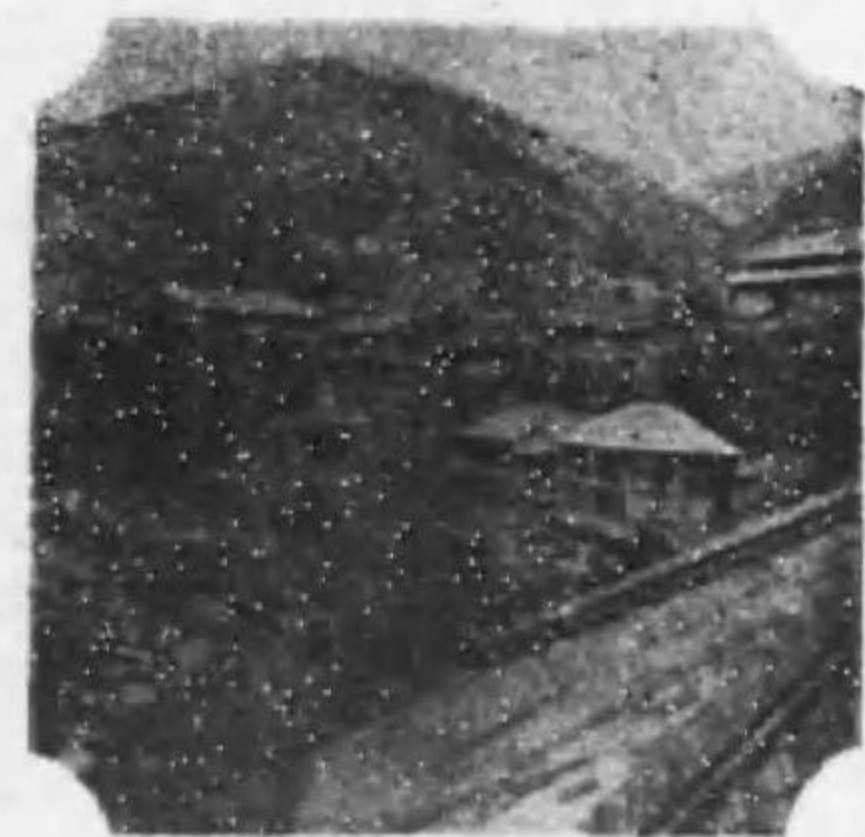
長岡温泉



吉奈温泉



南豆勝池養掛魚



湯ヶ野温泉



石廊崎燈臺



富士川の釣橋



木曾路の紅葉



志比禮湖の富士

はしがき

其處には萬丈の紅塵がたちまようてる！ あらゆる刺戟が耳目を悩ましてゐる！ 其の中に集中してゐる人達は日夜生活に營々としてゐる！ そして疲れてゐる！ これが都人士の生活の状ではあるまいか。

併しながら一步都門の外に踏み出せ！ 其處には大自然が展開してゐる！ 其の美！

其の恵み！ 登らんとすれば靈峯あり、浴せんとすれば清泉あり、千里つゞく大洋の清渌あり、氣は澄んで身は大自然の懷に抱かれてしまふ。

まして其の間名勝史蹟を探らんか、自然の極美に身も心も溶け入り、溢るゝ懐古の情緒に身は歴史中の人と化してしまふ。

けにや都人士が生くべき唯一の道は郊外に遊ぶにある。行けく海へ山へ！ 道連れは此の書！

大正十四年四月

著者識

東京郊外 楽しい一日二日の旅 目次

〔東郊の部〕

一、江東、柴又方面

|          |       |        |       |   |
|----------|-------|--------|-------|---|
| 龜井戸附近    | ..... | (市内電車) | ..... | 一 |
| ●向島附近    | ..... | (市内電車) | ..... | 四 |
| ×四木、立石附近 | ..... | (京成電車) | ..... | 七 |
| 中川及木下川附近 | ..... | (總武本線) | ..... | 九 |
| 柴又、小岩附近  | ..... | (京成電車) | ..... | 二 |

二、市川、行徳、中山、船橋方面

目次

目次

市川附近……………(總武本線)……………二二

中山附近……………(京總武本線)……………二八

行德、浦安附近……………(舟城東電行)……………二二

船橋、習志野附近……………(京總武本線)……………三三

三、千葉、成田、印旛沼、佐原方面

稻毛、幕張附近……………(總武本線)……………二五

千葉附近……………(總武本線)……………二七

佐倉附近……………(總武本線)……………三一

八街、日向附近……………(總武本線)……………三三

成田、滑河附近……………(成田線)……………三四

印旛沼附近……………(總武本線)……………三七

佐原附近……………(成田線)……………三六

四、銚子、一ノ宮、大原、勝浦、鴨川方面

銚子附近……………(總武本線)……………四三

飯岡、八日市場附近……………(總武本線)……………四七

成東、松尾附近……………(總武本線)……………四九

大網、東金、茂原附近……………(房東金總線)……………五〇

一ノ宮、大原附近……………(房總線)……………五三

御宿、勝浦附近……………(房總線)……………五五

小湊、鴨川附近……………(房總線)……………五七

五、八幡宿、木更津、北條、波太方面

目次



目次

|               |       |       |   |
|---------------|-------|-------|---|
| 八幡宿、木更津、上總湊附近 | ..... | (北條線) | 六 |
| 鋸山、勝山附近       | ..... | (北條線) | 六 |
| 北條附近          | ..... | (北條線) | 六 |
| 千倉、波太附近       | ..... | (北條線) | 七 |

六、手賀沼、土浦、水戸、平潟方面

|            |       |       |   |
|------------|-------|-------|---|
| 松戸、流山、野田附近 | ..... | (常磐線) | 七 |
| 手賀沼、我孫子附近  | ..... | (常磐線) | 七 |
| 取手、牛久沼附近   | ..... | (常磐線) | 七 |
| 土浦、石岡附近    | ..... | (常磐線) | 八 |
| 水戸、太田附近    | ..... | (常磐線) | 九 |
| 大洗附近       | ..... | (常磐線) | 九 |

|             |       |       |    |
|-------------|-------|-------|----|
| 河原子、松原、平潟附近 | ..... | (常磐線) | 一〇 |
| 水海道、下妻附近    | ..... | (常磐線) | 一〇 |
| 結城、下館、笠間附近  | ..... | (水戸線) | 一〇 |

〔北郊の部〕

一、江北、粕壁、大宮、宇都宮、日光、松島方面

|             |       |       |    |
|-------------|-------|-------|----|
| 西新井、江北附近    | ..... | (東武線) | 一四 |
| 蒲生、越ヶ谷、粕壁附近 | ..... | (東武線) | 一七 |
| 久喜、加須、羽生附近  | ..... | (東武線) | 一八 |
| 王子、瀧ノ川附近    | ..... | (東武線) | 一三 |

赤羽、板橋附近……………(山手線)……………一六六

浦和、大宮、岩槻附近……………(東北本線)……………一七九

栗橋、古河附近……………(東北本線)……………一三五

小山、宇都宮附近……………(東北本線)……………一三九

日光附近……………(日光線)……………一四六

鹽原、那須附近……………(東北本線)……………一五六

松島附近……………(東北本線)……………一六六

二、熊谷、秩父、高崎、伊香保、栃木方面

上尾、鴻巣、熊谷附近……………(高崎線)……………一七二

秩父、長瀨附近……………(秩父鐵道)……………一七六

深谷、本庄、兒玉附近……………(高崎線)……………一八一

倉賀野、高崎附近……………(高崎線)……………一八四

前橋、伊香保附近……………(上越線)……………一八七

伊勢崎、桐生、足利附近……………(東武線)……………一九三

足尾附近……………(足尾線)……………一九九

館林、太田附近……………(東武線)……………二〇三

〔西郊の部〕

一、雑司ヶ谷、世田ヶ谷、府中、川越、

立川、青梅、八王子方面

雑司ヶ谷附近……………(市内電車)……………

練馬、石神井、野火止附近……………(武蔵野線)……………

淀橋附近……………(市内外)  
 三軒茶屋、駒澤附近……………(玉川電車) 二三五  
 玉川、二子附近……………(玉川電車) 二三五  
 調布、府中附近……………(京王電車) 二二七  
 中野、井ノ頭、國分寺附近……………(中央本線) 二二六  
 東村山、所澤附近……………(武蔵野鐵道) 二四五  
 飯能附近……………(武蔵野鐵道) 二五〇  
 川越、入間川附近……………(東上線) 二五三  
 坂戸、松山附近……………(東上線) 二五七  
 立川、日野附近……………(中央本線) 二六〇  
 羽村、青梅、日向和田附近……………(青梅鐵道) 二六五  
 八王子、高尾附近……………(中央本線) 二六八

一、猿橋、甲府、諏訪方面

與瀨、猿橋、笹子附近……………(中央本線) 二七二  
 甲府附近……………(中央本線) 二七七  
 諏訪附近……………(中央本線) 二八五  
 三、妙義、淺間の二山と碓氷峠の紅葉  
 妙義附近……………(信越本線) 二八九  
 淺間附近……………(信越本線) 二九二  
 碓氷の紅葉……………(信越本線) 二九六

〔南郊の部〕

- 一、品川、横濱、大船、藤澤、江の島

鎌倉、横須賀方面

目黒、品川附近……………(山手線)……………二九九

大森、羽田附近……………(京濱線電車)……………三〇六

川崎、鶴見附近……………(京濱線電車)……………三一五

横濱附近……………(京濱線電車)……………三二〇

杉田、金澤附近……………(東海道本線)……………三二四

戸塚、藤澤、茅ヶ崎附近……………(東海道本線)……………三三〇

鎌倉、江ノ島附近……………(横須賀線)……………三三四

逗子、葉山附近……………(横須賀線)……………三四六

横須賀、浦賀附近……………(横須賀線)……………三四八

三崎附近……………(舟行)……………三五二

二、大磯、箱根、富士、熱海、修善寺方面

平塚、大磯附近……………(東海道本線)……………三五七

國府津、小田原、松田附近……………(東海道本線)……………三六四

箱根附近……………(熱海線)……………三六七

湯河原、熱海、伊東附近……………(熱海線)……………三七六

富士山……………(東海道本線)……………三八〇

三島、沼津附近……………(東海道本線)……………三八八

韮山、修善寺附近……………(駿豆鐵道)……………三九〇

〔目次終〕

東京 郊外 楽しい一日二日の旅

〔東郊の部〕

一、江東、柴又方面

〔龜井戸附近〕

(龜井戸天神、妙見堂、江東梅園、吾嬬神社、目寅不動、)



龜井戸天神 市電柳島停留場から南約五町、梅に藤に杖を曳く人が多い。又開運雷除けの御札受けに賽者夥しく、天神に對する民間信仰が此處によく伺はれる。

抑々此の社は、正保中太宰府の神職大鳥居信祐が靈夢に感じて飛梅を以て神體を彫り、

龜井戸附近

遂に寛文元年八月二十三日此の地(今の社地から六七町東)に遷祀したのに創り、同三年に至り將軍家綱の命に依つて神殿・反橋・心字池等悉く太宰府に擬して造られ、此の地の守護神として東太宰府と稱せられたといふ。但し今の社殿は、延享二年二月五日の火災後再建せられたもので、結構の壯麗昔時に比すべくもないとはいへ、猶ほ今日府社として江東工業地帯の一角に儼然一神域を劃してゐる。境内には本社の外末社も數多ある。

初卯を始め、正月二十五日のうそかへ(鶯替へ)の神事(年中の凶事は皆うそになれかしと祈る)、追儼の神事は、昔ながらにいと厳に行はれて參詣者が多い。

天神から西北約二町、萩寺の稱ある龍眼寺(天台宗)は、元祿中時の住職元珍和尚が萩を好んで其の庭に多く移し植ゑて以來、世に聞えて東都の一名所となり、文人雅客の訪ふ者が多かつたが、惜しむべし、水害の爲近來衰へて、萩は殆ど寺の名にのみ残る有様となつた。

#### 妙見堂

柳島の電車の終點の右手、妙見山玄和院法性寺(法華宗)といひ、白蛇の傳説で

話はれ、冬至の夜の星祭で賑ふ妙見様である。其のかみ本尊が降臨になつたといふ影向の松の朽木が堂の前に残つてゐる。

天神から東北三町餘、臥龍梅の名に高かつた梅屋敷は、今は民家が隙間もなく立ち並んで跡方もない。

#### 江東梅園

臥龍梅は亡びたが、新しく榮え行くのは、同所跡から北十間川を渡り東北約三町の此の梅園である。木は未だ若い、早春清遊の場所として好適である。

#### 吾孀神社

臥龍梅跡から東二町許り、銅鳥居の奥に小社がある。日本武尊が東征の際橋姫の御身と共に沈んだゆづりは、鏡を白虎神に命じて取らせ、穂積家に残されたのを正治年間穂積家の末裔が此の鏡を御神體として姫を祀つたのが此の社であるといふ。

#### 目黄不動

龜井戸驛から總武線に乗つて、次驛平井で下りると、東南三町(南葛飾郡小松川町)、牛竇山最勝寺即ち目黄不動がある。五色不動に賽せんと思ふ人は、此處にも足を運ぶべきであらう。驛の西南二町には聖天堂がある。

〔向島附近〕（七福神詣、木母寺、梅若塚、百花園、）

七福神詣 向島こそは、江戸人士の趣味生活の享樂地であつた處。今も吾妻橋を渡り、枕橋を過ぎて、所謂墨堤に踐み入ると、既に昔文人墨客の來往した當時のゆかしいカラーが、そこはかとなく漂うてゐる。

先づ名高い七福神詣をみると、特に其のカラーが濃く浮き出て來る。三圍神社（祭神、宇迦御魂命）の惠比壽大黒に額づけば、兩福神がニコ／＼笑うてをられる。昔三井寺の源慶僧都が、當社の荒廢したのを慨いて再興せんとし、靈夢によつて、社壇から老翁の白狐に乗つて右手に寶珠を左手に稻を荷つた神像を得た時、忽然として一匹の狐が現れて、神像を三度圍つて消え失せたによつて、三圍の地名が起つたと云ふ傳説を思ひ出るのも面白く、又境内に所狭く建てられた俳句や川柳の碑を見るのは更に興が深い。彼の鬼神を感じ

しめた有名な其角の句碑もある。

次は三圍の先きの長命寺（寶壽山遍照院、天台宗）の辨財天、此の尊像は傳教大師一刀三禮の名作と傳へられてゐる。本堂右側の井戸は長命水と稱せられ、寛永中三代將軍家光鷹狩の歸途俄に腹痛を發して此處に憩ひ、此の井の水を以て服藥し、忽ち快癒したによつて今日の寺號に改めたと傳へられてゐる。此の境内にも例の文人の碑が多く立ち並んでゐるが、花より團子と思ふ人は、それよりも名物櫻餅が向くであらう。馬琴も「一年の仕入高櫻葉漬込三十一樽、葉數七十五萬五千枚なり……年中平均して一日の賣高四貫三百四文三分づゝなり……」と記してゐて、昔から聞えたものである。

此處から東半町弘福寺（牛頭山、黄蘗宗）は布袋様。

其の次は百花園の福祿壽、門には蜀山人の花屋敷の額がかかつてゐる。名の通り百花が四時咲き満ちて、遊覽者の絶える時なく、特に秋草を愛でる人が多い。江戸時代から文雅の士の集會所となつてゐた處で、今も園内の碑石に其の名残が偲はれる。

白髭神社は、其の白髭の名から之を壽老人と唱へて、七福神の中に數へられてゐる。祭神は猿田彦命。近江の白髭神社の分社であるといふ。境内に橋千蔭書の縁起碑がある。最後は多聞寺の毘沙門天、白髭神社から約十町、寺は隅田山吉祥院と號す。本尊の毘沙門天は弘法大師作と傳へてゐる。狸塚の傳説があるが、今其の塚はない。

木母寺・梅若塚 鐘が沈んだので其の名を得たといふ鐘が淵に近く尋ねべきは、梅若の哀れな傳説に名の高い木母寺である。梅柳山隅田院と號し、天台宗に屬してゐる。

吉田の少將惟房を父とし、美濃國野上長者の女花子を母とし、此の世の幸福の絶頂にあるべかりし梅若は、七歳にして父に別れて叡山に入つたが、遂に安住の境地なく、十二歳にして山を出たのを、信夫の藤太に拐かされて、東路の憂き旅寢に身も心も疲れ、遂に此の河畔に至つて、「尋ね來て問はゞ答へよ都鳥、隅田川原の露と消えぬ」との一首を残して貞元元年三月十五日果敢なくなつたのを、來合せた忠圓阿闍梨が塚を築いて弔つたのが、此の寺の縁起であるといふ。

梅若塚は方二間の小堂である。堂の後の印の柳に薄幸な梅若の靈を弔へば、梅若の死んだ翌年此處に尋ね來て、狂うて同じく身まかつたといふ母の心根も想ひやられて哀れである。境内に天下の糸平の墓や榎本武揚の銅像等がある。

七福神の外に残る名所として牛の御前や水神の社があるが、向島としては皆クラシカルなものとなつてしまつて、今は年中行事の一となつたボートレース、鐘ヶ淵の紡績工場を背景として、現代式のカラーに遊覽者の數を最も多く集めてゐる。

### 〔四つ木、立石附近〕

(四つ木園、吉野園、堀切の菖蒲、西光寺、葛西清重の墓、熊野神社)

四つ木園 本所押上から京成電車で四つ木まで賃金片道十錢。四つ木園は鷹番前橋を渡つて右へ約二町、広い菖蒲園の中に藤棚あり、中央には釣り堀もある。

吉野園 四つ木園と程遠からぬ處、廣さ一萬餘坪、菖蒲を始め梅樹も多く、其の他四季四つ木、立石附近



## 四つ木、立石附近

の花の見所が多い。

**堀切の菖蒲** 吉野園から北西約十町、汽船を利用して鐘ヶ淵から來てもよいし（約十五町）、淺草から東武線を利用してよい。世に聞えた菖蒲の名所、園は今三つある。小高園と武藏園とは、既に徳川の末期から名を得てゐるが、堀切園は數年前の開園である。

**西光寺** 京成電車四つ木停留場から約二町、曳船に臨んでゐる。寺は今天台宗、超越山と號する。頼朝擧兵の際關東の名族として其の麾下に屬し、屢々軍功を立てた葛西清重の創造と稱せられてゐる。本尊阿彌陀如來は、親鸞上人が關東地方巡錫の際、清重の館にあつて親しく筆を執られたものであるといふ。清重の遺物と傳へられる長刀は國寶となつてゐる。

寺背の清重塚といふ小丘は、清重稻荷と稱した小祠の跡で、其の墓だといふ五輪の塔がある。

**熊野神社** 電車を四つ木の先きの立石で下りると、熊野神社と極樂寺とがある。神社は

約一千年前一條天皇の御代に、安部清明が、紀州熊野神社を分祀したものであるといふ。極樂寺は青砥藤綱の建立で、其の守護神たりし辨財天を本尊として安置してある。

## 〔中川及木下川附近〕

（中川番所跡、木下川藥師、木下川梅園、次郎兵衛の梅）

**中川番所跡** 京成電車の立石と高砂との間を流れてゐる川が中川で、江戸時代に治水の爲開鑿せられた事は人のよく知る所、鯉釣りに出かける人が多い。其の下流小名木川と合する處が江戸時代に中川番所のあつた處で、當時江戸から行徳方面に往來する舟を査檢したのである。もと深川にあつたのを寛文元年六月此處に移したので、當時は東西二十六間南北十七間餘もあつたといふ。今其の跡として認むべきものはないが、此處に來て當時の番所通航の掟等をたどると、昔に威儀を正してかまへてゐた番士の狀までも漫に偲ばれる。

## 中川及木下川附近

## 中川及木下川附近

**木下川薬師** 番所跡から上に遡れば、本田村上木下川に達する。木下川薬師は、隅田川放水路の堤防の下、京成電車四つ木停留場から約十町の處にある淨光寺（青龍山薬王院、天台宗）の本尊である。寺は慈覺大師の創建、薬師佛は傳教大師の作と稱せられてゐる。近古以來屢々兵燹に罹つて荒廢してゐたのを、徳川時代に至り、其の祈願所となつて再び隆運に赴いたが、更に其の末期から衰廢し、明治に至つて特に甚しく、剩へ其の寺地が隅田川の放水路に當つてゐた爲、數年前今の處に移轉するに至つた。

**木下川梅園** 勝家の所有庭園、園内は閑雅で梅樹が多かつたが、これも近年荒川工事の爲、其の大半を破壊せられて、今は名に伴ふ實がない。

**次郎兵衛の梅** 江東梅園（龜井戸の項参照）から半里、中川へ出口の左側の農家にある。梅は多く古木で、庭もまた見所が多い。

## 〔柴又、小岩附近〕

（柴又帝釋天、江戸川堤の櫻、小岩不動、小岩番所跡）

**柴又帝釋天** 押上から京成電車、高砂停留場乗換、柴又下車、片道賃金十六錢。或は常磐線金町驛から電車、賃金合計二十二錢。寺は經榮山題經寺（法華宗）、寛永六年本山十九世日忠の創建、本尊帝釋は日蓮上人の自彫であるといふ。此の本尊は一時所在不明となつてゐたが、安永八年本堂再建の際棟上から發見されたといふ。長さ二尺五寸、幅一尺五寸餘、厚さ五分許りの板に刻され、病即消滅とある。

而して此の像の發見された日が庚申に當つてゐたので、爾來庚申の日を縁日としてゐるが、何がさてこの奇瑞によつて流行佛となつてゐる帝釋様の事として、此の日は京成電車も常磐線も車臺列車の臨時増發を行つてゐるが、何れも押し合ひへし合ひの大混雜である。本堂の外祖師堂もある。境内に近い川甚は、川魚料理で名が高い。鯉のあらひが名物であ

柴又、小岩附近

## 柴又、小岩附近

る。

柴又の東北一里半、中川に臨んで龜有と相對してゐる新宿は、往時千住の次驛、水戸街道と佐倉街道との岐路として榮え、又名物中川の鯉に江戸人士の足を運ばしめたものであつたが、今は只さびれ行くのみである。

**江戸川堤の櫻** 柴又から江戸川に沿うて市川の方へ下ると、里餘の長堤はすべてこれ櫻舟のある花時はいはずもがな、新緑を追うて江戸川の清風に吹かれるのも快い。秋はまた蘆荻が風にそよいで閑寂な氣分を味ふによい。柴又から金町驛の方に上るには、堤道十町餘、更に田圃道七八町。

**小岩不動** 總武線小岩驛から南約十五町、兩國から賃金十五錢。京成電車江戸川停留場から約六町、江戸川に近い善養寺の境内に祀られてある。

不動様と共に名高いのは境内の星下り松、山門を入つて左手にある。横に廣がること約十間四方、珍しい名木であるが、星下りの松といふ名の傳説が面白い。それは今から約二

百年前、此の寺の住職の徳を慕つて星が數夜つづいて降つた故であるといふ。其の隙石は今寺寶となつてゐる。

山門の右手にも珍しい枝垂れ松がある。例の不動堂は此の下にある。

**小岩番所跡** 小岩驛から約十五町、千葉街道の江戸川にかゝる手前にある。汽車路も電車路もなかつた昔の世には、此處が武州の關門となつてゐたのも、さもこそとうなつかれる。昔は二ヶ所に木戸を設け、番士は二十三石餘の手當を受けてゐたといふ。

## 二、市川、行徳、中山、船橋方面

## 〔市川附近〕

(手兒奈靈堂、巖橋、弘法寺、兵營、總寧寺、里見公園、國分寺、市川桃林)

## 概説

市川附近 押上から京成電車で約三十分、賃金十九錢。汽車なら兩國から二十八分、賃金

二十一錢。利根川や荒川の作った沖積平野を走つて行くと、やがて行手に洪積層に属する下總臺地の横はつてゐるのを認める。江戸川を渡つて市川に入れば早や臺地の裾に來る。此のあたりの平地こそは、昔の眞間の入江の地で、其のかみ東京灣の水が、此のあたりまで深く入り込んで、此の臺地の裾を洗つてゐたのだ。そしてあの臺地の其處此處には、此の海から貝を採つて食べながら、石器や土器の製作に餘念なかつた原始人がゐたのだと想ふと、太古の狀がまさしくと現出して來る。

大和朝廷の御威光が普く及んで立派に地方政治が整ふ様になつてからは、此の臺地が此の地方政治の中心として樞要の地區となり、入江には船が輻湊してさぞ榮えてゐたであらう。下つて世は刈菰と亂れた戰國の世、此の形勝の地を占めて八州の野を睥睨してゐた武將の感懐やいかに、など懐ふと、身は早や史乘の中に入つて、いひ知れぬなつかしさに充たされる。先づ手近の手兒奈靈堂と弘法寺に行く。

手兒奈靈堂・繼橋 驛から七八町、電車の停留場から三四町、眞間山弘法寺と記され

た石を目當に、大通を右に折れて弘法寺に詣るすぐ手前のさゝやかな祠堂が、薄命の美人手兒奈の靈を祀つたもの、其の身を投げた傳説は周く人口に膾炙してゐる。祠前には手兒奈の水汲井戸といふものがあり、靈堂近くつぎばしと彫まれた朱塗の橋は萬葉の歌枕のそれであると云ふ。但しもとより蒼桑の變を経てゐる此の地方の事として、今其の跡は定かでない。

弘法寺 眞間山(日蓮宗)、開山日頂上人、靈堂を出て石段を上ると仁王門、金剛力士

は運慶の作と傳へられてゐる。正面に祖師堂、左に日頂堂、右手に有名な雙葉楓があり、尙ほ祖師堂の東方に正和・建武・曆應・文和等の年間の板碑がある。又東堂・方丈等は西方中門の内にある。方丈の傍の遍覽亭は眺望を以て聞え、徳川時代には將軍の來遊した事もある。尙ほ境内此處彼處に古墳が散在してゐる。

當寺は、千葉氏の所領時代には、墨付の寺で、徳川時代に至つては、三十石の御朱印寺となつた。寺實には菊池武房の軍旗、菊池家系圖を始め、八方睨の虎の對幅、宗祖上人及

## 市川附近

び其の他の眞筆曼陀羅・消息類及び古文書等多く、八月七日の蟲干には縦覧が出来る。境内の春は桃や櫻に見所多く、秋は紅葉が美しい。

**里見公園・總寧寺・兵營** 弘法寺を出て左へ約一二町、松戸へ通する大通を五六町行つて左へ折れると里見公園、今俗に呼ぶ國府臺は此處である。行く道の兩側は砲兵の聯隊（野戰砲兵第二旅團司令部、同第一・第十五・第十六・第十七聯隊）、ラツバの音が遠近に響き渡つてゐる。

公園の入口にあるのが總寧寺（安國山、曹洞宗）、今こそ堂宇が荒廢してゐるが、江戸時代には寺領百二十石を給せられ、寺域は所謂國府臺の大部を占めて、關東三箇寺の一、關東曹洞宗の僧録として寺運隆々たるものがあつたが、時勢の變轉と共に衰運に赴いてまた昔日の觀はない。寺は永徳三年佐々木氏頼が近江馬場に創建したもので（湖山は通玄和尚）其の後北條氏政によつて天正三年關宿に移されたのを、水害によつて寛文三年此の地に再移されたものだといふ。

公園には里見廣次其の他の幕や夜泣石等がある。所謂千疊敷から望めば、脚下には洋々たる江戸川の流清く、風を孕んで下る白帆の狀は宛然畫中のもの、遠く青田を隔て、東京の市街を其の工業地帯の黒烟の下に認むるのは、またなき景觀である。けにや昔から眺望の雄大を以て關東人の誇とした此の地、今も其の雄大さに變りはないが、交通の發達産業の進歩は恐らく古人の夢想だにしなかつた所であらう。

清風に吹かれつゝ松の音に耳をすましてゐると、此の地の興廢の史乘が漫にたどられて果てしもない。地名に其の名を残した國府の其の當時のことはいはずもがな、其の國府の跡を城砦として此に據つた戰國の武將よ、御弓御所義明、其の副將里見義堯（天文七年）、里見義弘（永祿七年）、之と戦つた北條氏綱、向氏康、敗れたのも勝つたのも既に一場の夢と化し畢つた。颯々たる松風は萬馬叫喚の昔を語り、滔々たる江水は興亡の恨みを訴ふるにも似てゐる。あゝ變らず残れる山河、殊に臺地の其處此處には當時の空濠の跡さへ歴々として残れるものを……………。

## 市川附近

## 中山附近

## 國分寺

公園から東約十五町、國分山金光明寺(新義真言宗)、行基僧正の開山と傳へてゐる。御影石の門内には、本堂、藥師堂、鐘樓等はあるが、其の昔國中教化の中心として輪奐を誇つた堂塔のかけは見るべくもない。但し境内彼方此方に點々たる斷礎のみは、獨り金光明四天王護國寺の跡たる實を物語つて居る。又附近から發見される布目瓦は、此の礎石と相俟つて此寺の歴史を偲ばしめる好箇の材料となる。

京成電車市川眞間停留場に近い東華園は、菊を愛づべく、又運動によい廣場もあつて、子供連れの散策によい。

## 市川桃林

市川驛の北一町の邊から中山に至る約一里の間は、桃林斷續して花時車窓の眺が美しい。之が所謂市川の桃林として名高い下總桃名所の一である。

## 〔中山附近〕

(八幡の藪、葛飾八幡宮、法華經寺、  
群芳園、本行寺)

## 八幡の藪

市川から電車で東南に向ふと、三つ目が八幡、有名な八幡の藪の跡と稱するものがある。形ばかりの藪と立札(不知八幡森)があるばかりだが、一寸見るのも面白い。此の八幡の藪、實は八幡宮鎮座の舊地と稱せられ、今尙ほ一小祠があつて、森様といひ、其の周圍には柵を廻らしてある。

## 葛飾八幡宮

電車道が神社の鳥居と隨身門との間を通じてゐる。例の藪は街道の右側にあるが、八幡宮は左側にある。寛平中勅によつて石清水八幡宮を勸請したものと傳へられ今郷社に列してゐる。右手に鐘樓があるのは、其の昔八幡山法漸寺の別當たりし遺物、又社務所にある鐘(元亨元年十二月十七日の銘あり)は、寛政年間土中から發掘されたものといふ。

## 法華經寺

中山停車場から約二町(押上から中山まで電車賃片道二十五錢)、正中山本妙法華經寺、日蓮宗四大本山の一、日蓮上人の百日説法のあつた靈場として聞えてゐる。

開山は日常上人である。日祐上人の時に至つて千葉胤貞が堂塔を建立してより面目を更め

## 中山附近

## 中山附近

た。その後また廢類してゐたのを、十二世の住職日統が中興し、遂に今日の隆盛を來すに至つたのである。天正以來寺領五十石一斗を領してゐた。

本堂・祖師堂・法華堂・四足門・五重塔は當寺主要の建造物であつて、中法華堂以下の三は何れも特別保護建造物となつてゐる。

當寺所藏の寺寶は甚だ多いが、就中宗祖親筆の立正安國論は有名であり、又趙橋筆十六羅漢像八曲屏風一雙は國寶となつてゐる。

本堂安置の宗祖親作と稱する鬼子母神は、聞えた流行佛で、參詣者が常に絶えない。

群芳園 中山停車場の前、名の如く四季とりんの花が咲き匂うてゐる。

本行寺 法華經寺から東十五六町、原木にある本行寺は、狂人の參籠する者が多く、此處に籠つて全治する者が多いといふ。

## 〔行徳、浦安附近〕（浦安海水浴場、行徳の菖蒲）

概説 此の方面は、利根川や荒川の建設した沖積地中最も新しいもので、浦安の地が水上に露出するに至つたのは、恐らく千年前位であらうといはれる程である。従つて中古以前に屬する史蹟等は全く見る事が出来ないが、併し其の開拓や人口集中の如きは、比較的長足に進歩して、江戸時代以後の産業史・交通史の上には、見逃す事の出来ない場所となつてゐる。

行徳の町は、今こそ交通の不便な處となつてさびれてゐるが、江戸時代には、江戸から千葉・成田・銚子方面に通ずる要津で、商業も榮え、市況も賑つたものであつた。殊に鹽田があつて幕府の保護も厚かつた。明治に至つても農商務省の製鹽場等も設けられた。

又浦安の附近は、夙に葛西海苔の産地として著れ、今浦安は全町海苔の生産で立つてゐる。

行徳、浦安附近

## 行徳、浦安附近

る有様で、其の産は所謂東京本場海苔である。尙ほ兩地方共に其の他の漁業の盛んな事はいふまでもない。

## 浦安海水浴場

市電を深川高橋で下りると、すぐ左が汽船發着場である。此處から汽船で約一時間半、賃金往復四十二錢。水上波静で快い船路である。浦安で下りて右へ約十町有名な浦安辨財天(寺は眞言宗清瀧山寶城院、辨天堂は大正六年の洪水に流れてしまった)を過ぎて更に五六町で海岸、海水浴地として近年知られて来た。

此の海岸は袖ヶ浦といふ。一帯に遠浅で泳ぐによく、而も近くに房總の山々遠くに富士足柄を望んで、あかね風景である。

## 行徳の菖蒲

行徳町本行 徳字寺町の海巖山普光院(浄土宗)の池の菖蒲がそれである。毎年六月花供養を行つて名の出たものであつたが、今は衰へてしまつた。併し序ながら訪うて昔ながらの行徳の姿を見るのも興がある。

此の地へは舟の他城東電車を利用する便もある。

## 〔船橋 習志野附近〕

(大神宮、海軍無線電信所、中山競馬場、習志野原、三吠の櫻)

## 大神宮

總武線で行けば、船橋まで賃金三十四錢、時間四十分。京成電車によれば、押上から約四十分、賃金三十一錢。船橋は千葉街道の要驛で、昔から繁昌した處であるが、大神宮の鎮座はまた其の繁昌の一因を成してゐる。延喜式内の古社で、今縣社に列してゐる鬱蒼たる森を背景とした廣い境内には攝社末社が多い。

## 船橋海軍無線電信所

驛から西北半里、京成電車の葛飾停留場(船橋の手前)で下車すると、僅に七八町、田圃の間に簇々聳立してゐる電信塔は遠くから望む事が出来る。

電信所は大正十二年十月の起工、同四年三月の竣工に係り、獨逸ナイウエン無線電信機の形式によりしもの、域内凡そ十五萬坪、電信塔は總て十九基、其の主塔は高さ六百六十尺、屈強の水兵が此の梯子を登るのに凡そ四十五分を要するといふ。副塔は約二百尺、主

船橋、習志野附近



## 船橋、習志野附近

塔を中心として半徑約二百二十間の圓周上に建設せられ、電信機は三百馬力の發動機を使用し、其の電波は優に六千哩の距離に達するといふ。

本所は今布哇無線電信所との通信を取扱ひ、尙ほ遞信省所管の一般公衆電報をも取扱つてゐる。實に關東平野中の一壯觀である。一般の縦覽を許されないが、外部から此の壯觀を観る丈でも確に一遊の價値があらう。

**中山競馬場** 葛飾停留場から北西約八九町の高臺にあつて、春秋二季に、此處に競馬が行はれる。

**習志野原** 船橋の次の津田沼驛から東北約二十五町、自動車の便もあり、又京成電車の便もある。千葉郡の西北隅を占め、東西二十五町、南北約二十町、二宮村の管内に屬してゐる。もと大和田原と稱したのを、明治六年四月明治天皇行幸の際今の名を賜うたのである。

明治五年十月陸軍練兵場を此處に置かれてから陸軍の要地となり、今騎兵第十三・第十

四・第十五・第十六聯隊の兵營があり、又東方五町に元俘虜收容所、津田沼驛附近に鐵道兵營等がある。又徳川時代の藥園臺の跡は驛の東北約三十町にある。

茫々として連なる廣原、中に小丘あり、沼澤あり、樹林あり、原始的の原野の姿を此處に観ることが出来る、春は蕨を折るべく、秋は栗を拾ふによい。但し土壤がローム質で、動もすれば黄塵濛々たることがある。

**三咲の櫻** 船橋驛から東北二里半、東葛飾郡八榮村字三咲にある里餘の花の隧道である少し遠いだけに雑沓もせず、心靜かに觀花の情を充たすことが出来る。

## 三、千葉、成田、印旛沼、佐原方面

## 〔稻毛、幕張附近〕

(海水浴場、民間飛行練習所、甘藷先生の墓、長作の夫婦梅)

## 稻毛、幕張附近

## 稻毛、幕張附近

**稻毛海水浴場** 兩國から二十哩、時間一時五分、賃金五十四銭。京成電車によつても略同様である。海水浴場は停留場から田圃道を経て約七八町、浦安・行徳方面から千葉附近に亘る袖ヶ浦の一部である。断続した低い砂丘の上には老松生ひ繁り、遠浅である海岸は砂白く、所謂青松白砂の佳景稍々舞子に似てゐる。房總の山々が彼方に低く連なつて八幡濱に帆影の依稀たる状は更なり、夕日に映ゆる富士の優姿を添へてまたなき絶景である。水に下り立てば、東京灣のゆきずまりとて、さまで清くはないが、泳ぐに危険がなく、貝をあされば、あさり・しほふき・まて等が歩につれて得られる。

松林の間には、海氣館を始め旅館・旗亭あり、又小兒の守護神として里人の尊敬厚い浅間神社(祭神木花咲耶姫、驛から西四十町)等がある。

**民間飛行練習所** 浅間神社から二三町、此の海岸一帯干潮一里餘に及ぶので飛行機の滑走着陸に便利であるといふ。

**甘藷先生の墓** 稻毛から西して幕張に向ふと、左右の畑は満目甘藷である。幕張、古は

馬加と稱し、徳川八代吉宗將軍の世に、青木昆陽が始めて甘藷を試作した所で、小丘の上に甘藷先生の墓といふものがある。

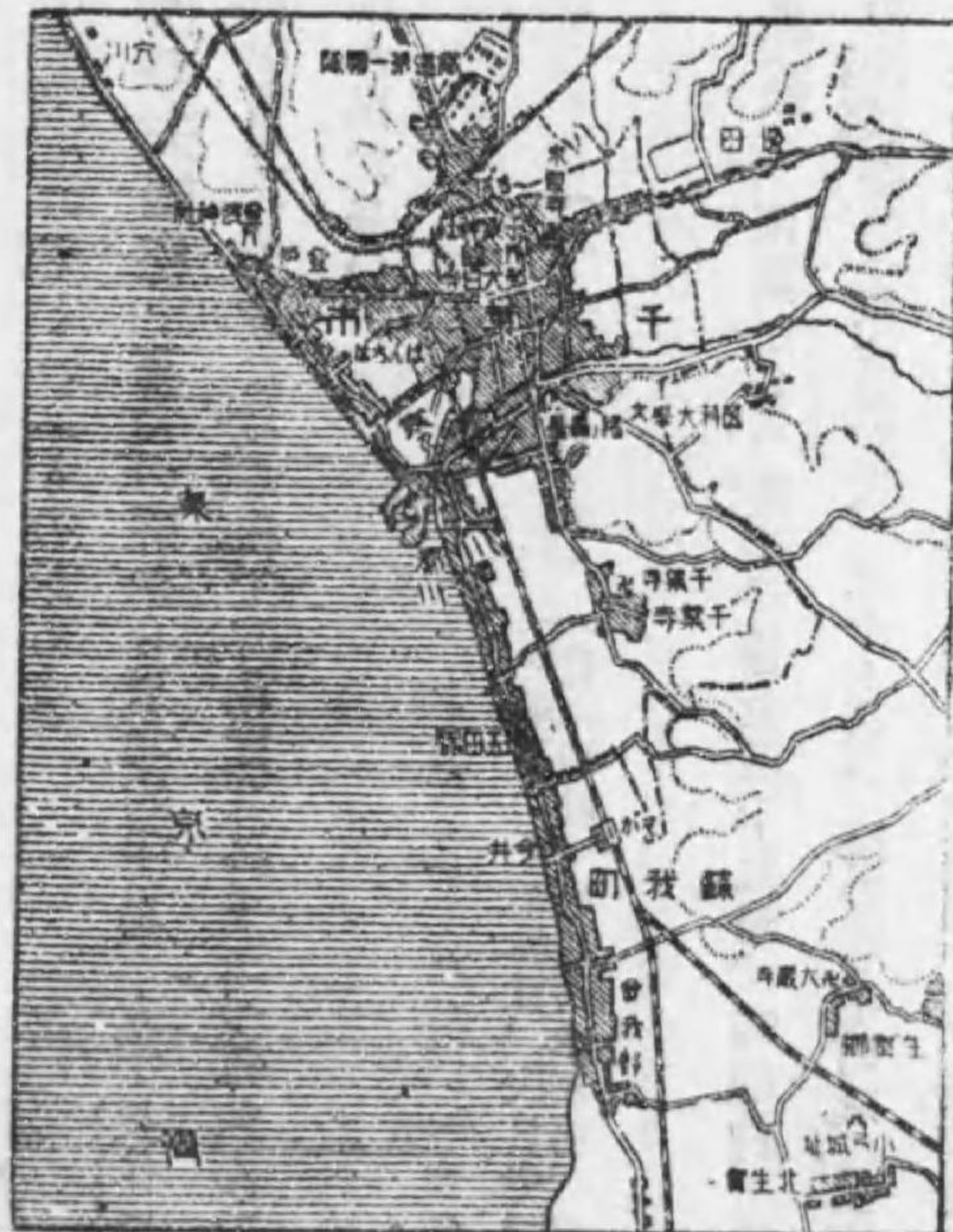
**長作の夫婦梅** 幕張の驛から東北約半里、大字長作にある長胤寺境内の奇梅である、老幹苔を帯びた大きな枝垂梅で、花實共必ず二つ宛並んでつくので此の名がある。開花の頃には人出が多い。

## 〔千葉附近〕

(猪鼻臺、千葉神社、大日寺、來迎寺、千葉寺、登渡神社、寒川海水浴場、君待橋、小弓城址)

**猪鼻臺** 兩國から千葉迄、賃金五十九銭、時間約一時間十分。猪鼻臺は驛から東南十四町の洪積臺地(京成電車、五十七銭、驛から七町)、公園として千葉市唯一の遊覽地、展望が甚だ勝れてゐる。平氏の出であつて房總に大勢力を占めてゐた千葉氏累代の居城址で、源平時代以來豊臣秀吉の天下統一に至るまで、今の千葉市の地は、實に此の猪鼻臺の城下

## 千葉附近



町として人口集中下總に冠たるものがあつたと思はれる。故に今も千葉市の史蹟は千葉氏の歴史を物語るものが多い。尙ほ此の臺地には今も土壘や空濠の跡として認むべきものを残してゐる。

**千葉神社** 驛から東南六町、もと千葉氏の守護神たる妙見社の跡祭神は天御中主神・經津主神・日本武尊。縣社であるが、明治三十七年火災に罹り、今の社殿は新しい。

**大日寺** 千葉神社の隣、阿比羅山密乘院(眞言宗)、今堂宇が荒廢してゐるが、千葉氏累代の菩提所で、千葉常兼以下胤宣に至る十六代の墓だといふ五輪の塔がある。

**來迎寺** 大日寺と程遠からぬ處、知東山聖聚院(淨土宗)、建治の頃一遍上人の開いた時宗の寺であつたのを、天正中滿譽上人が家康の命によつて中興して淨土宗に改めたのであるといふ。明治十四年の火災後廢頽してゐるが、境内に氏胤等の墓と稱する五輪の塔が七基あつて、應永・永享等の文字が讀まれる。

**千葉寺** 驛の東南二十町、海上山觀喜院(眞言宗)、阪東三十三觀音の一靈場として聞えてゐる。寺傳によれば、和銅二年行基の開創で聖武天皇の勅願所、中世千葉氏累世の祈願所であつたといふ。境内には櫻樹が多い。

**登渡神社** 祭神天御中主尊、もと千葉氏元服の守神であつた。九月五日の祭禮に、神輿をかつぐ輿夫は、肩車に他の者の肩にまたがつて、かつぐので有名である。境内は猪鼻臺と共に眺望が開濶である。

**寒川海水浴場** 寒川村にある。水は清くないが、例の袖が浦の一部を占めた遠浅で、泳ぐにも潮干狩にもよく、夏は人出が多い。

**君待橋** 寒川村長洲にある小さい石橋だが、古來韻事を以て聞えた橋である。藤原實方が奥州へ下る途中『寒川や袖思が浦に立つ烟、君を待つ橋身にぞ知らるゝ』と詠んだとか又頼朝舉兵の際之を此處に迎へた千葉常胤の子胤頼が橋の名を問はれて『見えかくれ八重の潮路のまつ橋を渡りもあへず歸る船人』と答へたとの傳へは、夙に世にあらわれてゐる。

**小弓城址** 千葉から約一里半、蘇我驛から東南の方約半里、千葉郡生實村にあつて、宇南生實と字北生實と兩所にある。其の南生實にあるものは、所謂小弓御所址として聞えるものである。本城は既に應永の頃から千葉氏の一族たる原氏の居城たりし所で、後足利義明が里見氏の後援によつて本城に據り、其の國府臺の戰(天文七年)に敗死して後間もなく廢城となつたのである。

又北生實にあるものは、天文八年原胤貞が南生實城を廢して此處に移つてから城地となつたので以後其の子孫が之を守つてゐたが、天文十八年千葉城と共に陥つて、千葉氏一族の勢力は去つた。徳川の世に至り寛永二年森川氏が此處に封ぜられ其の藩治となり、以て維新に及んだのである。

兩城址とも既に幾多の星霜と變遷とを経てゐるが、猶ほ當時の土壘・空濠を始め其の規模を観るべき跡を留めてゐるので、史跡探究家の訪ふ者が少くない。

又兩城址の間の字峙臺には、七回り塚を始め古墳が多く散在してゐる。而も眺望の開闊甚だ賞すべきものがある。

### 〔佐倉附近〕

(宗吾靈堂、光勝寺、  
將門山城址、佐倉城址)

**宗吾靈堂** 兩國から總武線で佐倉まで一時三十九分、賃金八十四錢。佐倉と聞けば故と

宗吾様とを聯想せぬ人はあるまい。其の宗吾様は佐倉驛から北約一里、印旛郡公津村字臺方の東勝寺にあつて、佐倉の先の酒々井驛からすれば、約二十町、又成田からは電車の便がある。境内三千坪、供養堂・念佛堂・五靈堂・大師堂等があつて香烟は常に絶ゆる時がない。殊に宗吾一族の磔殺された八月三日の忌日には、盛大な法會が行はれ、境内は參詣者で立錫の餘地もない程である。其の強烈な犠牲的精神が、千載人を動かすを見れば、宗吾も以て冥するであらう。

**光勝寺** 靈堂を距る八町、酒々井驛から靈堂に行く道にある。宗吾の叔父光善が當時此の寺の住職として宗吾等の命乞ひの祈禱をした處。佐倉に近い茨臺は宗吾等の刑せられた處。

**將門山城址** 酒々井町大字本佐倉にあつて、佐倉驛からは東北三十町、將門の祠がある。長祿中千葉輔胤の據つた處で、徳川の初期土居利勝も此處に封ぜられた事がある。

**佐倉城址** 佐倉驛から北約半里、鹿島山に據り、印旛沼に臨んで形勝の地。北條氏政の

築城に始り、土居利勝の改修を経て、後堀田氏の城下として維新に及んだ。今歩兵第五十七聯隊の所在地となつてゐる。

### 〔八街、日向附近〕

(宮内省下總牧場、布田藥師、模範村源村)

**宮内省下總牧場** 兩國發、佐倉から二つ目の驛八街からすれば縣營八街線、上野發成田からすれば縣營多古線で達する。時間何れも約三時間、賃金兩國から一圓四錢。

我が國有數の大牧場で、其の規模は印旛・山武・香取の三郡に跨つて地積實に三千四百餘町歩、其の事務所は印旛郡遠山村三里塚にある。本場は遠く文武天皇時代の創設と傳へ、降つて北條氏・徳川氏の所管を経て明治に至り、十八年六月以來御料地に編入せられ、後年宮内省下總御料牧場と改稱するに至つたが、今俗には三里塚の名を以て通つてゐる。

域内廣潤平坦で、牧畜を行ふのみならず、新式の農具を使用して耕作を行ひ、種々の

農作物を産出する。其の三里塚の方面には櫻樹が甚だ多く、爛漫たる花の下、無数の牛馬の悠々遊ぶ状は、他に得難い観物、特に此の頃は一般人の縦覧を許されるから日歸りの花見に出かけるによい。

**布田薬師** 八街の次の日向驛から西南二十六町、眼病に靈驗があるとて、参詣者が常に多く、殊に九月七日の施我鬼には、参籠者が萬を以て算するに至るといふ。

**源村** 日向驛から薬師に至る途中、驛がら約半里の處にあつて、模範村中の模範村と稱せられてゐる。

### 〔成田、滑河附近〕

(成田不動尊、宗吾靈堂、小御門神社、滑川觀音)

**成田不動** 關東第一、本邦屈指の流行佛。印旛郡成田町にある。兩國から總武線でも行かれるが、上野からの方が直行列車の數も多く、便利である。時間約二時間、賃金一圓五

錢。成田驛から不動の門前まで約十五町、電車がある、往復五錢。

寺は成田山新勝寺、眞言宗の巨刹、標高三十六米の臺地の上に位してゐる。高さ六十八尺、四間四面の本堂(安政四年の修造)を始め、大寶塔・鐘樓・經藏・額堂等壯麗にして漫に賽者の目を驚かしめる。不動尊は天竺の毘首羯摩の作で、弘法大師が入唐歸朝の際惠果阿闍利から之を受けたもの、將門の亂に當り、寛朝僧正が勅命を受けて調伏の法を修する爲、此の像を奉じて難波津から海路此處に來り、亂平定の後靈夢によつて遂に此處に安置するに至つたと云ふ。

縁起はともあれ、正月の初詣に、節分の豆撒に、汽車は特別大割引の切符を賣出し、境内はもとより成田の全町只人を以て埋まる盛況、驚くの外はない。又常の日も参詣者引きも切らず、斷食修業等に参籠する者も少くない。従つて成田町も此の不動尊によつて榮え成田線も其の賽者で賑う實狀である。

由來流行神や流行佛として参詣者の多い場所は、毎に其の境が俗化する弊があり、成田

の如きは特に其の色彩が著しいが、只此處では、其の夥しい賽銭で、中學校・幼稚園・圖書館等を経営されてゐる所に、快い淨化の境地を見出すことが出来る。

境内望洋閣の傍から東に入る園地は花屋敷と稱し、梅櫻其の他花井に富み、又天慶の亂に當り不動明王が其の蔭から依藤太秀郷に將門を知らせたといふ名高い大南天がある。此の花屋敷から成田の市街や附近の水田を瞰下する眺望は甚だ佳い。

此處から宗吾靈堂(佐倉附近参照)へ電車の便がある。

**小御門神社** 成田驛から二つ目、佐原驛から二つ手前の滑河驛から二十二町(人力車賃三十錢)、小御門村大字名古屋にあつて、別格官幣社に列してゐる。祭神は元弘の忠臣贈太政大臣藤原師賢公であつて、其の劃策効を奏せずして遂に北條氏の爲に捕へられ、下總に配せらるゝや、千葉介貞胤の一族大須賀信濃守の邸に幽囚の身となり、元弘二年八月二十九日に此の地に終られた。

後里人が其の墓所を公家塚と呼び傳へてゐたのを、安政以來其の考定行はれ、明治十年

社殿の造營に着手せられ、十四年其の竣工を見たのである。社背に其の墳墓があつて、墓前に碑がある。境内は櫻樹多く、常緑樹と相俟つて風致に富んでゐる。

**滑川観音** 滑河驛から約七町、滑川山龍王院と號し、阪東二十八番観音の靈場である。

本尊十一面観音は定朝の作、仁王門は飛驒工匠の作と傳へ、門は今特別保護建造物となつてゐる。

### 〔印旛沼〕

(甚兵衛の渡し、花鳥山、大川岸の渡し、鳥見丘、松蟲姫の祠、吉高城址)

**印旛沼** 利根川の河道變轉の爲出來た河跡湖で、了字形をしてゐる。大部分印旛郡に位して周圍十八里十二町、面積三千八百七十町歩、水深僅に三尺、水面海拔も十尺に過ぎない。北東隅(安食口)から長門川によつて一里で利根川に注いでゐる。宗吾郎の芝居に出て來る甚兵衛の渡し(又水神の渡しともいふ)は此の北部の咽喉を占めてゐる。

## 佐原附近

湖岸は松や雑木をいたゞく低い丘を回らし、湖面は蘆荻や眞菰におほはれて静寂な別天地をなしてゐる。そして此の丘の上からの見晴しが到る所よいが、中でも其の北岸六郷村大字平賀の花島山を以て最とせられ、此處からの眺めは北總第一の佳景とされてゐる。

湖水を観るのには、佐倉で下車、街道を北に進んで土浮に出で（此の間約一里半）、大川岸の渡しを渡るのもよい。此の街道は更に北に進んで木下に出る。途中に常陸風土記所載景行天皇が登らしめ給うた鳥見丘（六合村大字萩原）や松蟲姫の祠（六合村大字松蟲）や吉高城址（同村大字吉高）等がある。又佐倉の西方約一里の白井田町に行くのもよい。

或は又酒々井驛下車（驛から湖岸まで七町）、新福寺の渡しを渡るのもよい。又宗吾靈堂から來てもよい。尙ほ成田線松崎驛からすれば甚兵衛の渡しが近い。

## 〔佐原附近〕

（伊能忠敬の家、香取神宮、潮來、鹿島神宮、息栖神社）

**伊能忠敬の家** 兩國から佐原驛まで三時間十五分、賃金一圓四十四錢。上野からでも略同様である。酒類の醸造で名の聞えた此の地であるが、それよりも我が國の地理學發達史の上に不朽の名を傳へてゐる伊能忠敬先生の出生地であることと、附近香取町に官幣大社香取神宮の鎮座しますこととで、我々の腦裡に深く刻まれてゐる所だ。

偉人忠敬先生の家は驛から東、神宮に賽する途中にある。今猶ほ忠敬先生の使用された測量機其の他地圖類を藏し往訪者の請に應じていつでも喜んで見せてくれる。是等の遺品を見るにつけても、轉々其の偉績を欽慕するの情に堪へないものがある。

**香取神宮** 驛から東約一里、老杉鬱蒼たる香取山の上にあつて、神域はいやが上にも森嚴の氣に満ちてゐる。鹿島の神と共に我が神代史の上に赫々たる武勳を残された經津主神の鎮ります所として、古來朝廷の崇敬厚きは人の知る所、殊に利根の大江を夾んで鹿島の宮と相對して此處に此の武神の鎮座ある事は、我が神代史上の重要事實を不言の中に物語るものであつて、漫に我が皇室の國土經營の悠遠なるを仰がざるを得ないのである。樓門

## 佐原附近



の内、宮柱ふとしき立つ正殿・拜殿・神樂殿・神饌所等壯嚴を極め、又攝社末社等も多く連つてゐる。

社殿の背後の神苑は、櫻の馬場と稱し、一面の芝生で、櫻樹多く常緑樹の間に點綴してゐる。殊に眼を放てば、洋々たる大江を夾んで香取ヶ浦・潮來十六島は更なり、常總の山水一眸に入つて絶勝の風光である。香雲館は此の馬場にある二層の樓であつて、樓上からの眺めは特によい。其の他尙ほ此處には、十二神井・七橋・八阪等の名所がある。

### 潮來

櫻の馬場から北約十六町、大江の中に鳥居の見ゆるのは、此の附近の要津津の宮であつて鹿島香取に參詣し、若しくは附近の水郷を探る客の乗降する地として昔から聞えてゐる。今も和船を仕立て、探勝する便がある。併し汽船なら佐原からするがよい。

潮來は佐原と鹿島との中間にあつて、佐原から約一時間、汽船賃二十錢内外。横利根川に出で、三刀根間の三角洲たる十六島をめくつて牛堀を經、加藤洲の十二橋を過ぐれば早くも潮來、水郷風景の美は一層水路の短きを感じしめる。潮來節・菖蒲踊りに、榮えた歡

樂境としての其の名を知らぬ人はないが、常陸風土記を細けば、此の地が昔から此の水郷交通の要區であつたことや此の地方の著しい地勢の變化等が偲ばれて、興味の津々たるものがある。曰く「板來村。近ク臨海濱。安置驛家。此ヲ謂板來ノ驛。其西榎木成林……其海燒鹽。海松。白貝。辛螺。蛤多生」と

稻荷山は眺望に富み、長勝寺には國寶の鐘がある。

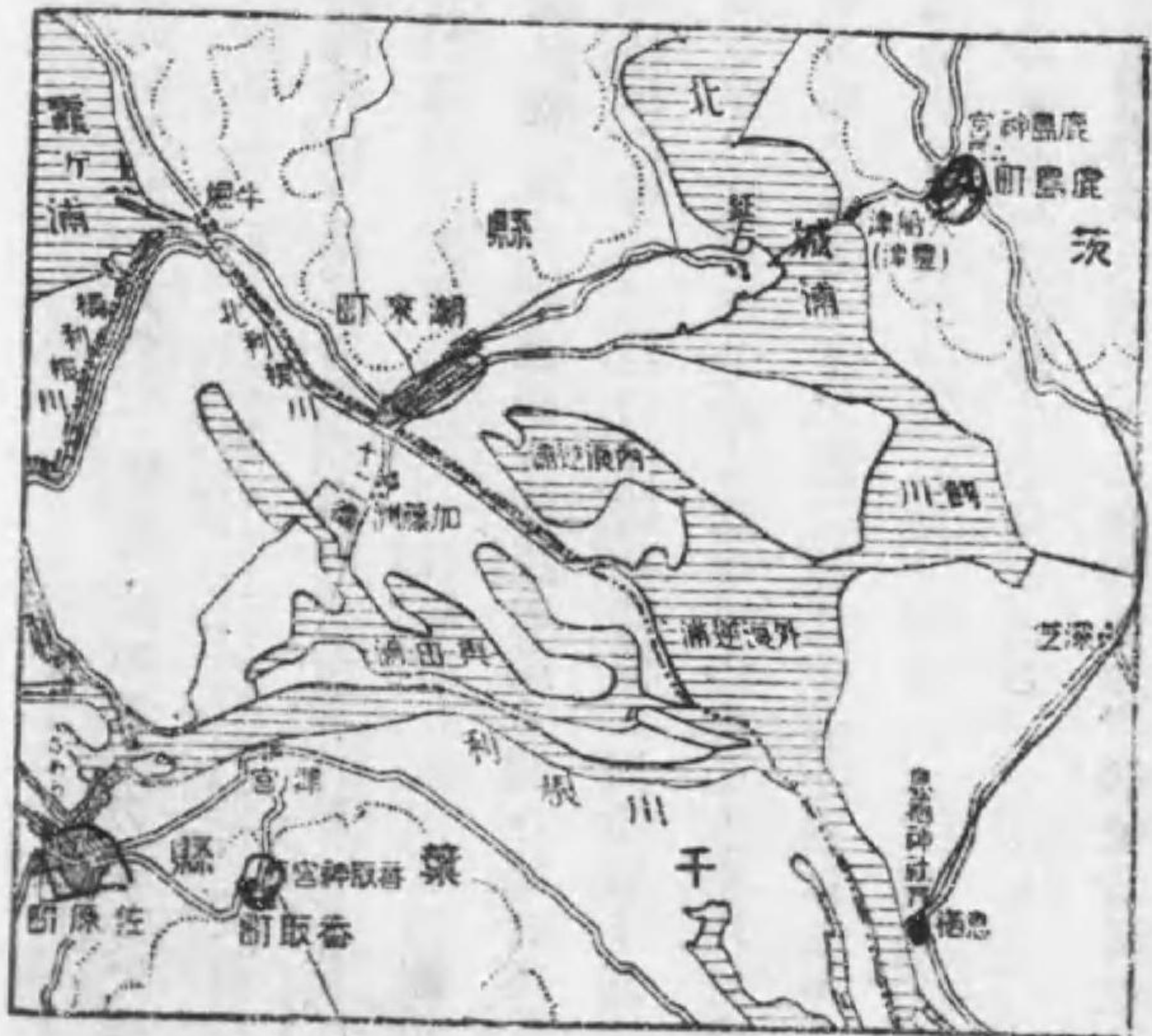
### 鹿島神宮

潮來から眞菰の茂る間を過ぎて逆浪の浦に出で、北浦に進み入れば、やがて大船津に着く。此の間約一時間、汽船賃十三錢。鹿島神宮の鳥居は、既に其の渚に建つてゐるが、社殿は是から約半里の奥の鹿島町にある。古松老杉森々たる周圍の御笠山は、神域の莊嚴を加へて、漫に神代の昔を想はしめる。祭神は武甕槌神。香取の神と相並んで神威の高きは既に述べた所。附近には、鹿島の神が大鯰を封せられたといふ要石を始め、七井戸・七不思議等の名所がある。

### 息酒神社

鹿島から陸路五里、佐原から三里半、汽船は遙の沖合利根の中流に碇泊する

佐原附近



鹿島町と同じく鹿島郡にあつて（中島村大字息栖）、利根を夾んで銚子街道の一驛小見川（佐原から二里）と相對してゐる。昔から鹿島・香取の兩宮と此の宮とに參詣するのを三社詣と稱し、鹿島詣をする賽客の必ず立ち寄つた所で、榮えたものであつたが、今は船路の便がよくない爲すつかり衰へた祭神は處那斗神を主神とし、底筒男・中筒男・表筒男の三神と猿田彦神とを配祀してゐる。鳥居は近く利根の水邊にあり、老木鬱々たる境内に神靈の鎮ります狀がまたなく尊い。

四、銚子、一ノ宮、大原、勝浦、鴨川方面

〔銚子附近〕

（飯沼観音、川口明神、無線電信局、犬吠岬燈臺、海水浴場、屏風浦）

概説 所謂銚子は行政上銚子・本銚子の二町と高神村との三部から成つてゐる。利根の河口を占めて北には常陸の砂地を控へ、南は打ち連る九十九里の濱を劃して太平洋に突出し、交通の要區たると共に豪壯なる風景を有してゐる。銚子附近の遊覽は、此の交通・風景の二點と、産業上聞えた銚子縮・醤油の産出、名物牡蠣屋根等を觀るつもりで行くとよい。

兩國から時間約四時間半、賃金一圓七十六錢。銚子驛から外川まで更に約一里半、銚子遊覽鐵道があつて日に九回往復運轉をしてゐる。時間約三十分、賃金二十錢。尙ほ銚子驛

銚子附近

銚子附近

からは乗合自動車もある。犬吠まで賃金五十銭。

銚子附近は勝景に富み、見物すべき場所も多いので、所謂磯巡りをなすには、少くとも二日間を要するが、併し見物の仕様では日歸りも出来る。尙ほ此處からは利根川を上下する汽船の便があつて、上流は關宿に至るべく、又霞ヶ浦・北浦を往復するものもあつて、所謂三社詣も出来る。土浦には二時間乃至三時間で達する。

**飯沼觀音** 銚子町の東端にあつて驛から東約十二町、寺は飯沼上圓福寺(眞言宗)、神龜

元年僧徳道の開基と傳へ、阪東二十七番の靈場であつて十一面觀音像を安置してゐる。銚子第一の名刹で參詣者も多い。堂宇は東京の淺草寺に似て壯麗である。寺は丘上にあつて眺望に富み、瓦屋根と牡蠣屋根と黑白相交る町を隔て、銚子港に臨み、利根の白帆の數讀む心地は言はん方もない。

**川口明神** 驛から東約三十町、俗に白紙大明神と稱せられ、安部晴明の戀人が海に投じた處と傳へられてゐる。前面に大利根の海に朝する大景を控へて壯快窮りない。附近に千

人塚がある。大きな古塚で、其の上に石地像が太平洋の煙波を望んで寂しげに立つてゐる

といふ。海中に溺死した漁夫を葬つた處だ

**無線電信局** 本銚子町の東端女

夫岬の岬上にあつて、太平洋を航行する汽船との電信の交換を行

てゐる。通信距離は千四百哩に及ぶといふ。女夫岬と川口との間の

一帯の海濱は平磯といつて貝類に富んでゐる。女夫岬と南方海獺島

との間は黒生浦といつて黒石が多

銚子附近



く、又維新の際、品川灣から北海に航した幕府の軍艦中の一隻にして此處で難破した加保

丸の死者記念碑がある。

### 犬吠岬燈臺

海獺島から南青松白砂の海岸は君ヶ濱といふ。其の君ヶ濱の窮る處は即ち有名な犬吠崎で、奇巖怪石海中に峙ち、潮水之に激して白霧濛々霞ヶ浦の名を以て呼ばれ壯觀たとふるものもない。燈臺は此の岬端近く巍然として海に對してゐる。高さ九十尺、海を抜くこと百六十呎、光芒は十九裡に達するといふ。毎日午後二時に縦覧が出来る。

### 海水浴場

犬吠岬から南長崎鼻に至る間は鷄明浦で、海水浴場となつてゐる。背後は青松をいたゞく丘阜を負ひ、前面は渺茫たる太平洋の海波を望んで眺望雄大、此處に曉鷄館・快哉館・御風館・吾妻館等の旅館がある。

### 屏風浦

鷄明浦から長崎鼻をまはると南面に海を受ける事となる。此處に外川といふ漁村がある。其の西飯岡の鼻に至る間は丘陵海に迫つて屏風を立てた如くであるので、此の名がある。風光の美亦筆舌の及ばぬものがある。

## 〔飯岡、八日市場附近〕

(飯岡海水浴場、岩井不動、西光寺、椿湖跡)

### 飯岡海水浴場

飯岡驛は銚子から三つ手前、兩國から約三時間、賃金一圓五十七錢。所謂九十九里の始る地點で、民情の質朴な海水浴場として喜ばれるが、たゞ町は驛から一里餘の海岸にあつて、浴場も其處まで行かねばならぬ不便がある。其の上設備も未だ十分整つてゐない。又銚子の如き松林もない。併し一步出ると彼の屏風浦の勝景も探るべく、晴れた日には遙に大東岬も望まれて九十九里の大景を一陣に收むべく、萬里吹き來る風に塵懷を洗ふ事が出来る。

### 岩井不動

驛の北二十八町、瀧郷村大字岩井にある。弘法大師留錫の地と傳へ、堂宇頗る宏壯である。三面は老林蒼々たる丘陵に圍まれて、所々飛瀑の降るあり、所謂岩井四十八瀧の數は今ないが、夏猶ほ寒い幽境をなしてゐる。

飯岡、八日市場附近

飯岡、八日市場附近

## 西光寺

匠瑳郡の中心たる福岡町即ち八日市場にある。八日市場は銚子を距る八里、飯岡から三つ手前の驛、西光寺は其の西南に接し、福岡町大字米倉にある。新義真言宗に属する巨刹、應永年間鏡照和尚の開基と傳へてゐる。境内蒼々たる密樹の間梅櫻多く、三春の候杖を曳くによい。

## 椿湖址

八日市場は、九十九里の方面と利根川方面との連絡上樞要の地として市況が榮えてゐるが、史蹟を探る人には更に見逃す事の出来ないものがある。それが即ち椿湖跡、所謂干潟八萬石の耕地である。

椿湖跡は、八日市場以北匠瑳郡の北部から香取郡の東南境及び海上郡の西境に亘る東西五里南北二里許りの地域を占め、今日猶ほ歴々として諸所に其の跡を留めてゐる。八日市場の次の驛名干潟の如きは明らかに此の事實を物語るものである。其の他干潟の次驛旭町や干潟附近の椿海村には其の跡が多く、南部豊畑村大字井戸野の高丘上にある延壽寺は此の古跡の眺望に絶好の地と稱せられてゐる。殊に此の椿湖が古く將門の據つた湖水であら

うと想像せられ、それが近く徳川時代に開墾せられた事を思ひ、更に大椿の傳説を偲べば漫に感懐をとどめあへぬのである。

## 〔成東、松尾附近〕

(浪切不動、成東鑛泉、芝山仁王尊)

## 浪切不動

兩國から成東まで約二時間半、賃金一圓十六錢。浪切不動は驛から西五町、奇石怪巖重疊する石塚山の頂にあつて行基の開基と傳へてゐる。昔此處で太平洋の水波を遮つてゐたので浪切の名があるといふが、それは兎も角、頂上は眼界廣潤、九十九里の大觀を恣にする事が出来る。

## 成東鑛泉

不動の堂下にある含鐵炭酸食鹽泉で、黄色を帯び鹹味がある。胃腸病・リウマチ・痔疾・肺結核・婦人病等に効がある。旅館成東館、宿泊料一圓五十錢乃至三圓。

## 芝山仁王尊

成東の次松尾驛から西北二里、自動車がある。二川村大字芝山にある天應

成東、松尾附近

## 大網、東金、茂原附近

山観音寺、天台宗の名刹、仁王尊は毘首羯摩の作と傳へ、傑作と稱せられてゐる。其の他寺寶にも富んでゐる。

〔大網、東金、茂原附近〕  
(本國寺、東金城址、八鶴湖、片貝海水浴場、笠森寺、茂原寺)

**本國寺** 兩國から大網まで約二時間、賃金九十六錢。本國寺は驛から北十町。寺域一萬五千坪、堂宇宏壯、下總屈指の巨刹である。もと眞言宗であつたが、文明三年酒井定隆が日蓮宗に歸依して、領内の寺院を悉く日蓮宗に改めた(有名な上總の七里法華である)時から當寺も改宗されて、今日猶ほ日蓮宗に屬してゐる。徳川の初期日純上人の時代には、學寮六十、學僧一千人餘を集めた事もあるといふ。

大網は東金線の分岐點で、此處から乗換へて次の驛東金で下車すると、名所に富んでゐる。

**東金城址** 東金町の西の丘上にあつて、戰國の小英雄酒井定隆の隠居城たりし所、脚下

東金の市街を隔て、附近の山河を睥睨し、遙に外洋の蒼天に接するを望んで形勝の地である。

北麓には日蓮宗の巨刹本漸寺あり、名に高い八鶴池を隔て、西福寺(日蓮宗)に對してゐる。兩寺とも天台に屬してゐたので、西福寺には唐の天台智者大師の畫像を藏してゐる。又本漸寺の鐘は弘安三年五月の銘がある。

八鶴湖は周圍半里、蓮に釣魚に評判は高いが、水が清くない。只々周圍の城址や寺院などの風物を配して一小佳境をなしてゐる。旅館——八鶴館

**片貝海水浴場** 東金の驛から約二里、山武郡片貝村大字片貝にある。驛から自動車の便があり、景色はさして佳くないが、プロレタリア向きだといふので出掛ける人が多い。旅館——加納屋、片貝館、海眺樓。

**笠森寺** 房總線大網の次は本納(縣社橋神社がある)、次は茂原、驛から西三里、長生

大網、東金、茂原附近

大綱、東金、茂原附近

郡水上村大字笠森にある（途中聽南まで自動車の便がある）。寺號は大悲上、天台宗に屬し、延暦三年傳教大師の開基に係り、上總屈指の名刹である。日蓮上人も嘗て此處に參籠した事があつて、「袖にこふ涙の雨にぬれしとて、今日笠森を尋ね來にけり」とは其の折の詠である。

本堂は高さ十五丈、南面して懸崖上に建つ所奇觀である。今特別保護建造物となつてゐる。堂内には觀音及び其の他諸像を安置してある。日蓮上人自筆と稱する法華經を始め寺寶が甚だ多い。

### 茂原寺

茂原驛から四十町、祖師堂山の中腹にあつて、常在山と號す。遠江國守齋藤兼綱が此の地に流滴の身となり、日蓮に歸依して其の居館を以て寺としたものである。

茂原寺に隣した長國山鷲山寺は、文永年間領主小早川左近大夫の祈願によつて開創された茂原寺と共に日蓮宗に屬してゐる。

## 一ノ宮

### 大原附近

（一の宮海水浴場、玉前神社、一の宮城址、觀妙寺、太東岬、長者町、大原海水浴場）

### 一ノ宮海水浴場

一宮驛は、兩國から約二時間半、賃金一圓二十六錢。房總線は、千葉の先きの蘇我驛附近から東京灣岸を距つて平凡な單調な路を走るが、茂原を過ぎると、次第に外洋に近づいて來て、一の宮以南は殊に海岸との距離遠からず、車窓から海波を望む事も出來て、風景は變化を加へて來る。そして到る處海水浴場があり、別莊地があるの、夏期は殊に人出が多い。其の中でも一の宮は房總の大磯と呼ばれて一等地を抜いてゐる。

海水浴場は驛から約半里、近く太東岬を右にし、左には名に負ふ九十九里の長汀を控へ前は一望無限の太平洋に對して矚目開瀾、此處に來ると今更ながら自然の大を感じる。水の清い事は言ふに及ばず、一の宮川の清流に釣を垂れ棹さすのも心ゆく限りである。

一ノ宮、大原附近

## 一ノ宮、大原附近

一の宮川の海に入る所に、潟湖の成り立ちを實見したり、海岸一帯の砂丘の發達、保安林・防風林の發達等を見學する上に面白い材料のある處だ。地曳網が亦見物だ。

旅館——一の宮館、松濤亭、青松館

## 玉前神社

驛から四町、一の宮の町にある。祭神は玉依比賣命。式内の古社、上總の一の宮として古來有名であつて、町名も實に此の宮に基づいてゐる。今國幣中社に列してゐる。

## 一ノ宮城址

玉前神社の後方城山の上にあつて、創設は戰國時代に係り、徳川時代に加納氏の居城たりし處、一の宮の市街を脚下に俯瞰し、尙ほ遠く一の宮川の帯の如く田圃の間を過ぎて外洋に注ぐあたり、渺茫たる蒼波を望んで俗腸を洗ふ事が出来る。

## 觀妙寺

城址から程近い。玉崎山と號し、天台宗に屬してゐる。天平七年行基の開創と傳へ、古は堂塔壯大を極めてゐたといふが、今衰へて其の面影はない。

## 太東岬

一の宮の次驛太東から約三十町、九十九里の南端を劃して遂に飯岡の岬と相對してゐる。白色の懸崖十四丈、太平洋の怒濤絶えず岸を嘯んで壯絶である。海水浴場もある。

## 長者町

太東の次驛、海水浴場・別莊地である。

## 大原海水浴場

大原驛は兩國から約三時間、賃金一圓四十六錢。海水浴場は驛から約十町、小濱と稱する海濱にある。八幡岬は東に突出して此處に鎗田城址・八幡神社等あり、太平洋の波濤斷崖に激して快絶、北には太東岬突出して其の間に和泉浦・日在浦を抱き、又海上には岩島・雀島等散在して頗る風色に富んでゐる。

驛から東六町の大聖寺の不動堂は特別保護建造物、又照願寺の見真大師繪傳は國寶となつてゐる。

## 〔御宿、勝浦附近〕

(御宿海水浴場、勝浦海水浴場)

御宿、勝浦附近



## 御宿、勝浦附近

**御宿海水浴場** 御宿驛は大原から二つ目、御宿の名は、最妙寺入道時頼行脚の際此處に宿したのに基づくといふ。海水浴場は驛から五町、東西北の三方丘陵に圍まれ、南方は網代灣に臨んで風景佳。三夜臺は殊に眺望に富み、月の名所となつてゐる。

**勝浦海水浴場** 勝浦驛は御宿の次、房總線現在の終點、兩國から約六十七哩、三時間半賃金一圓六十三錢。海水浴場は驛から五六町。附近一帯の海岸を串濱といふ。勝浦岬は東南に斗出して勝浦灣を抱き、天然の良港を成してゐる。加ふるに海岸の丘陵は綠樹を載いて海に迫り、房總沿線稀に見る勝景である。

附近は漁利が多いので、灣内には常に漁船の帆檣が林立し、水産物の集散が盛に行はれて市況が活氣に充ちてゐる。特に夏季は避暑の客で非常な賑ひである。

旅館——勝浦館、幸前、一文字屋。

勝浦までは東京から日歸りが出来るが、是から南して安房に入り、日蓮上人の遺蹟廻りをするには、現在では少くも一晚泊らねばならぬ。でも非常に愉快な旅路だ。

## 〔小港、鴨川附近〕

(誕生寺、鯛の浦、清澄寺、鏡忍寺)

**誕生寺** 小湊の日蓮上人誕生の地に建てられたのが誕生寺、小湊は安房の東北、上總界に近い漁村で、勝浦から四里半、自動車も馬車も人力車もある。自動車なら約五十分、一圓五十錢、馬車なら二時間、八十錢。

途中勝浦から二里の興津や其の又一里先きの濱行川等は、安あがりの海水浴地として夏時客が多い。濱行川の先きの安房界に近い大澤を過ぎると、やがて名に高いおせんころがいの難所にさしかゝる。斷崖海に迫つて一條の路の通ずる處、一步を過ては千仞の淵、膽を冷さぬ旅人はないが、其の代り又天下の絶勝、巨瀉直ちに脚下の岸を嚙んで壯絶極りない。

此の難所を過ぐれば早や安房國、小湊は程近い。寺は小湊山の麓、鬱蒼たる山林を繞ら

小港、鴨川附近

して境内幽邃、宏壯なる堂宇其の間にあつて、誠に一宗の靈地たるに恥ぢない。

### 鯛の浦

小湊の海濱の稱であつて、或は妙の浦に作る。往時日蓮上人が此の浦の鯛の漁獲を禁じてから、里人は之をおとめの鯛と稱し、今に至つて猶ほ其の漁禁を嚴守してゐるので、此の浦には鯛の群集するもの甚だ多く、中には大いさ數尺に及ぶものもある。岸より舟行數町、手を叩けば群を成して浮び來る様誠に奇觀である。

### 清澄寺

小湊から二里半、途中一里十町の末津まで馬車・自動車があり、尙ほ人車は山麓まで通ずる。寺は國境に聳ゆる清澄山(一二八〇尺)の頂にあつて寺域一萬五千坪、十五間四面の本堂を始め觀音堂、鐘樓、寶篋塔、方丈等あつて規模宏壯、加ふるに山中其の名の如く氣清澄にして自ら塵寰を脱し、日蓮上人大悟得道の所以もさもこそとうなづかれる十二歳にして小湊から此處に送られ、諸佛坊道禪を師として學び、十八歳にして山を出で雲水の修業十有五年再び歸山した當時の蓮長坊こそは、實に千古の英僧日蓮上人其の人であつた。寺の西方一岩石の上の朝日堂は、建長五年四月二十八日、上人が太平洋の彼方さ

し昇る旭を仰いで、始めて、南無妙法蓮華經を唱へた處だといふ。

傳説によれば、清澄山は太古既に天命鎮座あり、後光仁天皇の寶龜二年一僧來りて

千光山金剛院は清澄寺を開創し、後慈覺大師來つて中興したといふ。

天晴れた日は、頂上から、南は伊豆半島、西は富士・箱根、北は筑波、東は際限なき太平洋を望んで、轉々萬古の靈地たるを悟らしめる。

頂上には清澄の部落があつて、建具の製造と寺の餘澤とで生計を營んでゐる。

### 鏡忍寺

天津から西、東條村の小松原にある靈跡。文永元年日蓮上人が鎌倉から小湊に老母を歸省するや、邑主東條景信に要撃せられ、法弟鏡忍、日玉、天津城主工藤吉隆等上人を護つて此に死し、上人亦傷いたが、景信の太刀上人の念珠に受け止めらるゝに及んで忽ち落馬し、後程なく悶死したと傳へられてゐる。寺は即ち鏡忍戰死の跡、宗祖太刀受の念珠、鏡忍坊の血の袈裟、景信の折太刀等を寶藏してゐるといふ。

天津から鴨川に至る間は約二里、此の間にある東條村大字廣場は頼朝が千葉廣常の許に

八幡宿、木更津、上總湊附近

使者(和田義盛)を遣した處。

附近は漁業が盛で、鴨川は外房第一の繁昌地、又風景に富んで居る。

鴨川から北條線現在の終點たる太海まで約三里、馬車も自動車もある。又鴨川保田間は約八里、自動車がある。

旅館——(小湊) 清海屋、伊勢屋。

(鴨川) 吉田屋、相模屋。

### 五、八幡宿、木更津、北條、波太方面

#### 〔八幡宿、木更津、上總湊附近〕

(八幡宿海水浴場、飯香岡八幡宮、木更津海水浴場、  
富津岬、新舞古、鹿野山、萩生の黄金井)

#### 八幡宿海水浴場

八幡宿は兩國から約一時間半、賃金七十六錢。海岸一帯は遠淺で、泳ぐに危険なく、潮干狩にもよい。松林が遠く続いて袖ヶ浦の風景愛すべく、南部の姉が崎木更津等と共に別荘地として發展しつゝある。

#### 飯香岡八幡宮

驛から西二町、天武天皇の白鳳年間の創建、日本三岡八幡の一に數へられ、今縣社に列してゐる。壯麗なる社は西面して、鳥居の下は近く東京灣の靜波に臨み、眺望絶佳、加ふに一萬二千餘坪と稱する境域は、古杉老杉翁鬱として其の間櫻・梅多く點綴し、花を賞するにもよい。又本殿の左右には大公孫樹がある。

驛の附近八幡小學校の敷地には、足利義明の館跡あり、義明が小弓御所から移り住んだ處だといふ。

又八幡宿の南市原村大字總社の地は、國府・國分寺の跡として名高く、次驛五井の養老川の川口は五井の鼻と呼び、海中に突出して風光が佳い。

#### 木更津海水浴場

木更津は兩國驛から約二時間、賃金一圓十六錢。灣内水が淺いが、八幡宿、木更津、上總湊附近

八幡宿、木更津、上總湊附近

東京灣内の要津で船舶輻湊し、また久留里線の接續點として君津郡の中心地、上總第一の都邑である。

海水浴場は富士を望んで風光佳、夏季非常な賑ひであるが、只水が餘り清くない。

木更津といふのは、昔日本武尊が東征の際、例の弟橘姫を失うて追慕します、此の海岸を彷徨去るに忍びなかつたので、後の人が君不去と名づくるに至つたといふ。驛の北十五町、町内字吾妻にある吾妻神社は姫を祀つてある。

上總の名山鹿野山は此處から約五里、登山路はあるが、今は佐貫町からするのが便利である。

木更津から南すれば、鹿野山が左方に、銚山が行手に、東京灣の彼岸が右方に近づいて次第に風景が複雑して来る。富津の岬が遠く海中に突出して観音岬と近く相對するあたり續いて三浦半島の丘陵の起伏して呼ばば應へんとする風情は、實に此の沿線中の絶勝であらう。

富津岬 木更津の次は周西、其の南を流るゝ小糸川の河口に臨む人見山には、妙見堂があつて、展望の快潤を以て有名である。

周西の次驛は青堀(驛から六町に鏑泉がある)、富津岬の燈臺は、此處から西南一里二十町富津岬の先端にある。富津洲は海に突出すること約一里、昔から交通の要地である。浦賀水道を隔て、相摸の觀音岬と相對し、其の間約三里、洲上に砲臺があつて、觀音岬砲臺と共に東京灣の重鎮となつてゐる。洲上稍々陸に入つた處に富津の町があり、附近に郷社八阪神社や日蓮宗の成就寺等がある。

富津洲から南、佐貫に至る海濱は千草濱と稱し、「咲き匂ふ千草の浦の潮風に秋いろの波ぞよせ来る」の古歌に聞えてゐる。

新舞古濱 青堀の次驛の大貫の海岸も風趣に富んでゐるが、更に佳いのは其の次驛の佐貫の海岸である。驛から西十町、青松白砂の佳景を有して新舞古と呼ばれてゐる。海水浴にも適してゐる。

八幡宿、木更津、上總湊附近

八幡宿、木更津、上總湊附近

### 鹿野山

周南村にあつて、佐貫驛から東二里、内約一里の間人力車の便あり、車賃九十錢。周西驛から約三里、車賃二圓。

總房の最高峰、高さ一千五百尺、展望の雄大を以て聞ゆる名山であり、又夙に靈場として著はれてゐる。

山上に眞言宗に屬する古刹鹿野山怒院神野寺がある。聖徳太子の草創と傳へられ、又下つて親鸞上人も此處に留錫せられたことがあるといふ。往時は寺域六萬坪を占めてゐたと稱せられ、今猶ほ宏壯なる伽藍人目を驚かすものがある。山上には此の巨刹を中心として左右に鹿野宿があり、遊覽者避暑の客を以て榮えてゐる。

此の宿外更に東南には開瀾幽靜なる鹿野山公園あり、此處からは所謂鹿野山九十九谷の大觀を恣にすることが出来る。公園の背後の白鳥山上には日本武尊を祀る白鳥神社がある。又西北鳥居崎の地は、實に十三州を展望すべき處であつて、東京附近稀有の眺望を有する鹿野山をして有名ならしむる要素の一は、實に此の鳥居崎にある。

山頂から上總湊に下る道があつて、其の間二里半。

旅館——叻々館。

萩生の黄金井 佐貫の次驛上總湊から南一里十五町、竹岡村にあつて古來辨天窟の黄金

井として知られてゐる。所謂光藻であつて、其の光輝は四五月の候が最も強いといふ。

湊は風景に富み、海水浴の客が多い。又汽船の寄地航である。

### 〔鋸山、勝山附近〕

(鋸山、勝山海水浴場、岩井海水浴場)

鋸山 湊を發して次驛濱金谷(海水浴場)に來ると、鋸山の奇峰は愈々近き、眼前を壓して屹立してゐる。そして凝灰岩の山骨露に、層向に並行して處々に小斷層のある有様から、石材切出の狀況など手に取る如くである。此處で下車して登山すれば、登路僅に三十分ではあるが、裏道で峻峻であるから、寧ろ其の山下の隧道を過ぎて次驛保田からする

鋸山、勝山附近

## 鋸山、勝山附近

がよい。同驛からは山麓まで十七町、表道で登山容易、約二時間を要する。

鋸山は總房の國境をなす山脈の西端を占めて海拔一〇六九尺、山頂は月輪(西)瑠璃(中)日輪(東)の諸峯に分れ、其の西端は明金崎となつて海に迫り懸崖をなしてゐる。瑠璃山上の十州一覽臺は、其の名の如く、十州の山河を展望すべき絶勝の地、南方中腹の日本寺が乾坤山を號とするのも、誠に首肯に價するものがあつて、其の境内からの眺望も極めて雄大である。

日本寺は今曹洞宗に屬してゐるが、寺傳によれば、神龜二年行基僧正の創建で、七堂・十二院・一百坊の盛運を極めたこともあるといふ。今衰頽してゐるが、猶ほ境内半方里餘(今公園となつてゐる)、殿堂・洞窟多く、其の間に所謂五百羅漢あり(羅漢の數一千餘體に及ぶといふ、俗に羅漢寺と呼ぶ)、天下の巨利たるに恥ぢない。

鋸山以南安房の海岸は風光に富み、且つ氣候極めて温和で、到る處保養の適地あり、夏季海水浴客の多きは更なり、冬季亦避寒の客が多い。

鋸山の南登山口保田は、先づ其の始る處である。保田驛、兩國から三時間餘、一圓六十五錢。

**勝山海水浴場** 保田の次驛、兩國から三時二十分、一圓六十九錢。小灣に臨んで浮島其の灣口を扼し、風光佳く、避暑の客が年々増加する。

町續きの沿岸の獵島は、東鑑に見ゆる古跡で、頼朝が石橋山から遁れ、扁舟に棹さして著いた處である。

**岩井海水浴場** 勝山の次驛、風光佳、海水浴場として避暑する人が多い。殊に附近に鑛泉があるので、一層都合よい保養地である。鑛泉は岩井村字高崎にあつて高崎鑛泉と稱しアルカリ性鹽類泉、透明微臭、神経病・皮膚病・婦人病等に効がある。岩井驛から十町。

旅館——湯本館、清涼館。宿泊料一圓五十錢乃至二圓五十錢。

岩井附近には又八犬傳で有名な富山がある。岩井村大字合戸の東に聳えて展望に富んでゐる。且つ又天富命の傳説ある靈山である。驛から山麓まで半里。

## 鋸山、勝山附近

岩井の次驛富浦も海水浴場として適地である。

### 〔北條附近〕

〔那古船形の観音、北條館山、洲崎、安房神社、野島崎燈臺、國府國分寺の跡、里見氏城址、延命寺〕

#### 概説

房總半島の南部、北の大房岬と南の洲崎とによつて大東京灣東岸の一灣を扼し其の咽喉をなすものは實に館山灣である。灣内は沖の島・鷹の島等があつて風光に富み、又遙に富嶽を望んで眺望開闊、夙に鏡ヶ浦の名によつて著はれ、海水浴客の多い處であるが、又其の位置・地勢上重要地點として沿岸の北條・館山の如きは、今日安房第一の繁昌地となつてゐる。而も此の地方は、往古から安房の中心たりし地として、天・富命の遺蹟を存し、又國府・國分寺を始めとして幾多の古代文化を語るべき史蹟に富んでゐる。

#### 那古・船形の観音

那古船形驛は富浦の次驛、有名な兩観音に近い。船形観音は船形山

普門院大福寺、那古観音は補陀洛山普門坊千手院と稱し、共に行基僧正の開基に係り、其



館山北條

の作つた観音によつて名高く、懸崖に倚る其の建築によつて著はれ、又同じく鏡ヶ浦に望んで風光快闊、海水浴場となつてゐる。

殊に那古は阪東三十三ヶ所の一、安房五大寺の一となつてゐる。

#### 北條・館山

那古船形驛の次驛は安

房北條、兩國から約三時四十七分、賃金一回九十錢。北條と館山とは潮人川を夾んで館山灣岸中部の地を占め、風光佳、灣内水清く波靜かで海水浴場に適し、共に榮えてゐる。兩地とも東京

## 北條附近

灣汽船の便あり、殊に館山港は水深大にして大船巨舶を容れ、東京灣口の重鎮となつてゐる。

北條の八幡には、第一高等學校・高等師範の水泳場があつて、沖の島・鷹の島を回る遠泳が行はれる。又館山公園からの眺望は壯大である。

**洲崎** 館山灣の南を劃して海中に突出し、三浦三崎と海上七里を隔て、相對する岬角である。維新前には北の大房岬と共に砲臺を置かれたが、今は其の跡を留むるのみである。眺望の雄大を以て聞えてゐる。古社洲崎神社がある。

洲崎から東南布良岬に至る間は平沙濱と呼ばれ、三原山の噴煙を望んで眺望豪壯、布良岬には測候所があり(北條から約三里)、其の東南には根本の海水浴場がある。

**安房神社** 北條驛から南二里、神戸村大神宮にある。人車賃五十錢、馬車賃三十錢、自動車賃一圓。官幣大社であつて、天富命が其の祖天太玉命を祀られた處、攝社には天富命と太玉命の弟大忍日命とを祀つてある。

社域は三面山を負うて西の方豪壯なる風景を有する平沙濱に向ひ、形勝の地を占めてゐる。此の神社の此處に鎮座することは、實に此の地方の古代文化を語るものであつて、此處に參拜すれば、漫に太古に於ける國土經營の宏圖を仰ぐ次第である。

太玉命が、大神が天の岩戸に御こもりまし、時和幣を作りて獻り、後齋庭に仕へて齋部氏の祖となられたのは夙に神代史に著れてゐる。神武天皇の天業を恢復し給ふに及んで太玉命の孫天富命は、勅を受けて種々の神寶木綿麻等を作り、一族を率ゐて阿波の國から更に東國に赴いて開拓、耕種に努め、又漁業をも指導して生業を盛にし、茲に其の祖を祀られたのが、此の神社であるのを思へば、轉々敬虔の念が加るものがある。由來安房の國諸所に天富命の遺跡として傳ふるものあるのも、誠に偶然でないのである。

**野島崎燈臺** 白濱村大字白濱にあつて、館山から布良を経て約四里、館山から一日一回馬車の便がある(片道八十錢)。安房の國の最南端、突兀たる危巖の地角突出すること約三町、太平洋の巨濤之に激して飛沫を生ずる處、白色の高塔の聳ゆるのが即ち此の燈臺であ

## 北條附近



つて、海拔一三三呎、光芒四十海里に及ぶ。

### 國府・國分寺

國府跡は國府村大字府中の地、國分寺は館野村大字國分にある。國分寺は行基僧正の開創に係り、今猶ほ規模大にして舊官寺の實を物語つてゐる。其の境内に仁明天皇の朝、旌表された孝子伴直家主の石碑があり、附近瀧川には其の墓碑がある。何れも北條から一里内外の地點にある。

**里見氏城址** 房總を風靡した里見氏の稻村古城址は、館野村大字稻村にあつて、北條から約一里、其の次驛九重からすれば、約三町。

**延命寺** 稻村城址から約半里、北條から約一里半、國府村大字本織にあつて、里見氏の菩提寺、堂宇壯麗にして安房五大寺の一に數へられてゐる。長谷山と號し、禪宗に屬し、永正十七年里見義堯の草創、僧梵眞の開基である。里見氏の時代には二百五十石、又徳川時代には三百石を領してゐたといふ。里見義成の子義通以下九代の像及び其の墳墓があり又種々の寺寶を藏してゐる。

## 〔千倉、波太附近〕

(千倉鑛泉、石堂寺、太夫崎、波太島)

### 千倉鑛泉

北條から二つ目の千倉驛から十七町、鹽類泉で皮膚病婦人病等に効がある。地は又外洋に臨んで海水浴場も近く、鐵道開通以來浴客が増加した。千倉公園や嘉吉公園は甚だ眺望に富んでゐる。

温泉旅館——千倉温泉。

海水旅館——鈴木、氣吉館、川尻館。

### 石堂寺

千倉の次驛南三原から約一里、丸村字石堂にあつて神龜三年行基僧正の開基、慈覺大師の中興に係り、天台宗に屬してゐる。本尊は行基僧正自作の十一面觀世音、仁王門安置の仁王尊は運慶の作と稱せられ、又寺寶中阿育王の塔及び智證大師自筆の不動坐像は最も珍とせられてゐる。

千倉、波太附近

## 千倉、波太附近

**太夫崎** 南三原の次は、和田驛、次は江見驛、和田から江見へかけての海岸は外洋萬里の波濤を望んで眺望頗る豪壯である。

太夫崎は太海村の大字吉浦から洋中に突出した岬角で、此處から東北波太島附近を眺望する大景は、宛然雪舟の山水畫を展開せる如く、眞に外房第一、又實に天下の奇勝である。

尙ほ太夫崎の空洞は、義經が鴨越の逆落に乘用した名馬太夫驪の傳説を有する。

**波太島** 江見の次は太海驛、兩國から九十八哩二分、約四時五十分、二圓二十四錢。北條線現在の終點。此處に波太島の勝がある。島は陸を距ること一町、周圍十四町、岩石から成る。頼朝の遺蹟を留め、又頼朝以來の舊家たる平野仁右衛門の家がある。

太海驛から鴨川町までは約三里、勝浦までは約十一里、此の間を自動車で走れば（賃金六圓五十錢）、約三時間、日歸りで房總を一周することが出来る。

## 六、手賀沼、土浦、水戸、平潟方面

## 〔松戸、流山、野田附近〕

（園藝學校、流山、野田の桃、利根運河の櫻、東漸寺）

**園藝學校**

常磐線松戸驛から東南八町（松戸驛まで上野から四十六分、三十一錢）、千葉

縣農事試験場と相接近して置かれ、全國に聞えた設備を有してゐる。松戸は市川町から北約一里半、古來濱街道の要驛として著れ、水陸の便に富み、市況が賑はつてゐる。

**流山**

松戸の次驛は馬橋、流山は馬橋驛から西北一里半、其の間輕便鐵道があつて賃

金十九錢。味淋の醸造で聞えた處、近頃は醬油の産額も多くなつた。江戸川に臨んで風景に富み市川・松戸・野田・關宿等と並んで小利根通ひの汽船の寄航地で、亦水陸共に便である。殊に小利根の川漁や其の料理は確に一日の清遊に價する。

松戸、流山、野田附近

松戸、流山、野田附近

馬橋驛から二町の萬満寺の仁王尊は、運慶の作、國寶となつてゐる。

**野田の桃** 馬橋から二つ目の驛は柏、此處から西北野田に北總鐵道があつて(九哩一分)賃金三十二錢。野田は流山から北方約三里、醬油龜甲萬や木白で其の名の天下に響いた處町には醬油醸造家の大きな庫が立ち並んで確に其の特色を顯はしてゐる。そして何處となく醬油の香がたゞようてゐる心地がする。

驛から七八町の處に野田公園がある。此處が即ち野田の桃のある處だ。此の公園は、南北一里東西五六町の自然味に豊かな座生沼(一名沙王湖)に臨んで風光佳、そして此の沼の周囲の村落は桃樹に富み、陽春の頃は、湖邊滿目紅雲に鎖される好景を現出する、これ野田の桃が、近郊に冠たる所以である。

尙ほ驛から十二町には集樂園、北八町には愛趣園がある。

**利根運河の櫻** 北總線中、野田驛から二つ手前の運河驛から西北一町、利根・小利根兩河を連ぬる運河の兩岸は櫻樹連り、春光遍き頃は彩霞二里に亘る。

柏驛附近の廣野は古の小金ヶ原であるが、今は開墾されて村落をなしてゐる。

**東漸寺** 馬橋と柏と兩驛の中間の北小金驛から南四町、小金町にある佛法山一乘院東漸寺は、淨土宗の古刹、關東十八檀林の一として夙に聞えてゐるが、境内の絲櫻亦名に高い。

〔手賀沼、我孫子附近〕(手賀沼、布施辨天、子の神藥師)

**手賀沼** 東葛飾郡の東北隅にあつて其の一部は印旛郡に亘り、東西三里半、湖幅は三十町乃至數町、周圍約八里あつて、木下川によつて利根川に注いでゐる。印旛沼と同じく利根川の河道變移の爲に生じた河跡湖である。

蘆荻多く生じて水禽に富み、遊獵にとつて絶好の場所である。而も湖岸到る處風趣に富み、殊に北岸利根との間に横る丘陵地からの眺望は甚だ勝れてゐて、附近は近來別莊地と

手賀沼、我孫子附近

## 手賀沼、我孫子附近

なるに至つた。

湖岸に近い驛は、成田線の布佐(湖岸から北東五町)及び其の西方の湖北及び我孫子で、我孫子は柏の次驛、成田線と常磐線との分岐點、上野から一時十七分、賃金五十四錢。湖岸から八町。

**布施辨天** 我孫子驛から北三十町、富勢村大字布施にあり、利根河畔の丘上に位して眺望宏闊、樹間より利根の白帆を數ふべく、附近には花紅葉の勝もある。

辨天は江の島・不忍と共に關東三辨天の一に數へられ、傳説によれば、辨天は弘法大師の自作、大同年間紅龍の土塊を捧けて作つた島上の窟中に出現したものであつて、後弘法大師此の地方に巡錫の際其の奇靈を聞いて像を一見し、それが曾て但馬國朝來郡筒江に安置した自作の辨財天なるに驚いて勅許を得、弘仁十四年伽藍を建設して祀つたのが今の辨財天であるといふ。

尙ほ境内の大師堂は、相馬八十八ヶ所の一である。

**子の神薬師** 我孫子驛から東南七八町、手賀沼に臨んだ小高い丘の上にある。男女共腰

から下の病氣に靈驗があるとして參詣者が多い。

## 〔取手、牛久沼附近〕

(岡堰、板橋不動、牛久沼、龍ヶ崎、金龍寺、牛久菰荷園、女化稻荷)

**岡堰** 我孫子の驛を過ぎて利根川の鐵橋を渡ると、對岸は茨城縣の門戸たる取手である。取手は濱街道の一驛、常總鐵道の分岐點として交通の要地を占めてゐる。驛から西北約一里(馬車あり)、常總鐵道の寺原驛から北十五町(北相馬郡山王村)の岡堰は、關東三大堰の一で、小貝川の水を堰き、附近數千町歩の灌漑の用をなしてゐる。附近はまた櫻樹に富み、心靜かに花見をするのによい。

**板橋不動** 取手驛から北三里(馬車の便あり)、次驛藤代から約二里半、板橋村大字板橋にめつて、伽藍宏大、本尊の不動明王及び二童子は國寶となつてゐる。境内に岡田寒泉の

取手、牛久沼附近

## 取手、牛久沼附近

碑がある(常總鐵道守谷驛から東一里三十町)。

取手驛の東一町長禪寺は相馬八十八箇所の一、利根川の美景を眼下に見て眺望が佳い。

**牛久沼** 藤代驛を出て小貝川の鐵橋を渡り、更に小貝川に注ぐ小川を過ぎて北進するとやがて次驛佐貫に着く。此の附近から左方に近く水波漫々たる好風景が展開して来る。之が即ち蓴菜で囲えた牛久沼であつて、此のあたりでは汽車の速力の大なるを怨めしくさへ感じられる。

牛久沼は稻敷郡牛久沼村にあつて周圍約五里、北に向つて又形をなした珍しい形の沼で南方に於て開口して小貝川に注いでゐる。先きに佐貫驛に入る前、小貝川の次に過ぎた小川がそれである。

霞ヶ浦南部地方の地勢の變動の著しい事は人のよく知る所であるが、牛久沼の如きも其の變動の爲に生じた河跡湖であつて、此のあたりから霞ヶ浦にかけて大内海の湛へてゐた時代を想起すると、蒼桑の變が如實に悟られて、今更ながら地殼の變動に對する興味が湧く。

く。

**龍ヶ崎** 佐貫驛から輕便鐵道が通じてゐて、龍ヶ崎木綿の産地として、又天正中土岐左衛門尉頼貞の據つた城址によつて知られてゐるが、面白いのは前述の此の附近の地勢の變動を目的のあたり示してゐる其の地形である。是から東方霞ヶ浦の沿岸の江戸崎地方にかけては、地理學上研究の資料の多い處である。

江戸崎に近い高田村の椎塚介墟は、考古學上有名なものである。

**金龍寺** 佐貫驛の東方十町、駒柴村大字若柴にあつて曹洞宗の名刹、新田氏と關係の深い寺である。寺は新田義貞の菩提の爲に應永年間天真自性禪師の開基せる所、もと上州金山にあつたのを、秀吉の命で牛久に遷し、後寛久年間更に今の地に遷したものであるといふ。

境内には義貞を始め新田氏累世の墓あり、又寺寶中には稀世の逸品唐の李龍眠筆十六羅漢の圖を藏してゐる。

## 取手、牛久沼附近

## 取手、牛久沼附近

寺域は林樹蒼鬱として幽靜、牛久沼を望んで眺望佳、春は殊に清香高き梅花や爛漫たる櫻花に風趣を添へる事が多い。

**牛久葡萄酒園** 佐貫の次驛は牛久、葡萄酒で有名な葡萄酒園は驛から東北三町。

**女化稻荷** 牛久の東に横はる東西南北各約三里の女化原の中にあつて、牛久及び佐貫驛から何れも約一里ある。昔此の地の百姓忠七に救はれた老狐が美人に化して忠七に嫁し、一女二男を擧げて後去つて行く所を知らず、依つて里人が根本ヶ原を改めて女化原と稱するに至つたといふ。

取手驛、上野から一時二十七分、五十四錢。

佐貫驛、上野から一時四十二分、七十六錢。

牛久驛、上野から一時五十一分、八十四錢。

## 〔土浦、石岡附近〕

(土浦城址、西子岡公園、霞ヶ浦、筑波山、小田城址、戀瀬川、高濱、石岡町の古跡)

## 概説

土浦・石岡は共に醸造業を以て榮え、茨城縣下屈指の都邑、濱街道中の要驛として、常磐線の通ずる外、道路各地に通じ、殊に大湖霞ヶ浦の沿岸に位して水上の便に富み、産業交通上の重要な地位を占めてゐる。又土浦は阿見飛行場の設置さへあつて、軍事上重要な地點ともなつてゐる。

而も此の兩地は、現在に於て然るのみならず、又既に早く古代から重要地點となつてゐたことは、幾多の史實・文獻・傳説等に徴して明らかであり、且つ又一面歴史的地理學の研究上からも證せられるのは、頗る興味ある事實である。

即ち霞ヶ浦南部地方が既述の通り地形上格段の變動を経てゐるに反し、此の附近は、常陸風土記に據つて見ても、其の當初と比してさしたる變化を來してゐないことが明らかで

土浦、石岡附近

## 土浦、石岡附近

今日の恵まれた土浦・石岡の位置・地形は、大體に於て移して以て古代の兩地のそれと見る  
ことが出来るからである。

**土浦城址** 牛久驛の次荒川沖を経て猶ほも東北に走ると、やがて女化原の高原が盡きて  
低地現はれ、眼下に土浦の市街と浩蕩たる霞ヶ浦の大景が展開して来る。而も左方には筑  
波の秀峯が次第に近づき寄るが如く、思はず快哉を叫ぶ。かくて土浦入り朝する櫻川  
(一名筑波川)の鐵橋を渡れば、直ぐに土浦の驛に着く。

土浦の町は、街衢整ひ、建物も地方の町としては立派で、活氣に富んでゐる。城址は驛  
から七八町、町の中央にあつて、今新治郡役所や裁判所がある。霞ヶ浦に枕み、南北に丘  
陵を控へて形勝の地である。

傳説によれば將門の創築で、永亨中若泉氏此に據り、後幾多の變遷を経て豊臣氏に歸し  
徳川氏に及んで又諸氏此に封ぜられ、最後に土屋氏の居城となつて明治の廢城に及んだの  
である。

**西子岡公園** 驛の附近にあつて櫻樹に富む。昔土屋氏が翠松亭を設けた處で、八景の歌  
に知らるゝ勝景を有してゐる。

汽船の發着所は字川口町にあつて銚子・鹿島方面に毎日數回の往復がある。

**霞ヶ浦** 本邦第二の大湖(海跡湖)、面積十二方里餘、周圍三十二里餘、東西六里半南北  
六里、東は行方半島によつて北浦と隔て、北より西にかけて高濱入・土浦入の二大灣と古  
渡入の小灣とを有し、排水口は二小流に別れ、其の一は横利根で南流して利根本流に注ぎ  
一は北利根で東南流して浪逆浦に入つてゐる。水深極めて淺く、平均深度僅に二尺半、二  
尋線内は全湖面の半ばに達し、中央の最深點も僅に四尋に過ぎない。

此の湖の南部地方の地形の變動及び其の水質が變化して鹹水湖から淡水湖に變つたこと  
従つて其の水産物の變化したことは比較的新しい時代のことであつて、常陸風土記以下種  
々なる記録や傳説や乃至現在の事實が歴々として之を證明してゐるのは頗る興味あること  
で、熟々歴史的地理學研究の愉快を感ぜられるものがある。

## 土浦、石岡附近

## 土浦、石岡附近

現今淡水湖として水産の利を興ふること多く、且つ交通に資するものが甚だ多い。石岡の門港たる高濱及び土浦は、江戸崎・牛堀等と共に其の要津をなし、汽船のみならず、和船の輻湊するものが甚だ多い。

湖上湖岸到る所勝景に富み、殊に其の南部地方水郷の美は名高く、就中麻生の天王崎は湖岸第一の勝景と呼ばれてゐる。而も是等の勝景は、千古變らぬ筑波の優姿を添へて一層の趣致を加へてゐる。

**筑波山** 關東平野を彩るべく造化が其の一角に置いた靈峰筑波の山、一度は此に登攀して八州の平原や富士・淺間・日光を望む宏闊な眼界を下瞰するのもまた快事ではないか。殊に土浦から分岐して其の山麓の傾斜地にある筑波町に驛を有する筑波鐵道は、山頂躡滿開の五月下旬には、上野から直通列車が運轉されて、片道所要時間三時二十分、山頂の探勝をもなして東京から樂に日歸りの出来る便利さ、往復賃金僅に三圓十五錢。筑波町は夏時避暑に出かけるにもよい(町には筑波神社及び中禪寺がある)。

旅館——江戸屋、結束屋、關屋、柳屋等。

筑波山は標高二九〇〇尺(八七八米)、頂は男體、女體の二峰に分れ、中腹から山腹は花崗岩、山嶺は閃綠岩から成つてゐる。而して太平洋から吹き來る長風が濕氣を齎して此に衝撃するので、松杉蒼鬱として茂り、殊に其の南側には美しい林相が發達してゐて、「此の面波の面」にかけはあれど」と詠じた古歌のある所以が悟られる。

女體山は筑波町から約二里、故山階宮菊麿王殿下の御經營になつた氣象觀測所・伊弉册尊祠・大黒石・出船入船石・胎内くぐり・高天原・石門等あり、男體山は同じく約一里十四町、伊弉諾尊祠・水無瀬川等あり。兩峰の間は約七町、御幸ヶ原といひ、此處に五軒茶屋がある。前記の觀測所は今高層氣象臺といつて、文部省の管轄である。

登山順路は、筑波町街端の中禪寺(往時筑波神社の神宮寺、桓武の朝法相宗の高徳德澄大士の開基、堂塔壯嚴)から右して女體から男體に上つてもよいし、又反對に中禪寺から左して男體・女體の順序によつてもよいが、途中椎尾の藥師に參詣するには、女體を先き

土浦、石岡附近



土浦、石岡附近

にするがよい。何れも上下に要する時間凡そ四時半。

筑波山は筑波鐵道の開通以來登山者や避暑客が激増して、今や遊樂境として益々榮えつゝあるが、千二百年前に出來た常陸風土記に就て見るに

筑波ノ岳ハ。往集歌舞飲喫。至于今不絶也……夫筑波ノ岳ハ。高ク秀于雲。最頂西峰崢嶸。謂之ヲ男神。不令登臨。但シ東ノ峰ハ四方磐石。昇降決乾。其ノ側ニ流泉。冬夏不絶。自阪以東諸國男女。春ハ花ノ開時。秋ハ葉ノ黄節相攜。馱馱。飲食齋齋。騎歩登臨。遊樂栖遲。……詠歌甚多。不勝載車。

とあつて、當時花の春黄葉の秋に男女遊樂の巷となつた狀を巧に叙してゐるので、之を見るにつけても、今日都人士の遊山の地となつてゐる其の起原の遠いのを思ふのである。

**小田城址** 筑波鐵道土浦驛から五つ目、筑波驛から二つ手前の小田驛から程近い筑波郡

小田村大字小田の南部字本城にあつて、廣さ方五町許り、塹濠疊壁の跡のそれと認むべきものが猶ほ存在してゐる。城は文治年間八田知家の築く所で、爾後世々其の居城となり、

後知家七世の孫治久に及び、當時吉野より義良親王を奉じて陸奥に入らんとし、途上暴風に遇うて常陸の國に漂着された北畠親房を迎へて一時官軍に應じたが、後復賊に降り、永く後人の惡みを受けてける。其の後歴世足利氏に屬し、末世北條氏に歸し、上杉氏の故臣太田氏に攻められて落陥り、太田氏代つて當城主となつたが、慶長年間に至つて、其の移封により廢城となつた。

**戀瀨川・高濱** 土浦から神立驛を過ぎて猶ほも東北に進むと、やがて霞ヶ浦の一角高濱

入りと此に注ぐ戀瀨川沿岸の低地並に其の河口に近い高濱の町とが眼前に現れて来る。戀瀨川は風土記に所謂信筑川で、又戀瀨川と呼ばれる所から古來多く歌枕に入つて、「水の上の泡と消えなば戀瀨川ながれてものは思はざらまし」など詠まれてゐるが、戀瀨はもと國府瀨なるを考へると更に面白い。

又高濱の地は、昔から舟遊避暑の樂境となつてゐて、風土記は其の狀を委しく述べてゐるが、之は一面當時の國の中心たる府中の外港、霞ヶ浦舟運の要津として、人口集中の顯

土浦、石岡附近

著であつたことを物語つてゐるもので、亦實に興味ある材料である。高濱の存在は、亦現在の石岡町繁榮の一要素であつて、佐原・香取・銚子等に汽船の便がある。石岡を距る東南約一里。

**石岡町の古跡** 石岡町、昔は府中と呼び、明治二年に今の名に改められたと聞くと、誰しも、先づ其の史蹟に想到するであらう。さすがに昔當國政治の中心たりし地とて、今も樞要の地區として恐らく茨城縣下之と比肩するものは尠からう。

此の國府の地に集つた昔の人も、朝夕彼の筑波の姿を仰いでゐたことであらう。此の戀瀬の流に思ひをやつてゐたことであらうと想へば、漫に懷舊の念に堪へない。昔の國府は何れの邊にあつたらうかと探り歩いて、活動してゐる現在の石岡の人は知らぬと答へる。まして地下に眠る昔の人に尋ねべきすべもない。あさるべき文獻もない。たゞ幸に國分寺國分尼寺の跡及び石岡城址等は定かに知られる。

國分寺は、町の北端にあるが、天正年間兵燹に罹つて、再修したもので、何等昔の面影

をととむるものはない。同じく尼寺は、國分寺から西北三町の野中にあつて、今全く廢墟となつてゐるが、併し共に當時の斷礎のみは歴々として跡をととめてゐて、之によつて當時の規模を想察する事が出来るのは、探訪者にとつて誠に幸なことである。

府中城一名石岡城址は町の西方にあつて、或は古の國府の跡かとも考へられてゐるが、明らかでない。古大掾氏の居城であつたが、天正年間に其の族滅び、徳川氏に及んで種々の變遷を経て、元祿以來松平氏の領封となり、其の子孫相繼いで維新の廢城に及んだ。東西五町、南北四町、墨濠の跡が猶ほ歴然として遺つてゐる。

平福寺は驛から十町字貝地にあつて、大掾氏の廟寺、其の十二代の墓と稱する五輪の塔があり、又平國香墓と稱するものもある。

上野から土浦まで二時二十分、一圓四錢。

同じく石岡まで二時四十八分、一圓三十二錢。

## 〔水戸、太田附近〕

(水戸城址、第二公園、常磐公園、常磐神社、彰考館、瑞龍山、西山莊)

**概説** 石岡から北に進んで水戸線の接続點友部を過ぎ、東方に向つて進行すれば、やがて鐵路は細流に沿うて走り、左方丘陵の上梅樹の老幹様椀として枝を交ふるを仰げば、更に右方碧波瀾激として地勢の相開くるものあり、汽車の速力は愈々衰へて「水戸」と呼ぶ驛夫の聲高く、列車は常磐線中並びなき宏壯な水戸驛の中に入る。先きに車窓がら仰いだ丘岡こそ天下の名園常磐公園で、碧水はこれ亦名高い千波沼と思へば、早や抑へきれぬ遊意に胸のをどるのを覺える。

水戸とし聞けば、誰しも聯想する史實に富んだ所だ。南に千波沼を北に那珂川を控へて其の中間に横はる東西五十町南北十町(最狭)に過ぎぬ帯の如き市街。明治維新の大勢を助成した水戸學は此處に起つたのだ。東北の雄藩を制肘して幕府を安からしめた水戸家の居城は此處にあつたのだ。今日なほ水戸の市街を始め、太田の附近は其の水戸學のカラーに彩られてゐる。又三家の一として時めいた昔日の輝かしい名残を留めてゐる。而して其の水戸の市街で遊覽者の必ず見るべきは、驛附近から西方の所謂上市(東方は下市と稱して商業地である)、殊に其の舊城址(第二公園此の中にあり)と常磐公園とであらう。上野から水戸まで三時四十七分、一圓七十六錢。梅花の頃には特に觀梅列車が運轉される。

**水戸城址・第二公園** 驛から數町の處にある。驛附近は、舊二の丸下に當り、もと藩の重臣の邸宅を連ねて淋しい處であつたが、今は鐵道線路が此に集中し、百貨幅濶して市の中心となつてゐる。線路の右方中學校の所在地は舊本丸であつて、もと佐竹氏の據りし處線路を隔て左方師範學校及び博物館のある處は即ち二の丸で、徳川氏の殿宇のあつた場所明治二年焼亡して今一二の樓臺を残し、僅に昔日の面影を偲ばしめる。

更に其の西方一帯の地は三の丸で、天下の形勢に鑑み藩士に文武兩道を講習せしめんと

水戸、太田附近

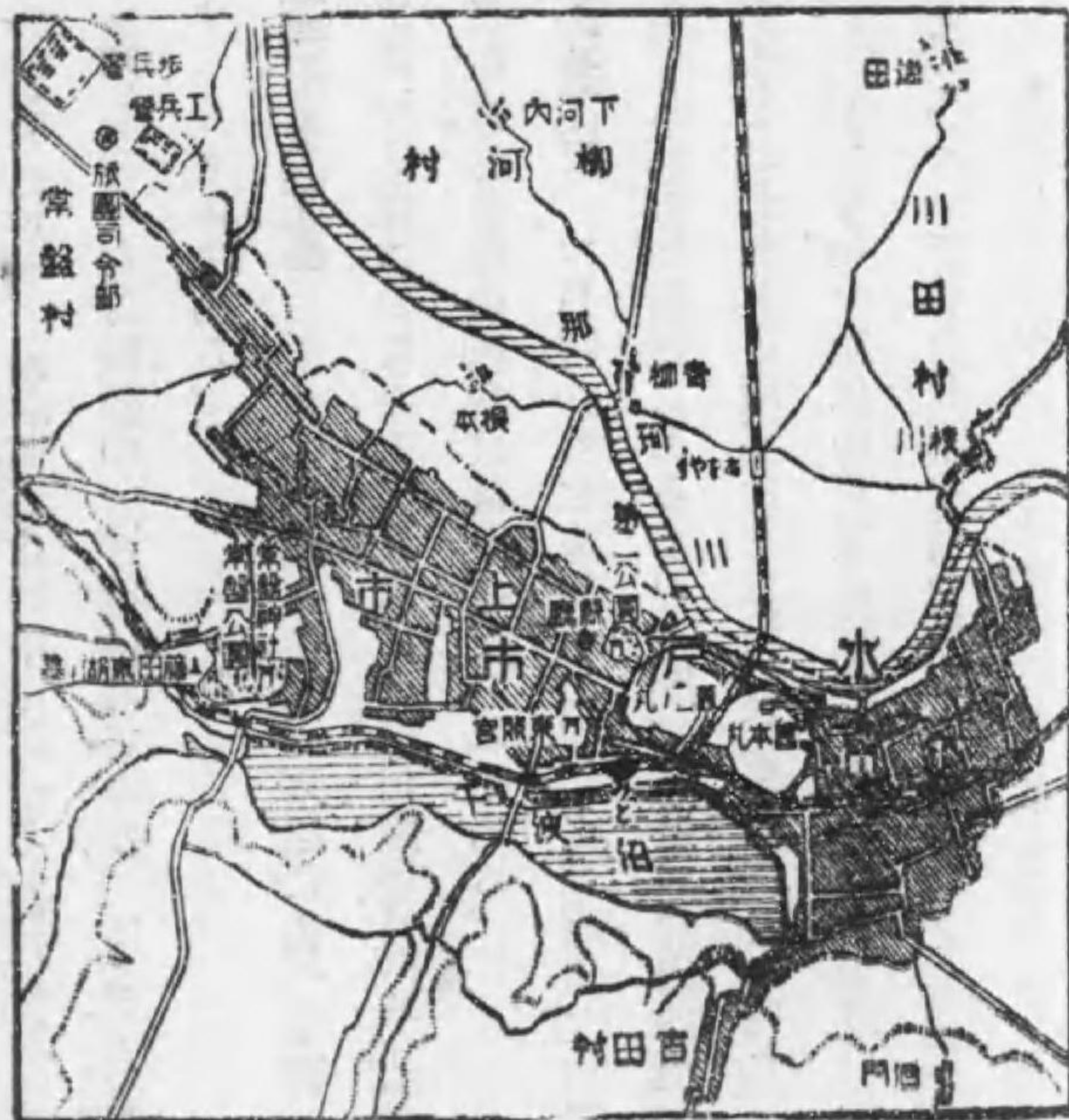
て天保中齊明公が創始された弘道館は即ち此の三の丸に設けられたのであつた。今縣廳及び縣會議事堂の地は其の西方の部分を含め、水戸市高等小學校の地は其の南方馬場の部を含め、残る東北隅一萬七千餘坪の地が即ち第二公園とされてゐる。公園内には舊弘道館の正廳（今幼稚園となつてゐる）を始め、鹿島神社・孔子廟及び齊昭公の撰文及び其の手書なる弘道館記碑を藏する八角堂等あり、又園中梅樹數千株、所謂水戸の梅の一名所である。

常磐公園

驛から約二十町、上市の西南にあつて廣さ約三萬坪、一に第一公園と稱し、日本三公園の一として其の名が高い。園は天保中烈公が創設されて、衆庶と樂を偕にするの意から偕樂園と名づけられた。園中梅樹一萬餘株、水戸の梅の名所として第二公園の右に出てゐる。

加ふるに園の南岨に出づれば、近く千波湖の碧波を俯瞰し、遠く筑波・葦穂の秀容を仰いで風光絶勝、又西端の好文亭は烈公の經營に係り、建築瀟洒、樓上の眺望亦勝れてゐる。

水戸、太田附近



る。

**常磐神社** 第一公園の東隣にあつて義公と烈公とを祀つてある。

水 明治六年の創造、もと縣社であつたが、明治十五年別格官幣社に列せられた。烈公の追鳥狩用として作られた所謂震天動地の太鼓や又公が鑄造された臼砲等を藏してゐる。

**彭考館** 常磐神社の南岨下にある徳川侯爵家の書庫であつて、義公以来の書籍を藏してゐる。義公

の創建に係り、維新前には城中にあつて大日本史の編修所となつてゐたが、維新後城内から移し、今なほ續修印行が行はれてゐる。所謂水戸學の淵源として我が文化史上尤も貴重すべきものである。

**藤田東湖墓** 上市字常盤村の共同墓地にあつて驛から三十二町、碑石には烈公が『表誠之碑』と題されてゐる。又傍には藤田幽谷及び元治元年國難に殉じた士の墓があり、中央に昭武公自筆の殉難之碑が建てられてある。

**瑞龍山** 水戸驛から北方約十二哩、水戸鐵道太田驛(水戸から約一時間)から北約一里五町、久慈郡譽田村にある水戸家歴代の塋域。山内樹木鬱蒼として幽靜、代々儒禮を以て葬典を行はれた其の墳墓は附近河内村産の斑石を以て造られ何等の粉飾も行はれてゐないが、義公を始め歴代の英靈に接する思ひがして漫に低回を禁じ難い。又域内には朱舜水の墳墓もあつて轉々歆慕の情を深くする。

山麓には庫があつて、歴代の寶物を藏してゐる。

**西山莊** 太田驛から西約十町、桃源橋を渡れば老松古杉天に沖する一幽境に入る、而して其の間見出す柴門茅屋こそ義公の隱栖された山莊である。庭前の心字池には夏時自蓮蕉り、窓外には早春馥郁たる梅花匂うて公の心情を物語る。あゝ大日本史、あゝ禮儀類典、不朽の名著此處に成りしかと思へば、今猶ほ公の聲咳に接する心地がして、身はやがて元祿の其の當時の人となる。もとの屋宇は文化中火を失して焼亡し、今のは天保中烈公が全部舊形によつて再建せられたものであるといふ。質朴簡素の其の生活を目のあたり見ては愈々敬慕の情に堪へない。

奥庭には公の木像が安置する土藏があつて、年二回拜觀が出来る。像は端麗生けるが如く、豐頬圓滿にして而も自ら具はる威嚴、之に接するものたゞ敬虔の念あるのみ。

### 〔大洗附近〕

(大洗海水浴場、湊公園、平磯海水浴場)

## 概説

借樂園と相並んで常陸名勝として名高い大洗の附近に於て探るべきは、大洗を含む磯濱町と、北約三十町那珂川の河口にある良港湊町及び湊町の北一里にある當國一の漁業地平磯町との所謂三濱であつて、常陸海岸の勝地中最たるものである。

而して湊町は水戸を距る三里五町、大洗は同じく三里二十五町、其の交通は至便である。

電車、水戸(郡役所前)大洗間、午前五時より午後十一時迄三十分毎に發車、三十七錢。

汽車、勝田(水戸の次驛)湊間、約二十分、十八錢。

人力車、水戸驛から大洗まで一圓十錢。

汽船、水戸(杉山河岸)湊間、一時間三十分、二十二錢。

## 大洗海水浴場

後には翠松鬱々たる大洗山を負ひ、前は際涯なき太平洋に臨んで風景極めて豪壯、海水浴場としては寧ろ北の磯濱に譲るものはあるが、浪の花咲く其の風光を以て四時遊客が多い。而も附近には鬼洗ひの澤、琴引の瀧、烏帽子岩、磯濱八景等の名勝が

多い。

又海水浴場の後方、磯濱町の東大洗岬の丘上には官幣中社大洗磯前神社がある。これが磯節に「磯で名所は大洗様よ」と唄はれる名高い大洗様で、大國主神を祀り、其の草創は齊衡年間にありと傳へられ、社殿は義公の造營に係るといふ。神社は東南に面し、鹿島灘を隔て、遠く大吠岬に對し、風光極めて勇壯、殊に此の境内から望む日の出の景は筆舌の及ばぬものがある。社後の平地子の日が原は亦眺望に富み、烈公の「萬代を松に契りて今日までは子の日の松にひかれ來にけり」の歌を刻した碑がある。

旅館―魚來庵、金波樓、遊神閣、宿泊料一圓二十錢乃至二圓。

## 湊公園

湊は港内水浅く大船を容るゝ事は出來ぬが風波の憂なく、附近の良港として又水戸市の外港として賑ふ地である。湊公園は町で是非とも杖を曳かねばならぬ處。町の西方、驛より南五町にある高い丘で、東は外洋を望み、南は那珂川を隔て、對岸祝町願入寺の蒼翠に對し、眺望頗る勝れてゐる。又附近の館山は、元治甲子の亂に武田耕雲齋が占

河原子、松原、平潟附近

據して幕兵に抗した處である。

湊町の北方高臺には、水戸八景の一たる水門歸帆の勝地がある。

旅館—恵比藤、水港館、高安樓、木村屋、宿泊料一圓乃至一圓五十錢。

**平磯海水浴場** 潮水極めて清澄、波また激しからず、浴場としては大洗よりも却つて適してゐる。眺望も亦愛すべきものがある。

平磯町の北磯崎にある酒列磯前神社は、少彦名命を祀り、亦國幣中社に列し、大洗磯前神社と並稱されて世に聞えてゐる。磯崎は遠く海中に突出し、大洗岬と相對して眺望快潤、加ふるに社域は老樹森々として幽邃である。

旅館—開運樓、平磯館、萬年屋、平野屋、宿泊料一圓乃至一圓五十錢。

〔河原子、松原、平潟附近〕（日立鐵山、勿來巡り）

概説

常陸の海岸は、三濱地方以南に於ては、單調な漁村が平凡な海濱に連るのみで探勝地として求むべきものは殆どない。併し三濱以北に於ては、之と比肩すべきものがないとはいへ、常磐線に沿つて到る處海水浴場・名勝がある。今是等を一と説明することを避けて左に表示しよう。

久慈海水浴場、大甕驛、南半里、

水木海水浴場、同 東十二町、

河原子海水浴場、下孫驛、東十町、

鮎川海水浴場、同 北十五町、

助川海水浴場、助川驛、南三町、

磯原海水浴場、磯原驛、南五町、

右の中助川は常磐線の大磯と稱せられ、磯原は海中に突出した天妃山の奇勝によつて名高い。尙ほ左に右以外の名勝の一二を記さう。

河原子、松原、平潟附近

河原子、松原、平潟附近

**日立鑛山** 助川驛から西北一里半、金屬鑛山として足尾に次いで全國第二位にあり、金・銀・銅等の産出が甚だ多い。鑛區は多賀郡日立町から高鈴村、久慈郡中里村に亘り、百三十三萬餘坪に及んでゐる。大雄院に於ける其の製鍊所は規模宏壯、其の大烟突は海拔一千五百七十餘尺(四七五米)の山頂に位して高さ五百十一尺(一五四米)に及び、巍然として天を摩する其の光景は實に天下無比、東洋一の偉觀として誇るに足るものである。

助川驛から此の製鍊所や事務所のある大雄院まで四軒の間は専用電車鐵道の設けあり、尙ほ主要坑道内には複線又は單線の軌條を敷設して鑛車の運轉に供してゐる。

**勿來巡り** 「吹く風を勿來の關と思へども道もせに散る山櫻かな」八幡太郎義家をして此の千古の絶唱を残さしめた關の址は、常陸北端の驛關本から一里、磐城南端の驛勿來から約半里、其の間には常磐沿線中の絶勝と稱せられる平潟灣を挟んでゐるから、探勝者は是非とも往路若しくは歸路に於て、此の兩驛間を徒歩して、此の史蹟に併せて風光の美を探るがよからう。

平潟灣に臨む平潟の町は、關本驛から東北半里、昔時江戸と奥州とを往復する船舶の寄港した處として、頗る繁昌した歴史を有つてゐる。灣は鷹取鼻初島山鼻の二岬によつて圍まれ、一岬一山皆趣致に富んで、宛然古法眼元信の山水畫を見る感がある。右方岬角の藥師堂、左方岬角の八幡神社、皆此の畫中の好景物である。「このあたり眼に見ゆるものみな涼し」と芭蕉をして感歎せしめたのも此處である。此の附近の海水浴の快いことはいふまでもない。

平潟町から濱街道を傳つて勿來に向へば、途中黒浦にニヶ所の洞門がある。之を過ぎて窪田村九面の勝景を見つゝ進み、字關田切通し附近の「古關道」と指示された標石から街道をはなれ、左折して山路七八町を登れば、義家の詠を刻した碑石がある。碑石は柵を廻らし、附近に數株の古杉がある。其の當時の櫻樹は皆枯朽して、今若木のみが淋しく此の古跡を飾つてゐる。

願みれば西北の二面は連山波濤の如く、東南は碧波渺渺として打ち連る好風光、永く消

河原子、松原、平潟附近



河原子、松原、平湯附近

え難い印象を留める。

「磬城の東海岸は漸次隆起して陸地となる。此の古關址は波打際で奥州海道に當つてゐた」とする學說、又「此の關は街道往來の旅人を點檢するのが目的でなく、北國の蝦夷の侵入を警戒することを主とし、従つて多少城砦的性質を帯びたものであつたらう」と考へる學說、そはともかく、展望所として附近絶好の場所たることは動かし難い。殊に此の佳景に接して道もせに山櫻の散るならば、義家あらずとも、詩人ならずとも、漫に吟懐をこゝられるものがあらう。

古關址を下つて東北に勿來驛に出ると、是から東方一帯の海岸松川磯は、青松白砂の好風景で、亦常磐沿線屈指の勝地であり、海水浴場の設もある。

關本驛、上野から五時五十分、二圓五十六錢。

勿來驛、同 六時間、二圓六十一錢。

勿來以北磬城の常磐沿線には、尙ほ幾多の海水浴場・温泉場其他名勝があるにはある

が、何れも上野から六時間以上を要し、而も一夜泊りとしても是非遊ばねはならぬとか、見學せねばならぬとかいふ程の場所もないから、常磐線方面は一先つこれで打切りとしよう。

### 〔水海道、下妻附近〕

(將門營址、弘經寺、光明寺、大寶城址、關城址)

#### 概説

常磐線の取手驛と水戸線の下館驛とを連絡する常總鐵道の沿線は、亦古來重要な地域として城址・古跡を傳へてゐるものが多い。中にも史上に疑問とせられてゐる將門營址及び吉野朝廷時代の歴史に名高い大寶・關兩古城址の如きは、史跡探究者にとつて頗る價値の多いものである。

寺原驛からする岡堰及び守谷驛からする板橋不動尊(東一里三十町)については「取手・千久沼附近」参照のこと。

水海道、下妻附近

## 水海道、下妻附近

|      |      |        |         |
|------|------|--------|---------|
| 寺原驛  | 上野から | 一時三十七分 | 六十六錢。   |
| 守谷驛  | 同    | 一時五十四分 | 七十九錢。   |
| 水海道驛 | 同    | 二時二十五分 | 九十一錢。   |
| 下妻驛  | 同    | 三時十四分  | 一圓二十一錢。 |
| 大寶驛  | 同    | 三時二十五分 | 一圓二十六錢。 |
| 黒子驛  | 同    | 三時三十三分 | 一圓三十二錢。 |

**將門營址** と傳ふるものが常總鐵道の沿線に二箇所あつて、一は守谷驛の東北十一町にある相馬城址であり、一は水海道から西北二里半の猿島郡岩井村大字岩井字城合である。前者は南北五町、東西三町許りの大郭を始めとして數多の小郭の跡尙ほ歴然たるものはあるが、實は之は相馬氏歴世の城館であつたので、天正十八年北條氏の滅亡と共に其の族滅び、徳川時代に至り種々の變遷を経て寛永四年以來廢城となつたものである。それで相馬城址としては有名であるが、史學者の研究によれば、眞の將門營址は寧ろ後者をあてる方に根據がある。

即ち後者岩井の地は、扶桑略記及び今昔物語に所謂石井郷、將門記所載の石井營の地で、もとより相馬城址の如く歴然たる城郭の址等は求むべくもないが、なほ岩井村には延命寺があつて、將門の守本尊と傳ふる藥師像等をも傳へてゐる。

名高い歴史の跡も、星霜と共に往々煙滅に歸して、後世定かならぬものが多いが、將門營址の如きも此の例に入るものといふべきか。

**弘經寺** 水海道驛の西北三十町、豊岡村にあつて、淨土宗關東十八檀林の一に列してゐる。境内に徳川家康の女にして豊臣秀頼の夫人たりし天樹院の墓がある。夫人は大阪落城の後此の寺の了學上人に歸依して伽藍を修し、此の地に其の晩年を過したのである。

**光明寺** 下妻町字城廻にあつて、驛から南二町にある。眞宗東本願寺末で、開祖上人留錫の所と稱してゐる。もと附近結城郡小島にあつたのを此處に移したのである。門前の菩提樹は親鸞上人手植のものと稱して名高い。

## 水海道、下妻附近

尙ほ下妻驛の東北一町には戦國時代に多賀谷氏の城いた多賀谷城址がある。徳川頼房の水戸移封前在城した事歴を以て聞えてゐる。幕末には井上氏の居城となつてゐた。

**大寶城址** 大寶驛から南十町、大寶沼東南の丘上にあつて、常陸大掾の裔下妻氏累代の城址である。吉野朝廷時代下妻政泰は、關城の官軍と相應じて北軍に抗したが、遂に力盡きて節に殉じた。城はもと三面水に圍まれてゐたのを、湖岸新田の開拓等によつて今周囲の地形は變化してゐるが、猶ほ東西百六十間、南北三百數十間、三面斷崖に臨んだ其の故郭の址は、歴々として認むべきものがある。

城址に隣る大寶神社は、大寶年間よりの奉祀と傳へ、古記録に見ゆる社で、今其の社殿は特別保護建造物となつてゐる。神社の附近から大寶沼に接するあたり一帯の地は、今大寶公園として此の傳ふべき史跡と賞すべき風光とを包含してゐる。

**關城址** 大寶の次驛黒子から西南三十町、河内村大字關館にある。延元興國の際當地方に於ける官軍の中心勢力たりし地として、又不朽の名著神皇正統記・關城書の成りし處と

して、我が國史に永遠に記載せらるべき關城の址、誰か此處を訪うて無量の感慨に打たれぬものがあるか。

城址は大寶沼の北方湖中に斗出した三角形の地域を占めて三面水を繞らし、北の一方のみ土壘を以て耕地に接してゐる。南方湖水を隔て、近く大寶城址の茂林を臨めば、轉々當年兩城相呼應して大義に勤めた壯圖を偲ぶの情に堪へない。東方遙に連る筑波一帯の山々は、今猶ほ此の孤軍賊に抵抗した忠臣の遺靈を守るかの如くである。

關城は實に關氏累代の居城であつた。當時守良親王及び北畠親房を迎へて王事に勤めたのは關宗祐及び子宗政であつて、城陥るに及んで父子之に殉じたのであつた。

今城址には、鎮守八幡及び鐘樓跡・土壘等を存するに過ぎぬが、其の芳しき名は千載汗青を照すであらう。

〔結城、下館、笠間附近〕

(高田山專修寺址、富谷觀世音、雨引觀世音、加波山、磯部の櫻、西念寺、笠間稻荷)

概説 東北線の小山驛から分岐して常磐線の水戸に通ずる水戸線、及び其の一驛下館から分岐して茂木に通じてゐる真岡輕便線の沿線は、結城・真岡木綿等の名に夙に織維工業に知られた所であるが、又一向宗の歴史に名高い親鸞上人の遺跡を留め、且つ成田不動尊と並稱せられる流行神笠間稻荷を有し、其の他尙ほ名勝に富むので、亦遊客の多い處である。

高田山專修寺址

真岡線下館から四つ目の驛寺内(真岡驛から一つ手前)から一里(栃

木縣芳賀郡物部村大字高田)、親鸞上人東國化導の古蹟、東北布教の中心點たりし所、十世眞惠上人の時本寺は伊勢の一身田に移つたが、尙ほ今日此の地名によつて眞宗の一派として高田派の號を存し、淨土眞宗の根本正統と認められ、此の舊跡亦同宗發祥の地として

門徒間に頗る重んぜられる處となつてゐる。附近物部村大字物部の地は、嘗て二宮尊徳が藩命を受けて、其の荒廢回復に従事した地として聞えてゐる。

真岡から先の七井・茂木の沿線は、煙草の栽培が盛んで、水戸鐵道太田の附近等と共に夏時旅客の注目に價するものがある。

富谷觀世音

下館から三つ目、水戸線の岩瀬驛から北十六町、西茨城郡北那珂村大字富

谷にある天台宗の名刹小山寺の本尊で、當寺の開基行基僧正の作と稱せられる。三重塔は天平開創以來の古建築であるといふ。寺は丘に倚つて頗る眺望に富んでゐる。

雨引觀世音

常陸の名山として加波山の西北に連なる別山脈の臺頭にあつて屹立する雨

引山(標高四百米)の中腹にある。寺は眞言宗法樂寺、阪東二十四番の札所として參詣人が多い。附近には櫻樹が甚だ多く、陽春の候は花見がてらに遊ぶによい。岩瀬驛から西南一

里半。

### 加波山

岩瀬驛から西南二里半、筑波山から東北約二里半、亦常陸の名山として標高七百餘米、満山樹木森々として幽邃、山中俗に加波禪定と呼ぶ三枝神社あり、夏季信徒の之に賽するものが甚だ多い。明治の政治史に一記事を遺した彼の加波山事件の舊蹟たるは世間周知の通り。

### 磯部の櫻

岩瀬の次驛羽黒から十町、東那珂村大字磯部の櫻林である。源を西茨城郡の西北境佛頂山の麓に發し、筑波の西麓を過ぎて遂に土浦入りに朝する筑波川の上流は、實に此の地方を過ぎるので、磯部は其の源泉を距る約二里の處である。

而して櫻樹は此の清流を夾んで南岸にあり、花時は花の洞門を成す、筑波川一名櫻川と呼ぶるものは、實に此の上流磯部地方の實況に基いたものである。謡曲の櫻川も此の地を謡つたもので、所謂磯部神社は今の稲村神社、磯部寺といふのは此なる神宮寺を指したものである。享保中此處から櫻樹を飛鳥山や小金井に移し植ゑたといふ。花期は四月十五日

頃から二十日頃までである。

### 西念寺

羽黒の次々驛稲田から西北八町、西山内村大字稲田にある。親鸞上人二十餘年化導の禪房址で、一向宗徒は之を稲田御坊址と稱し、一宗の靈地として尊崇最も厚い處。寺は中世兵燹に罹り、二百有餘年前再興したものであるといふ。

親鸞傳繪に所謂「幽栖を占むと雖も道俗跡を討ね、蓬戸を閉づと雖も貴賤衢に溢れ、佛法弘通の本懐こゝに成就し、衆生利益の宿念忽ちに満足す云々」を見れば、七百歳後の今日、親鸞研究の盛なるものもあるも、蓋し偶然ではないであらう。附近に玉日御坊の墓と稱するものがある。

西念寺の東方にある稲田神社は、延喜式に見ゆる古社である。

### 笠間稻荷

稲田の次驛笠間から北十三町、紋三郎稻荷或は胡桃下稻荷とも稱する。有名な流行神で、二月初午や十一月の祭日には臨時列車も出る程な賑ひ、笠間の町も此の賽客で繁昌してゐる。境内幽邃、社宇壯麗である。

結城、下館、笠間附近

## 西新井、江北附近

笠間は風土記にも笠間村と見ゆる地で、昔から此の地方の一中心であつたが、今西茨城郡衙の所在地となつてゐる。町の東にある佐白山には笠間氏の創設に係り、徳川の時代牧野氏の居城たりし笠間城の址あり、其の佐志野神社は式内の古社である。

## 〔北郊の部〕

## 一、江北、粕壁、大宮、宇都宮、日光、松島方面

## 〔西新井、江北附近〕

(西新井大師、荒川堤の櫻、  
小塚原刑場の跡)

## 概説

北郊の方面は西新井・江北の附近から都會離れがして来る。且々たる關東の大平野、幾萬の歳月を閉して此の沖積地の來りしかは石火光中身を寄する人生には測り知るべくもない。只々春光遍き朝、秋氣漲る夕、此の平野の眞中に立てば、巖巖たる蝸角の争

は打ち忘れて身は無窮の天地に同化する。況んや厄除大師の靈驗を受け、五色の花の香に酔ふをやである。

東北・東武・高崎の三線は北郊交通の幹線、之に數多の補助的機關も備つて交通至便、之を利用して思ふ存分大平野を濶歩して氣宇を宏めるのは亦愉快である。

西新井大師 南郊川崎の大師と並稱されて流行佛たる厄除大師、府下南足立郡西新井村にあつて弘法大師の草創といふ。寺は遍照院、五智山總持寺と號する。弘法大師の影堂、大師の加持水の井等がある。毎月二十一日の縁日には、參詣者が廣い境内を埋めて大混雜である。

淺草から出る東武線の西荒井驛から七町、二十四分、十九錢。北千住の西新井大師道からすれば、約一里。荒川堤からは僅に十二三町、厄除の御利益にあうて更に花見の歡をつくすのは、春一日の行樂にもて來いである。

荒川堤の櫻 荒川堤上二里餘の櫻、北郊の一大美觀として天下に鳴るもの、北千住から

西新井、江北附近

## 西新井、江北附近

約一里の間は單櫻、三軒茶屋から先きは八重櫻、殊に江北村三十町許りの間は最も變種に富んで約八十餘種に及ぶといふ。中にも右近櫻・墨染櫻の如きは殊に鑑賞の的となるものである。

花時には淺草・西新井驛間には臨時列車の運轉がある。(驛から堤まで二十町)。又千住大橋からは汽船も乗合船もある。汽船は吾妻橋からも出る。東北線赤羽驛からは約三十町王子電車で小臺の渡まで来て、渡舟に乗るのも一興があらう。

附近の野新田・柏木新田には櫻草がある。

## 小塚原刑場の跡

南千住、大橋から東南淺草山谷に通ずる通路にあつて、今無言の石地藏と不動堂とが人家の間に建つてゐるのみであるが、而も無量の哀話を語つてゐる。殊に近い幕末志士の英靈は猶ほ此の附近に彷徨してゐるかの念がして低回を禁じ難いものがある。鬼氣人に追つた刑場も、今は宛然市内の一部となり化して、響き合ふ工場の汽笛のしかましさを、立ち迷ふ亡靈もさこそ驚いてゐることであらう。

## 〔蒲生、越ヶ谷、粕壁附近〕

(安行の植木、西方不動、越ヶ谷桃林、牛島の藤、隅田川の古渡、粕壁附近の大観)

**安行の植木** 東武線西新井から三つ目の蒲生驛から西南約三十町、埼玉縣北足立郡安行村(人口約三千)は、東京北郊無名の一大樂園である。即ち起伏する丘陵を利用して全村悉く盆栽苗木の栽培に従事し、東京に於ける盆栽植木の一大供給地となつてゐるので、四季の草花等の美觀たとふるにもものまない。此處から川口までは一里、馬車がある。

**西方不動** 蒲生驛或は次の越ヶ谷驛から何れも約三十町、大相模村大字西方にあり、良辨僧正の開創と傳へ、生不動或は賊除不動と稱して賽者が多い。毎月二十八日、九月四日に大會式がある。境内廣く、名木に富んでゐるが、殊に桃樹が多い。

**越ヶ谷桃林** 昔から數へられた關東名所の一、其の桃林は元荒川の北岸にある同驛から

蒲生、越ヶ谷、粕壁附近

西五町の處、(越ヶ谷の町は川の南岸にある)。花時の美觀は確に其の名に恥ぢない。加之附近は一帶にまた梅樹が多く、早春清遊する價値が十分ある。

郷社久伊豆神社境内の藤は、老木たる上、花房の長いので牛島の藤と共に名高いものである。

越ヶ谷驛、淺草から四十八分、四十一錢。

### 牛島の藤

越ヶ谷驛から四つ目の粕壁驛から東方十六町、北葛飾郡幸松村字牛島にあつて關東一の稱がある。幹の太さ三丈、蟠蔓五十坪、花房五尺に餘つて地にひくことすらあり、眞に一奇觀である。驛から人力車の便もあり、又花時には汽車の割引もある。

粕壁驛から東南十二町、豊野村字藤塚は桃林で名がある。

### 隅田川の古渡

粕壁の町の中央から左折して五六町、南埼玉郡内牧村大字梅田に隅田川の古渡と傳ふるものがあつて、里人は之を在原業平の「名にしおはゞ」の絶唱を詠じた舊蹟と稱し、附近には梅若塚さへある。向島と此處と其の何れが眞であるか定かならぬが、

粕壁の町は、武總の界を成した古利根川の西岸に位し、陸羽街道に當つて今も附近での都會である。又町にある郷社八幡神社は、七八百年來の舊祠と傳へ、且つ粕壁の地名は東鑑にも見えて、粕壁の地の開發の相當古いことを想はしめるものはあるが、如何にせん星移り物變つては、問ふべき人もない、尋ねべき資料もない。兎に角一傳説地として好事家の訪ふべき處である。

### 粕壁附近の大觀

粕壁地方は、關東平野の周邊を縁取る山峯を觀望すべき一好適地である。殊に大氣澄む秋の日附近の原頭に立ちて望まんか、北は日光山麓より南は箱根の連山まで、遠近に従つて鮮かなる濃淡もて描き出されたる平原の背景、居ながらにして關東地方の地形を大觀することが出来る。

粕壁驛、淺草驛から一時八分、六十錢。



久喜、加須、羽生附近

〔久喜、加須、羽生附近〕（久喜城址、鷲宮神社、不動岡の不動）

**久喜城址** 東北・東武兩線の交叉點に當る久喜町の西方天神山にあつて、足利成氏の築く所。成氏は後山内房顯扇ヶ谷持朝等と戦ひ、文明十年此の城を捨て、古河に還つた。町にある甘棠院は、足利政氏隱栖の館を寺としたもので、臨濟宗に屬し、境内廣く堂宇壯嚴である。

久喜町は埼玉縣下第一の白木綿産地として知られてゐる。

**鷲宮神社** 久喜の次驛鷲宮驛から二町、縣社で、祭神は天穗日命・天夷鳥命・大背飯熊大人。創建の時代は詳かでないが、恐らく國內最古の神祠ならんと稱せられ、代々朝廷の崇敬厚く、又東鑑によれば、頼朝以下武人の崇敬の尋常ならざりし事も知られる。

**不動岡の不動** 鷲宮の次、青縞の産出で名高い加須町の驛から十町餘、不動岡村にあつ

て、成田に次ぐ關東の流行不動様。大伽藍が町を壓して立つてゐる。尊像は智證大師の作もと京都の紫雲殿に安置せられてあつたものだといふので、節分や縁日の人出の多さ。東武線ではいつも臨時列車を出してゐる。

加須の次はやはり青縞を産する羽生町、利根川の岸は此處から半里。東武線は川俣の鐵橋によつて群馬縣に入る。以下東武沿線の記事は館林太田附近の項参照のこと。

〔王子、瀧の川附近〕（道瀧山、一里塚、西ヶ原貝城、飛鳥山、王子権現、王子稻荷、瀧の川の紅葉）

概説

日暮里村、瀧の川村、王子村、是等は今や古記録にのみ残る稱呼となり果て、

何れも人口數萬を包有する町として接續町中の主要な地位を占め、宛然東京市の一部を形成してゐる。其の昔騷人をして杖を曳かした是等の里、乃至少くとも二十年前の其の状態を見て來てゐる眼から見れば、其の餘りに都市化し或は工業地化した變化の大なるに驚

王子、瀧の川附近

かざるを得ない。従つて昔からの名勝の地も是等の影響壓迫を受けてゐるものも少くないが、猶ほさすがに棄て難いものがある。

**道灌山** 市電動坂線道灌山下或は田端驛から何れも數町に過ぎない。谷中の臺から北に續く丘陵で、太田道灌の出城があつたとか、或は江戸築城に際して繩張を施した處とか傳へてゐるだけに、眼界廣潤、形勝の地である。昔は蟲の音を聞くべく秋の夜は風雅の士の足を運ぶ者も多かつたが、今は人家が立ち並んで蟲のすだくべき叢もない有様となつてしまつた。

**道灌山**から西南數町、同じ日暮里町にある花見寺(日蓮宗妙隆寺)は、躑躅・櫻等の美觀に名あり、又附近の諏訪神社は、境内樹木鬱蒼として眺望佳、夏日涼を納るるによい。

**一里塚** 市電飛鳥山線で駒込を發して飛鳥山に向ふ途中瀧の川町字西ヶ原にある。左右の塚の上に植ゑられた榎は、少くも二三抱はあらう。兩塚の間は約五間、其の右方の物は道路の右側にあるが、左方のもの(今枯れて切株のみ残つてゐる)は道路擴張の爲今道の中

程にあつて、飛鳥山電車の線路が之を中に夾んで其の兩側を通つてゐる。此處が丁度日本橋から二里に當るのである(日本橋から一里の一里塚は、本郷の第一高等學校前、板橋街道の岐るゝ處、高崎屋といふ食料品店の處にあつたのだが、今はない)。

此の一里塚は例の史蹟名勝天然記念物保存法によつて保存されてあるものだ。

**西ヶ原貝墟** 一里塚から少し手前、右手に農事試験場がある。其の門前から街路を左に入ると、人家の間に貝殻の散つてゐるのが目に入る。此の貝墟は石器・土器の發見されたもの多く、夙に故坪井正五郎博士によつて學界に詳細な報告をされたので、世間周知のものであるが、今は既に鋤犁に亂され、而も其の畑も次第に宅地と化して來つゝあつて、石器・土器は其の破片を求めることすら殆ど望まれない有様となつた。

農事試験場に近い平塚明神(文明中太田道灌が攻落した豊島氏の平塚城の址と稱せられてゐる)と相對する佛寶山無量寺は、六阿彌陀の一である。

**飛鳥山** 駒込から出る飛鳥山電車、大塚から出る王子電車の留る處が即ち飛鳥山の西麓

## 王子、瀧の川附近

であつて、東北線王子驛は兩電車の停留場と反對の東麓にあり、何れからしても山の上まで譯なく登れる。

北郊の觀光境として江戸時代から知られた所、櫻樹は彼の殖産興業に熱心であつた徳川八代吉宗將軍が植ゑしめたものだといふ。境内一萬三千餘坪、今公園として東京市の經營に屬してゐる。西より流れて來る石神井川は其の麓を繞り、脚下に連る王子の工業地帯を隔て、萬頃の田野を望む彼方、更に遠く筑波の翠黛と對して眺望が甚だ佳い。

加之此處は天下晴れての自由な花見が出来るので、花時は上野や向島に見られぬ假裝團體で大賑ひ、満山踊り狂ふ花見の人で埋る有様、實に花の飛鳥山は人の飛鳥山と化してしまふ。

**王子權現・王子稻荷** 公園と石神井川を隔て、西北にあるのが王子權現である。祭神は伊弉册尊・速玉之男神・泉津事解三男神。元亨中豊島氏が熊野權現の有様を模して奉祀したものだといふ。權現造の本殿を始め、舞殿・樓門等皆丹朱を以て塗られてゐる。

權現の北にあるのが岸稻荷の別名ある王子稻荷、關八州の稻莊の統領であると傳へられ此殿も壯麗である。天正年間有養上人の勸請したものだといふ。境内は樹木が鬱蒼たる上、社前には所謂稻荷の瀧もあつて、夏季すゞみがてらに參詣するによい。

王子七瀧の首位にある名主の瀧は、附近の王子園内にあつて、其の電気仕掛の大瀧は高さ二丈幅三間、夏時遊覽者が多い。

**瀧の川の紅葉** 石神井川の下流即ち瀧の川岸について遡れば、此處が名に負ふ紅葉の名所、兩岸楓樹多く、殊に紅葉寺の稱ある金剛寺の境内は、辨天の瀧を配して、紅於の美一入愛すべきものがある。

金剛寺は瀧河山松橋院と號し、新義真言宗に屬し、本尊不動尊は弘法大師の作と傳へてゐる。境内の岩橋辨天は、治承の頃頼朝が信仰して太刀田地等を寄進したことがあるといふ。驛から西北約十町。

王子驛、上野驛から十八分、十一錢。

王子、瀧の川附近

## 赤羽、板橋附近

王子電車、大塚から約十五分、六錢。  
飛鳥山電車、駒込から約十分、五錢。

## 〔赤羽、板橋附近〕

(縁切榎、穴守辨天、赤羽城址、  
浮間の櫻草)

**縁切榎** 山の手線を池袋驛で乗り換へて赤羽行に乗れば次は板橋である。日本橋から二里半、中仙道口の首驛として昔から賑つた處。今も陸軍火藥製造所や砲兵工科學校が置かれて重要な地點となつてゐる(驛から西北十五六町)。

さて名高い縁切榎は驛から西二十五町、岩の坂にあつて、周圍二丈許、樹下第六天の祠があつて榎は其の神木であるといふ。男女の悪縁を絶たんとするもいが此の榎に祈るので、さてこそ縁切榎の名があるさうだ。榎の周圍常に香華の絶ゆることなきを見れば、さても世には悪縁が多いものと見える。朝夕男女の祈を受ける此の古木、古往今來知るロー

マンスの数はさこそ莫大なものであらう。

**穴守辨天**

池袋から東上線に乗つて、次々驛上板橋で下りると、驛から西六町下練馬村

今神の圓明院内に近年發行されて流行る穴守辨天がある。其の穴即ち土窟は高さ一間、方一間餘、四壁は八葉の蓮華を以て形作られてゐる。時は大正四年三月村民が偶然掘り當てたもので、内部から辨財天の像と石片(内一箇は文龜元年四月四日の文字が刻され、他一箇は賢榮阿闍利云々と刻されてゐる)とが發見された。之によつて今まで不明に屬してゐた慧日山圓明院(眞言宗)の開祖賢榮阿闍利入定の跡が明らかになつたのである。さて之を發見した村民某の娘は、當時瀕死の病人であつたが、之と同時に其の大患が平癒したとのことで、參詣者が四集するに足り、今は京濱あたりから參詣するものも多いといふ。

**赤羽城址**

板橋の次驛は十條、飛鳥山は東南約十三町(前項參照)、砲兵工廠の支部があ

る。赤羽は十條の次、池袋から三哩五分である。赤羽は岩淵町の一字であるが、赤羽城址は、同じく岩淵町の一字で赤羽の南に續く稻付による。

## 赤羽、板橋附近

## 赤羽、板橋附近

赤羽驛で下車して岩槻街道を南に數町立ち戻ると、道路の西に數十階の石段上位する靜勝寺の域内がそれである。

靜勝寺は自得山と號し、曹洞宗に屬してゐる。寺傳によれば、當所は太田道灌の築いた城壘の址であつたのを、其の六世の孫資宗が之を寺に寄附したものであるといふ。境内に道灌の木像を安置する御影堂がある、寺域は丘陵の尖端に據り、空濠や又龜が池鶴が堀などの堀跡をも存し、其の赤羽城址たること歴然たるものがある。

**浮間の櫻草** 赤羽驛から西半里、工兵大隊の坂を上り、大袋村から浮間の渡しを渡れば、其處が櫻草で聞えた廣い浮間の原、花の盛りは、満目たゞ櫻花の毛氈を敷いたやう。實に北郊特有の一奇觀である。今天然記念物として保存を計らるゝに至つたのも故あることであらう。

浮間の原は從來荒川對岸の埼玉縣北足立郡横會根村の一字として之に屬してゐたが、近く荒川の河川改修工事完成の曉は、横會根とは三百間の新川を中間に隔てゝ交通上の連絡

を絶ち、却つて荒川舊川を隔てゝ相對する府下の岩淵町に近くなるので、浮間の孤島は東京府に屬して岩淵町の管内に入ることとなつた。

赤羽から荒川堤までは約三十町、櫻草と八重櫻と二つながら併せて賞するも、一日の行程としては樂に出来る。

赤羽驛、上野から二十六分、十九錢。

浮間から少し西、戸田橋の彼方の戸田ヶ原、川上約十町の横會根原も櫻草の名所である。

## 〔浦和、大宮、岩槻附近〕

(浦和公園、奥野公園、大宮公園、見沼の螢、岩槻城址)

## 浦和公園

赤羽の鐵橋を渡ると對岸は鑄物の製造で名高い川口の町、驛の附近から眺むる窓外左手の光景は忘れ難い印象をとどめる。打ち續く平原の末をば秩父多摩の連峯雪を

浦和、大宮、岩槻附近

## 浦和、大宮、岩槻附近

載いて之を割する彼方、八葉重る玉芙蓉の雲表に獨立する畫景、とても筆舌に上ほし難い。

かくて蕨驛を過ぎて汽車は縣廳の所在地浦和に入る。縣廳所在地としては全國に類例のない見すほらしい町として従來有名なものであつたが、最近の發展は實に目覺しいもので宛然東京市の住宅となつた觀がある。

浦和公園は驛から東南六町、調宮の境内がそれである。調宮は夙に式内の古社として知られ、往昔は月讀の宮と稱したといふ。社殿は巨樺長杉に圍まれて幽雅である。

又驛から西三町の玉藏院は眞言宗に屬し、關東十八檀林の一として聞え、殊に其の大施我鬼は、人出萬を以て數ふる程で、浦和町一の賑ひである。

與野公園 浦和の次驛與野から西十町、僅に五千坪許りの一小丘陵を占むるに過ぎないが、享保年間吉野から移植したといふ單瓣淡紅の櫻の老樹が多く、花時遊覽する人が多い。園の西方にある丘上から西方を望む眺望は序に足を運ぶに價する。

## 大宮公園

浦和から大宮に至る間は道程一里半、昔ながらの並樹の残る中仙道を歩いて見るのも興趣が多い。殊に此の附近は郊外としては比較的往時の名残を多く留めて居て昔なつかしい氣がする。江戸時代には中仙道の一驛に過ぎなかつた大宮、今は東北線と高崎線との分岐點として、川越電車の起點として、又鐵道省の工場の所在地として繁昌してゐるが、大宮公園のあることは確に又繁華の一因を成してゐる。

大宮公園は此の地に鎮座する官幣大社氷川神社を中心として經營されてゐる。神社は驛から東北約十一町、馬車も自動車もある。老松亭々として立ち並ぶ長い賽路は、先づ神威のいやが上にもあらたかなるを感じしめる。三の鳥居を入り、御手洗の池に架した神橋を渡れば老杉鬱蒼たる處莊嚴な神明造の神殿を拜することが出来る。

祭神は素戔鳴尊・大己貴尊・稻田姫命。夙に武藏の一宮として聞えてゐるが、往古日本武尊は蝦夷征討の時此の社に戰勝を祈らせ給ひ、又平貞盛も將門誅伐の時賊の平定を祈念したと傳へられ、賴朝以後武家の尊崇厚く、明治天皇も明治元年東巡の際新しく御參

浦和、大宮、岩槻附近

## 浦和、大宮、岩槻附近

拜あらせられた。八月一日の例祭には東遊の奉納あり、十二月十日の大湯祭は大變な賑である。

園は神域を含んで約五萬坪に及び、梅も櫻も紅葉もよく、又附近は摘草、蕨狩、茸狩等も出来る。殊に社の東北萬松樓にはアルカリ質の鱗泉がある。尙ほ附近には公木樓・藤の戸・松友館等の旅館もある。

神社の東北約十町壽能の潮田山は、上杉定正の臣太田資正の子潮田出羽守資忠の居た潮田城址であつて、又其の墓もある。

又神社から東方四町、大宮町小字堀之内の黒塚は、高さ一丈許り徑七八間の松樹茂る塚で、頂上に祠があり、其の麓に大黒様がある。或は之を足立藤九郎盛長の出生地として、祠を以て九郎塚稻荷とする説もあり、或は安立原の黒塚に擬する説もあるが、兎に角面白い傳説を有する塚だ。

神社の附近からは、往々古代民族の使用した土器の破片等が発見されることがある。之

によつて見ても、亦此の地方の開発の早いことが知られて、物古りたる神域は、いよ／＼太古の氣がたゞようてゐる心地がする。

## 見沼の螢

見沼川は北埼玉郡須賀村下中條に發する溝渠で、葛西川水と共に著名なものである。

其の岸の叢にすだく螢の一奇觀で、螢狩に出掛けるによい。田舟の用意もある。與野の驛からは東八町、大宮公園からは同じく七町。

大宮驛、上野から十六哩・六、五十七分、四十四錢。

浦和驛、同じく十二哩・八、四十四分、三十四錢。

## 岩槻城址

大宮から自動車で二十分(約二里半)、賃金五十錢。大宮公園と此の地と二つ

ながら見物しても日歸りは樂である。

岩槻といへば名物葱を思ひ出すが、それよりも史的趣味をそえられるのは、太田道灌の

城いた有名な其の城址である。城址は南埼玉郡岩槻町の東端にあつて元荒川は北に流れ、綾瀬川は南に流れて天然の要害をなしてゐる。城域は長さ十四町、幅八町、岩槻から粕壁

浦和、大宮、岩槻附近

浦和、大宮、岩槻附近

に通ずる道路の左右、土壘城濠の跡猶ほ歴々として存し、優に當時の規模を偲ばしめる。此の城の創設は長祿元年であつて、實に太田道灌が其の得意の築城法を用ひた堅壘であつたのである。而して當時川越・蕨・江戸と共に四城相連絡して古河公方に對立した道灌の畫策宏圖を追懷すれば、戰國英雄の面影猶ほ躍如たるものがあつて漫に願望を禁じ難い。上杉氏衰へ、新興の勢力北條氏の手へ歸した此の城は、天正十八年太閤小田原征伐の際淺野長政によつて北條の家臣から之を受領された。徳川の世に至り當初種々の變遷あり、寶曆六年以來大岡氏此に封ぜられ、以て明治に及んだのである。

城址は今公園として櫻や藤がよい。

又元荒川の西岸約一里の間は堤上老櫻の並樹があつて花見に適する。岩槻から粕壁までは二里十一町、馬車四十分。

### 〔栗橋、古河附近〕

(靜御前の墓、光了寺、關宿城址、古河城址、古河御所跡、古河桃林、熊澤藩山の墓)

靜御前の墓 利根川に臨み河港として榮えた歴史を有する栗橋町の驛は、北葛飾郡靜村に屬してゐる。

靜御前の墓と稱するものは其の驛前大字伊坂の鐵道線路の傍にあつて、享保年間中川氏の建つる所といふ。口碑によれば、靜は義經の陸奥にあるを聞き、往きて従はんと欲し途次其の既に死したることを聞いて、悲歎の極終に病んで死んだのを此處に葬つたのであるといふ。

此處から利根の長橋を渡つて對岸に達すれば、光了寺に其の遺物を藏してゐる。

栗橋町の稻荷屋は聞えた料理屋、溶々たる利根の大江に臨んで上下する白帆の數を讀み富士山や鹿野山を遠望する大景はまた格別のものがある。

栗橋、古河附近



## 栗橋、古河附近

**光了寺** 栗橋の對岸茨城縣猿島郡中田村にあつて、栗橋の驛から北三十町、古河町から南約一里十六町を距つ。光了寺は岩松山聖徳院と號し、もと天台宗に屬したのを、親鸞上人巡錫後眞宗に改めたものである。寺寶多く、靜御前の舞衣一雙及び義經形見の懐劍、慈覺大師作靜御前の守本尊、義經の鎧其の他枚擧し難い。

中田村は陸羽街道の要衝に當り、往時關所の設けがあつた。

**關宿城址**

中田或は栗橋から赤堀川或は權現堂川を下れば、大利根小利根の分岐する樞要の地に關宿町がある。常に船舶輻湊して殷賑である。町の北に關宿城址がある。足利氏の臣築田氏の築く所で世々足利氏に屬してゐた。徳川の世松平康之が之に封せられたが、安永三年久世重之が移封せられ、亦後其の居城となつた。今城址は田園と化してゐる。

又此の地は足利晴氏の隱退した地で、字臺町の宗榮寺には足利晴元の墓がある。關宿町の對岸境町から古河町へは三里二十六町。

**古河城址**

下總に屬し、猿島郡の北隅に位して思川・渡良瀬川の會點に當り、古來陸羽

街道の要衝として聞えた古河の町は、今も茨城縣下有數の都邑として頗る繁昌してゐる。足利時代關東管領成氏が此處に據つて古河公方と稱せられ、當時此の地が關東の一中心たりしは國史の上に著名な事實であるが、其の名城の址は今古河町の西南に存してゐる。東西五町、南北十五町、渡良瀬川を帶び沼澤を繞らした丘陵を利用せる形勝の地で、成氏政氏・高基・晴氏の四世相傳へ、天正以後北條氏に歸し、徳川の世に及び城主屢交迭あり、最後に土井氏封ぜられて明治維新に及んだのであつて、立崎郭及び諏訪郭は奥平氏の増築に係るといふ。今壘濠の跡の認むべきものも存するが、多くは田園と化し去つてゐる。

立崎郭に頼政神社がある。

**古河御所跡**

古河町の南一里、新郷村大字鴻巣にある。御所沼と稱する沼中に廢墟があつて東西五町、南北二町許り、之が鎌倉大草紙や永享記に所謂成氏の作つた鴻巣の屋形跡で、又天正十八年以後も義氏(晴氏の子)の女氏姫が此の地を給せられて徳川の初年に及び寛永六年まで其の家領たりしと稱せられてゐる。此處も今多く耕地林藪と化してゐる。

## 栗橋、古河附近

**古河桃林** 同じく新郷村にあつて驛から南十餘町、廣袤一里、紅霞棚引き美觀たとふべきものもない。花時は觀桃割引列車の運轉もある。傳へいふ、土井利勝が江戸市中の露店果物を鬻ぐものから其の棄つる桃種を集め、之を古河に送つて其の郊外に植ゑしめたものであると。兎に角關東に於ける桃の名所として先づ指を屈すべきものであらう。

**熊澤蕃山の墓** 驛から東約一里、勝鹿村大字小堤の鮭延寺の境内にある。當時名聲噴々たりし彼が幕府の忌憚に觸れ、古河城内頼政郭に幽せられ、終に此處に易簣したのは元祿四年八月であつて、齡七十三であつた。

徳川の世儒學者は多く輩出したが、彼の如く學ぶ所を實際に施したものは、新井白石を除いては彼の右に出るものが果して幾人かあらう。塾域は年を経ていよく苔蒸して行くが、而も彼が學界に放つ異彩は益々鮮かなものがある。

鮭延寺は最上家の遺臣鮭延越前秀綱の館址で、秀綱は最上家滅亡の後土井家に寄食して五千石を給せられたが、自ら之を受けずして之を従へる二十人の士に頒ち與へて各二百五

十石の士とし、自らは一日がはりに二十人の家をめぐつて養はれたので、其の死後其の二十人の士が秀綱の爲に建てた寺だといふので世に名高いものである。

勝鹿村の中に靜御前の思案橋といふものがある。

栗橋驛、上野から一時四十四分、八十六錢。

古河驛、同じく 一時五十七分、九十六錢。

### 〔小山、宇都宮附近〕

(小山城址、思川の鮎、薬師寺跡、國分寺跡、二荒山神社、宇都宮城址、大谷觀音、鬼怒川の鮎)

**概説** 古河から北に延びた東北線の貫く小山・宇都宮地方は、思川・鬼怒川兩河の流域に當り、水戸線・兩毛線(小山)、日光線(宇都宮)の連絡するあり、現在栃木縣下の重要な地點となつてゐるが、昔時に於ても亦奥羽街道の通ずる地方として其の主要なる驛路にあたり、重要な歴史の跡を多く留めてゐる。

小山、宇都宮附近

**小山城址** 小山といへば、關ヶ原の役に際し、家康が此處から上杉景勝征伐の師を返した事を憶ひ回さぬ人はあるまい。其の當時家康の營した所は即ち小山城であつた。城址は驛から北六町、思川に臨んで方六町、數郭に分れた跡儼然として存し、壘壕の狀も知られる。

城は下野大掾政光入道蓮西が保元平治の際開創したと傳へられ、以後十餘世相續いだが、永徳二年其の宗家は足利氏滿に亡ぼされ、同族結城氏之に居り、後北條氏に屬して其の滅亡と共に亡び、徳川の世本多正純が一時此處に封ぜられ、元和八年廢城となつたのである。其の他豊公が東征に際して此處に至つたことも史に見えてゐて、由緒ある城址と思へば、思川のせまらぎも昔を語るかと耳を傾けられる。眺望頗る勝れてゐる。

城址から南方六町、驛から八町、須賀神社は城主小山家の主護神で、什寶・古文書等を藏してゐる。

### 思川の鮎

思川は都賀郡の主水脈、古河の附近で渡良瀬川に注ぐ水流で、其上流をなす

粕尾・大蘆の二川は合して小倉川となり、更に壬生町の南に於て黒川を容れて始めて思川と呼ばれ、南下して左岸から姿川を、右岸から永野川を合せてゐる。

小山驛から思川の岸までは約六町、河岸風光に富み、水流極めて清澄、鮎は種類優れ而も漁獲多く、遊客が近來益々増加しつゝある。驛前の角屋旅館は鮎獵一切のことを取扱つてゐる。來遊の一兩日前に豫め通じて置けば準備を整へてくれる。

十八人乗船頭附二圓五十錢、投網一圓二十錢。

### 薬師寺跡

小山の次は小金井驛、有名な薬師寺跡は驛の東北約一里、河内郡薬師寺村大字薬師寺にある。薬師寺の草創は或は天智の朝とし、或は天武・文武の朝とし、諸書傳ふる所が異なつて居るが、兎に角當時筑紫の觀音寺と對立した關東の一大靈場たりしことは明らかであつて、寺域は今其の別院と稱して存する龍興寺から北方凡そ六町の安國寺に及んだものと推定され、殊に安國寺の附近からは古瓦の發見せられるもの多く、中には薬師寺の文字の明らかなものもあるといふ。

小山、宇都宮附近

## 小山、宇都宮附近

悪僧と呼ばれる道鏡が此處に流謫せられたことは有名な史實であるが、今竹林の中に其の墓と稱するものがある。高さ六尺、幅二尺、何等銘はない。續日本記に「寶龜三年夏四月丁巳、下野國言、造藥師寺別當道鏡死、……死以庶人葬之」とあるから、此の墓石の外今日何等傳ふる所のないのも理であらう。

**國分寺跡** 小金井驛から西約三十町、姿川を隔てた下都賀郡國分寺村大字國分にあり、今眞言宗に屬する小坊舎を存するのみであるが、猶ほ往時の金堂・講堂を始め堂塔の跡たる土壇礎石の認むべきものがあつて、其の昔當國教化の中心として梵唄の聲賑ひし當時を追想せしめる。

此處から西思川を隔て、一里餘國府村大字國府の地は、即ち其の地名の語るが如く下野の國廳のあつた處で、國分寺と共に一國文教の中心として榮えた地點であらうが、其の國府跡は惜しいかな今詳かでない。

國府から東北、同じ國府村大字惣社の大神神社は、下野國の惣社。社域内に室の八島と

稱する古來名高い勝區があつて、多く和歌に入つてゐる。

小金井の次は石橋驛、驛前の閑雲寺は寛永年間三代將軍家光が釣天井の危難を避けて一時本陣とした處として聞えてゐる。

**二荒山神社** 宇都宮市の中央馬場町にあつて驛から西十町、社域は北方八幡山と南方宇都宮城址との中間に位する白ヶ峯と稱する小丘を占めて脚下に宇都宮の全市を俯瞰すべく形勝の地である。

祭神は四道將軍の一たる豊城入彦命、命の後裔奈良別王が下毛野國造に任ぜらるゝに及んで此處に奉祀したものと稱せられてゐる。夙に延喜式内に列し、當國の一宮として聞え古來東國鎮撫の將軍の奉幣が厚かつた。現在國幣中社である。境内櫻樹多く、今公園となつてゐる。

**宇都宮城址** 釣天井の傳説を以て名高い當城址は二荒山神社の南方にあつて驛から西十五町、今公園となつてゐるが、もとの外郭の部は巷街となつてゐる。釜川は近く北方より

## 小山、宇都宮附近

東方を繞り、田川と共に天然の城濠をなしてゐる。之に加ふるに幾多の壘濠を築いた當城が、戰國時代阪東の平城四箇の名城の一に數へられて奥羽を制したのも、さもこそと首肯される。

當城は康平年中宇都宮宗圓の草創と傳へられ、以後子孫累世相傳ふる五百五十年慶長二年豊公の爲に奪はれて宇都宮家廢し、徳川の世諸氏之に封ぜられ、最後安永三年戸田氏の封城となつて明治維新に及んだ。戊辰の役賊軍猖獗、城陥り舊主は徒跣して逃れたことは世周知の事實である。

延元の際奥羽の官軍の西上するものが、必ず此處に到り、鎌倉の形勢を察して發したことも、當時の史乘に明らかである。

**大谷觀音** 宇都宮から西北二里十町、河内郡城山村大字荒針にあつて、阪東十九番の靈場として名高いものである。宇都宮から鐵道馬車の便がある。寺は多氣山の別區大谷山の中腹にあつて天開山大谷寺と號する。本堂は半ば岩窟中に造りかけたもので、結構奇觀を

極めてゐる。本尊丈六の觀音像は巖壁に彫りつけてあつて、傳へて弘法大師の作といつてゐる。

全山一種の砂石から出る大谷山は、到る處奇岩峭立し、其の間怪松之を點綴して絶景を成し、野州妙義或は小妙義と呼ばれ、特に躑躅紅葉の頃は美觀である。

大谷山を形成してゐる砂石は火力に耐へるので、近來盛に切り出されてゐる。

多氣山は荒針の北にあつて宇都宮から二里半、不動明王を祭る無動閣と宇都宮氏に屬した田氣城墟とがある。傳説によれば、昔天喜年中源頼義が安部頼時を征討した時、石山の座主宗圓が勅令を奉じて當國に下り、氏家の郷で調伏の壇を構へ一千日の間五大明王に祈つた。亂平ぐの後、宗圓下野の守護に補せられ、五大明王の一軀を此處に安置し、寺を建て、不動寺と號したが今の本尊が即ちそれであるといふ。寺域は樹木森々として自ら幽境をなしてゐる。

**鬼怒川の鮎** 思川の鮎と共に近來都人士の多く向ふ所となつた。宇都宮を發した東北線

小山、宇都宮附近

## 日光附近

は東北に向つて次第に鬼怒川おにががわに近づき、次驛岡本驛おかもとえきを過ぎるとやがて其の鐵橋を渡つて寶積寺驛たからじきえきに着く、河岸は西六町、更に北に進んで次の氏家驛うじいえで下車してもよい。共に景色はよく、鮎あじも多い。氏家驛前の田島商店は鮎獵の案内も茸狩の案内もしてくれり。  
寶積寺驛たからじきえきから東五里、烏山町からすやままちには源翁和尙げんおんわしやうの墓ある泉溪寺いづみせきじや那須與一なすのよいちの墓ある天性寺てんせいじがある。驛から馬車が出る。

小山驛、上野から 二時二十分、一圓二十一錢。

小金井驛、同じく 二時三十六分、一圓三十四錢。

宇都宮驛、同じく 三時十一分、一圓六十一錢。

寶積寺驛、同じく 三時四十四分、一圓七十八錢。

## 〔日光附近〕

(日光町、神橋、輪王寺、東照宮、二荒神社、大猷院廟、華嚴池、中禪寺湖)

## 概説

東洋の樂園として世界に喧傳せられる日光にっこうの勝、而も之を見ずしては結構を説くなど稱せられる此の地、東京から僅に九十哩・九の汽車路によつて見物が出来るのは、都人士の恵まれたことも亦大なりといはねばならぬ。

日光の勝は要するに男なん麗山れいざんを主峯とする日光火山景と其等諸峯の間を環流する諸川の懸つて所謂七十二瀑を成し、瀦たまりつて幸さいノ湖うみ等の湖水となり、流れて大谷川おほいやがわの奔流となる複雑なる地形の現する山水の美、殊に其の新緑や紅於によつて装はるゝ天然の極美と之に加ふるに人工の限りを盡せる徳川氏とくがわし三百年の勢威を誇る其の靈廟の善美とに歸するものである。而して日光廟にっこうびやうは實に桃山時代ももやまを受けたる徳川初期建築美を完全に發揮せるもの、又權現造げんつくりの模範たるものである。

但し其の金碧燦爛たる人工の美は、單に其の廟域の一小區劃に留り、而も僅に三百歳來の歴史を有するに過ぎず、且つ其の結構の美も附近の大自然の美を背景として其の聲價を發揮してゐるので、到底其の自然美の悠遠にして規模の大なるには及ばない。日光火山にっこうかむざん麓

## 日光附近



日光町は實に名勝地に發達した都邑の代表的なもの、今人口一萬七千餘を有して殆ど鹿沼を凌がんとしてゐる。驛を出て神橋に向ふ爪先上りの街路の兩側は、土産物を鬻ぐ商賈と旅舎とであつて、町は内外の遊覽者夏ならば殊に避暑客で賑つてゐる。

**神橋** 日光町の盡くる處一奔流西より來つて東に去るもの即ち大谷川で、下流は鬼怒川に入つてゐる。左手遠からず架せる朱塗擬寶珠の一橋が即ち有名な神橋で、綠樹碧水を配して燦たる有様先づ人目を驚かす。日光の結構は實に此處に始るのである。

長さ十五間、幅四間、擬寶珠を飾る親柱十本。古、山菅の蛇橋といつたのは、天平神護の昔當國の名僧勝道上人が始めて此處を渡らんとした時蛇が橋となつて上人を渡したのに基づくといふ。

**輪王寺** 大谷川を渡り、長坂を上つて東照宮に詣らんとする右手にある。古の日光門跡

日光三社の本地佛を安置する三佛堂、寛永十二年僧天海の創建に係る相輪塔がある。(靈廟の觀覽券を賣る場所及び案内者の溜所が此の境内にある)。

**東照宮** 老杉森々たる幽境石の鳥居(黒田長政の献納、花崗岩造り、總高さ三丈、柱の直徑三尺七寸、東照大權現の額は後水尾天皇の宸翰)を入れれば、左に五重塔(高さ十丈五尺、文政元年の建築)更に表門を入り、三神庫(校倉造り)御水屋等を過ぎると、音に聞く陽明門、大内裏にのみ存せし門名を此處にも特に賜りし畏さ。高さ三丈七尺、四方唐破風造り、後陽成天皇の宸翰たる金字の額を正面に拜し、探幽の筆に成る昇龍降龍の天井畫を仰ぎ、其の精細なる彫刻燦爛たる彩色を些細に觀覽すれば、けに日も暮れるであらう。さて内院に入れば左に神輿舎、右に神樂殿、正面に唐門(破風上に恙蟲を飾り付く)、唐門より左右に延びた瑞籬は本殿及び拜殿を圍んでゐる。拜殿は結構殊に壯麗目もあやなる許り、格天井に畫かれた丸龍、承塵の三十六歌仙の額等皆稀代の珍、本殿は中央に家康公、左右に秀吉公及び信長公の靈を祀つてある。(通常公開されぬが金五圓を納めると拜觀が出来る)。

唐門から左して奥の院に詣る途中廻廊の潜門上の眠猫は左甚五郎の作として名高いもの



## 日光附近

奥の院は二百四段の石階の上にあり、寶塔内に家康公の遺骨を納む。

廟は三代將軍家光の寛永十三年に落成したもの。今別格官幣社に列してゐる。社殿全部は特別保護建造物に列し、寶物館内陳列の刀劍六口及び東照宮縁起五卷は國寶となつてゐる。

## 二荒山神社

東照宮の西一町許りにある國幣中社、往古勝道上人當山開創の際二荒山神を鎮祭したのに始るといふ。本殿と拜殿とは特別保護建造物、境内の有名な化燈籠と太刀七口とは國寶となつてゐる。當社の奥宮は男體山の山頂に、中宮祠は其の麓中禪寺湖畔にある。

## 大猷院廟

二荒神社の西にある。仁王門・御寶庫、御手洗屋・二天門・夜叉門・唐門・拜殿・本殿・皇嘉門・奥院等結構東照宮と伯仲し、亦善美を極めてゐる。

## 華嚴瀧

靈廟から大谷川に沿うて徒歩上行けば山水の美は一步は一步より加つて來る。但し中禪寺まで四里、急ぐ旅客は中途の馬返しまで電車を利用するがよい。

馬返しで電車を降り、名物力餅に英氣を加へて進めば、峨々たる懸崖道を壓して迫り、水勢は愈々激して淙々たる聲耳朶に滿つ。十數町にして深澤を過ぎ、劍ヶ峰に至れば、右方谷を隔て、般若(右)方等(左)の二瀑の懸るを見る。此のあたり紅葉の頃は特に美觀である。

中茶屋から顧みた大谷川峡谷の光景は雄大を極め、遙か右方には絲の如き阿含の瀧を望む。不動坂を登りつむれば、其處には一面白樺の生ひ茂る高原大平が開けてゐる。往昔湖底の一部であつたと聞くのもさこそとうなづかれる。坦々たる道路を爪先さがりに行けばやがて遠雷の如き響の聞ゆるものは、實に七十二瀧中の最たる華嚴の瀧のそれである。響をたよりに道を左折すれば、一二町にして直下四十丈の其の壯觀を望むべく、更に懸崖を攀ちて瀑底に下れば九天より落つる其の雄絶な姿を完全に仰ぐことが出来る。鞆鞆たる響は百雷の一時に落つるが如く、神魂爲に奪はれ、濛々たる水煙に衣袂は忽ち霑ほされる。

而して中部集灰岩の層(上部は熔岩、下部は石英斑岩)から落下する所謂華嚴の十二瀧

## 日光附近



日光二(中禪寺)

は、中禪寺湖水の大壓力を以て其の湖心から此の粗鬆な岩石の層を通して排水せられる一種の地下排水して見るべきものであつて、亦此の大瀑の趣致を添へることが大である。

**中禪寺湖** 華嚴の瀧を後にして大平を更に進めば、白樺の樹林の間から次第に男體の雄姿が隠顯して来る。愈々進めば華嚴の上流排水河の發する處に一大明鏡と澄む湖水が展開して来る。いふまでもなく中禪寺湖である。湖水は海拔實に四千三百四十尺の處にあり、東西一里二十六町、南北十一町乃至二十六町、湖底の大部分は百米等深線を以て圍まれ、其の最深點は百七十一米に及んでゐる。

男體の優姿を始め四圍の峰巒を碧水上に倒映する狀眞に一幅の畫景である、更に小舟に乘じて湖上に浮はんか、身自ら畫中に入つて羽化登仙の思あり、殊に霜葉紅に染む頃は只々恍忽として其の美觀に酔ふのみである。

此の湖水往古は廣く湖畔の平地を涵し、北方の戰場ヶ原、西方の千手ヶ原等も其の湖底たりし時代あり、千手ヶ瀆から約一里の上流なる西湖も此の湖水の一部を成したと稱せられ、又此の湖の成因は男體山の活動によつて其の流出せる熔岩が大谷川と連つて居つた大窪地を東西に二分し、其の西部に次第に水を溜溜したものであるとせられる今日の學説を信ずれば、今更ながら自然力の偉大なるに驚歎せざるを得ない。海拔八千二百尺、今靜に湖の北岸を飾る男體の休火山、何時の世にか、しかく荒ぶりけんをつくづく眺め入られる。其の絶巔から下瞰する大觀に至つては又筆舌の及ばぬ所である。

山麓から西して菖浦ヶ瀆に至り地獄川に沿うて龍頭ヶ瀆を過ぐれば戰場ヶ原に出る。廣袤方一里に餘り、火山噴出の礫塊碎骨を以て蔽はれたる草原、荒涼として人寰を絶つ。三

## 鹽原、那須附近

本松の附近より顧る火山麓諸峯の姿はまた格別のものがある。林相亦變化して落葉松を多く見るに至る。更に進んで湯瀧より其の水源湯の湖を探り、北岸の湯元(硫黄泉)に至れば地は既に白根の東麓にして海拔五千尺、盛夏猶ほ暑氣を覺えず、其の浴室は陰曆四月八日開いて九月八日閉づる例である。

此の外白根・女峯・外山等諸峯の登山、霧降・裏見・慈觀等の諸瀑の探勝等遊覽の樂は盡くすべくもない。

旅館—日光町、金谷ホテル、日光ホテル、小西、會津屋等。

中禪寺、レーキサイドホテル、米屋、蔦屋等。

湯本、南間ホテル、米屋、釜屋等。

## 〔鹽原、那須附近〕

(鹽原温泉、那須温泉、  
那須國造碑)

## 概説

鹽原・那須の兩地は共に温泉を以て海内に著名である。兩温泉は栃木縣の北部にあり、活火山那須嶽を主峯とする那須火山脈の地方に當つて、南北凡そ八里東西五里乃至七里に亘る所謂那須野ヶ原の一隅に位し、其の西北山地に發源して東南に流れ何れも下流合して那珂川となる其の支流の流域を占めて、到る處地質學上の興味ある研究資料を提供してゐる。従つて又山水の風趣に富み、而も紅葉に躑躅に一段の美趣を添へ、加之各數里の地區に亘つて諸所温泉の湧出するあり、浴客の遊ぶものが甚だ多い。

而して兩温泉は何れも東京を距る數時間の東北本線の驛を隔ること更に各數里、之と連絡する交通機關は備つてゐるが、東京からはどうしても一夜泊りの行程である。併し天下の名泉、一度は其の勝を探るがよからう。

## 鹽原温泉

鹽谷郡鹽原町(上鹽原、中鹽原、下鹽原、湯本鹽原)にあつて、東北本線西那

須野驛(上野から四時三十九分、二圓十八錢)から西北五里乃至八里の間に散在してゐる。

西那須野から新鹽原まで、三里の間電車(五十分、八十錢)も自動車もある。而して新鹽原

## 鹽原、那須附近



鹽原温泉

から鹽原温泉の門戸大網温泉まで一里八町。

鹽原の地は葦根・鷓頂・佐飛の諸峯に圍繞せられる一大盤谷であつて、其の温泉は此の境域から流れ出る葦川の溪谷に添うて大網・福渡戸・鹽釜・鹽の湯・畑下戸・門前・古町・須卷・新湯・古湯本の十湯あり(挿圖参照のこと)、泉質は新湯(硫黄泉)を除く外凡て鹽類泉で温度百三十度内外、リウマチス婦人病・貧血症等に効がある。

右の中福渡戸は設備最も整ひ、大旅館軒を並べ又御用邸もあつて鹽原の中心を成し、他の各温泉との間には自動車・人力車の便がある。

葦川の溪谷は到る處奇巖・飛瀑の勝景あり、夙

に紅葉山人の金色夜叉によつて世に紹介せられて居るが、今是等の名勝を一々細説する餘裕がないから左に之を表示することとしよう。

龍門瀑、瀑下の淵は魚止と稱せられる、豪壯の景。

大網 兒ヶ淵、白雲洞に向つて溪流を遠望する景色は鹽溪第一と稱せられる。

左 靱、數十尺の斷崖、昔鹽原家忠那須資隆の兵を破つた天險。

天狗岩、高さ十餘丈、鹽原名所の一。

福渡戸 紅葉山、御料地、眺望佳、紅葉の勝地。

七つ岩、怪巖錯然たる所葦川之に激して湍となる。

高尾塚、遊女高尾の碑。

鹽釜 玉簾の瀬、水力電氣の貯水池の上にあり、瀬は玉簾をかけた如くである。

咆哮霹靂瀑 一名、雌雄瀧。

鹽の湯 雷霆瀑 七名瀑の一、高さ十五丈。

鹽原、那須附近